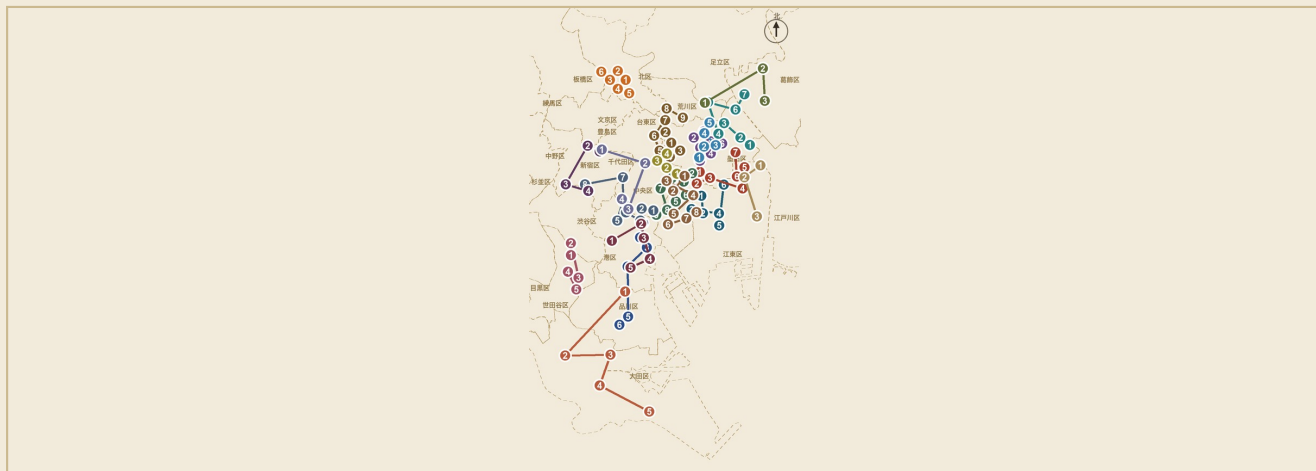


江戸名所百景

いまむかし散歩

歌川広重「名所江戸百景」に描かれた場所を、現在の地図・住所と見比べながら歩くための散歩ガイド。全19ルート+都外の番外編、117景を収録。



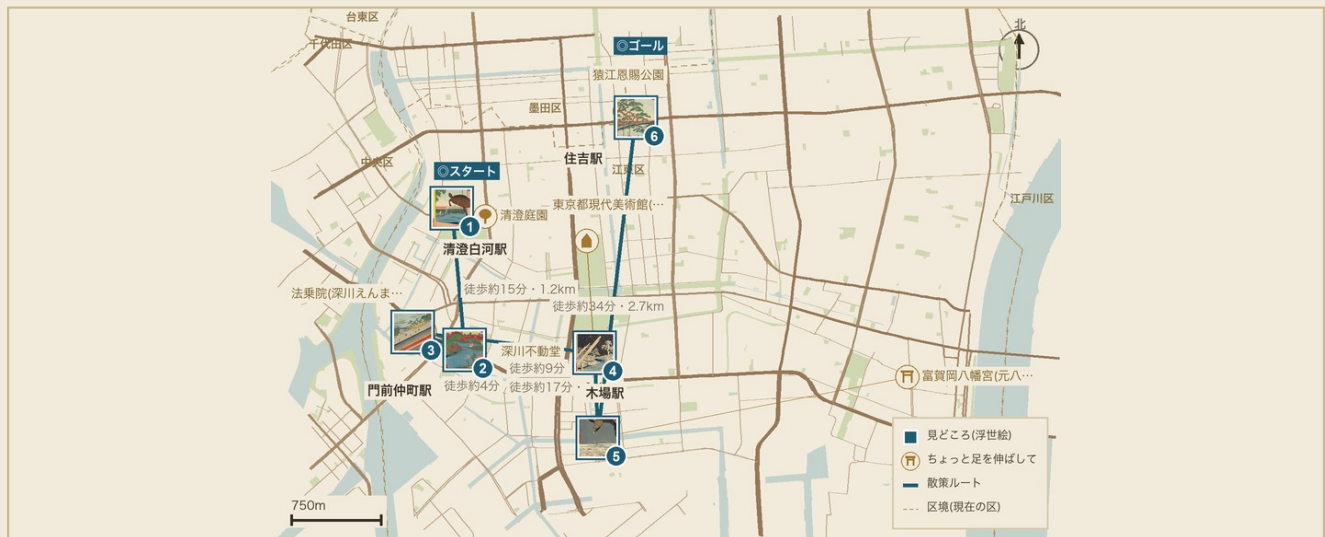
- **深川ルート 全6景**
都営大江戸線・東京メトロ東西線 門前仲町駅 → 東京メトロ東西線 木場駅(徒歩約3.5km)
- **本所・両国・亀戸ルート 全7景**
JR総武線・都営大江戸線 両国駅 → JR総武線・東武亀戸線 亀戸駅(徒歩約4.5km)
- **浅草ルート 全7景**
東京メトロ日比谷線 三ノ輪駅 → 都営浅草線・都営大江戸線 蔵前駅(徒歩約3.5km)
- **日本橋・京橋ルート 全9景**
東京メトロ日比谷線 小伝馬町駅 → 東京メトロ銀座線 銀座駅(徒歩約3.2km)
- **上野・谷中・根岸ルート 全9景**
JR 上野駅 → JR 西日暮里駅(徒歩約3.5km)
- **王子・飛鳥山ルート 全6景**
JR京浜東北線・東京メトロ南北線 王子駅 → 都電荒川線 飛鳥山駅(徒歩約2.8km)
- **品川・高輪ルート 全6景**
東京メトロ日比谷線 神谷町駅 → 京急本線 鮫洲駅(徒歩約5.5km)
- **目黒ルート 全5景**
東急東横線 中目黒駅 → 東急目黒線 不動前駅(徒歩約3.0km)
- **神田ルート 全4景**
JR・東京メトロ 神田駅 → JR 御茶ノ水駅(徒歩約2.2km)
- **赤坂・四谷ルート 全8景**
東京メトロ 虎ノ門駅 → 都営新宿線・丸ノ内線 新宿三丁目駅(徒歩約4.6km)
- **向島・墨田北ルート 全7景**
東武亀戸線・JR 小村井駅 → 京成本線 堀切菖蒲園駅(徒歩約7.4km)
- **日本橋・佃島・築地ルート 全8景**
都営新宿線・JR 馬喰町駅 → 東京メトロ 門前仲町駅(徒歩約5.5km)
- **芝・三田ルート 全5景**
東京メトロ 神谷町駅 → 都営浅草線 高輪台駅(徒歩約3.9km)
- **浅草・蔵前・駒形ルート 全5景**
都営浅草線 蔵前駅 → 東京メトロ・都バス 南千住・橋場方面(徒歩約2.6km)
- **千住・葛飾北部ルート 全3景**
京成本線・東京メトロ 千住大橋駅 → 京成押上線 四ツ木駅(徒歩約5.7km)
- **高田・西新宿ルート 全4景**
東京メトロ・都電荒川線 早稲田駅 → 都営大江戸線 都庁前駅(徒歩約3.9km)

図版タイトル・制作年は本田記念美術館「広重 名所江戸百景」展示リスト(2018)ほか公開資料を参照。現在地の住所・アクセスは公開情報にもとづき概算です。印刷は「倍率100%」を推奨します。

深川ルート

江東区(門前仲町・清澄白河・木場)

門前仲町から清澄白河・木場方面へ、深川の水辺の名所をたどるルート。



起点: 都営大江戸線・東京メトロ東西線 門前仲町駅

終点: 東京メトロ東西線 木場駅

徒歩距離目安: 約3.5km

順路

- ① 深川万年橋 → 万年橋 (滞在目安 約15分)
- ② 深川八まん山ひらき → 富岡八幡宮(通称・深川八幡宮) (滞在目安 約20分)
- ③ 深川三十三間堂 → 三十三間堂跡(建物は現存せず) (滞在目安 約5分)
- ④ 深川木場 → 木場公園 (滞在目安 約20分)
- ⑤ 深川洲崎十万坪 → 洲崎神社 (滞在目安 約10分)
- ⑥ 小奈木川五本まつ → 小名木川五本松(碑・復元) (滞在目安 約5分)

[この順路でGoogleマップの徒歩ルートを開く](#) →

エリアのグルメ



深川めし(深川丼・あさりめし)

深川宿 富岡八幡店

あさりと葱を味噌または醤油ベースの汁でぶっかける、漁師町ならではの一杯飯。船の上でも手早くかき込めるよう生まれた、いわば江戸の「ファストフード」でした。富岡八幡宮の境内に店を構える。

江東区富岡1-23-11 富岡八幡宮境内

適切なライセンスの写真が見つからなかったため未掲載です

甘味・和菓子

深川伊勢屋 本店

明治40年(1907)創業、深川不動堂の参道にある老舗和菓子店。名物の団子や、深川名物あさりめしも味わえる、地元で長く愛されてきた一軒。

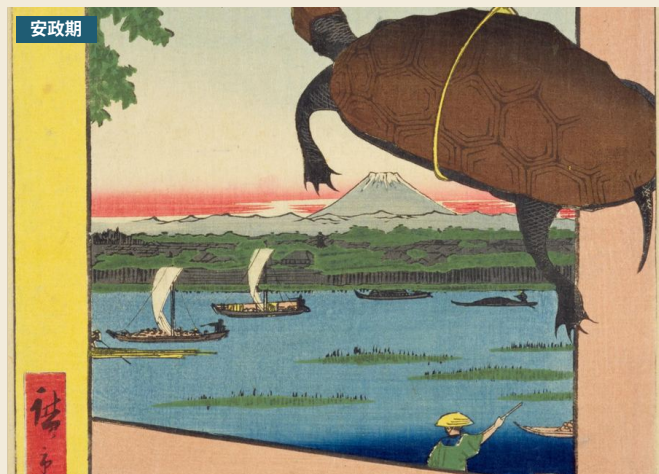
江東区富岡1-8-12

1

深川万年橋

Mannen Bridge, Fukagawa

安政4年(1857)11月 / No.32(太田記念美術館リスト番号)



安政期



いま

歌川広重「名所江戸百景 深川万年橋」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)

Photo by jmho, Wikimedia Commons(Public Domain)

浮世絵を読み解く

橋の欄干からぶら下がる亀に目を凝らしてください。ただの亀ではなく、放生会(ほうじょうえ)で川へ逃がすために売られていた「商品」です。「鶴は千年、亀は万年」——万年橋の名にかけた広重お得意の洒落で、亀の甲羅越しにちゃっかり富士山まで覗かせる、江戸っ子好みの一枚。

最寄り駅: 都営大江戸線 清澄白河駅から徒歩7分 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

深川万年橋

いまの場所

万年橋

江東区清澄1丁目・常盤1丁目(小名木川が隅田川に注ぐ地点)

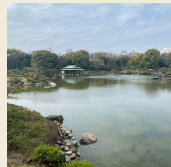
歴史

橋のすぐそばには、俳人・松尾芭蕉が晩年を過ごした芭蕉庵の跡地(芭蕉稲荷神社)があります。あの「古池や蛙飛びこむ水の音」も、実はこの界隈で詠まれたという説があるほど。今の橋は関東大震災からの復興橋(昭和5年/1930)で広重が見た橋そのものではありませんが、水と橋のある風景と芭蕉ゆかりの地という空気は、160年以上経った今もちゃんと息づいています。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

清澄庭園

徒歩7分ほど



三菱財閥の創業者・岩崎弥太郎が、社員の慰安や賓客のおもてなしのために造った回遊式庭園。大小の名石を池に配した「磯渡り」が名物で、水辺つながりで足を延ばすのにぴったり。

この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://www.nippon.com/ja/guide-to-japan/gu004043/>

2

深川八まん山ひらき

Open Garden at Fukagawa Hachiman Shrine

安政4年(1857)8月 / No.13(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 深川八まん山ひらき」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Guilhem Vellut, Wikimedia Commons(CC BY 2.0)

浮世絵を読み解く

年に一度だけ扉が開く、特別公開の庭。富岡八幡宮の別当寺・永代寺の庭園は普段は非公開でしたが、弘法大師の命日法会にあわせて「山ひらき」として開放されました。ツツジやハナカイドウが咲き乱れる池端を、花見客でごったがえす一大イベントとして広重は描いています。

最寄り駅: 東京メトロ東西線 門前仲町駅から徒歩4分 滞在目安: 約20分

広重が描いた場所

深川八まん山ひらき

いまの場所

富岡八幡宮(通称・深川八幡宮)
江東区富岡1-20-3

歴史

この八幡様、実はある偉業の出発点でもあります。日本地図を作った測量家・伊能忠敬は、すぐ近くの深川黒江町(現・門前仲町1丁目)に暮らし、蝦夷地(北海道)へ向かう第一歩となった寛政12年(1800)の測量旅行をはじめ、10回の旅の出発前には必ずここで無事を祈願しました。2001年に建てられた境内の伊能忠敬像は、まさにその「出発の一步」を再現した姿です。広重が描いた永代寺の庭園自体は明治の廃仏毀釈で失われましたが、8月の例大祭「深川八幡祭り」は江戸三大祭のひとつとして今も健在です。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

深川不動堂

徒歩1分

成田山新勝寺の東京別院で、富岡八幡宮のすぐ隣。護摩祈祷の太鼓と読経が絶えない、下町らしい熱気のあるお寺です。



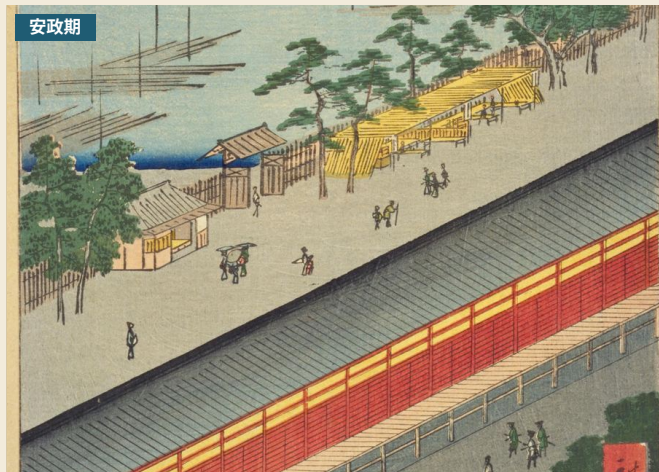
[この場所をGoogleマップで見る →](#)

3

深川三十三間堂

Hall of Thirty-Three Bays, Fukagawa

安政4年(1857)8月 / No.91(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 深川三十三間堂」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)

Photo by Tak1701d, Wikimedia Commons(Public Domain)

浮世絵を読み解く

京都の三十三間堂をそっくり移築した、スケールの大きい話。名物は本堂の軒下を矢で射通す「通し矢」競技で、若者たちが丸一日かけて矢数を競いました。

最寄り駅: 門前仲町駅から徒歩8分 滞在目安: 約5分

広重が描いた場所

深川三十三間堂

いまの場所

三十三間堂跡(建物は現存せず)

江東区富岡2丁目付近

歴史

元禄16年(1703)、この地で驚異の記録が生まれました。石川美作守の家臣・梶川勝蔵という、なんと12歳の少年が一昼夜で1万本以上(10,011本)もの矢を射通したのです。そんな熱気に包まれたお堂も、元禄14年(1701)の移築から明治5年(1872)の解体まで170年ほどの命。今では跡地はごく普通の住宅地で、通し矢の熱気を伝えるのは小さな碑ひとつだけです。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

法乗院(深川えんま堂)

徒歩5分ほど

高さ3.5mの巨大な閻魔大王像が本尊。賽銭を投げ入れると、願い事の種類のに応じて100種類以上のお告げをしてくれる、ちょっと変わったお寺です。



この場所をGoogleマップで見ると →

浮世絵原画・解説: https://koto-kanko.jp/tourism/detail_spot.php?sid=S00104

4

深川木場

Fukagawa Lumberyards

安政3年(1856)8月 / No.24(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 深川木場」 国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Kentin, Wikimedia Commons(CC BY-SA 3.0)

浮世絵を読み解く

雪の日、材木を組んだ筏の上を身軽に渡り歩く木場の職人。足場も命綱もない丸太の上を平然と歩く姿は、現代人からすると目眩がする曲芸すれすれの日常風景でした。

最寄り駅: 東京メトロ東西線 木場駅から徒歩5分 滞在目安: 約20分

広重が描いた場所

深川木場

いまの場所

木場公園

江東区木場4丁目・平野4丁目 一帯

歴史

この材木の町を語る上で欠かせないのが、豪商・紀伊国屋文左衛門。元禄期に幕府御用達の材木商として巨万の富を築き、店を深川に移して今の木場の礎を築いたとも言われる伝説の人物です。吉原を一晩借り切って豪遊した、大坂で疫病が流行ると聞くや江戸中の塩鮭を買い占めて相場を動かした、といった破天荒な逸話に事欠きません。晩年は深川一の鳥居近くでひっそり暮らしたとか。その木場も、貯木場は昭和末に新木場へ移転し、水面の多くは埋め立てられて木場公園になりました。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

東京都現代美術館(MOT)

木場公園内

木場公園の中にある、日本最大級の現代美術の美術館。広い公園を歩いたあとにアートで一息つきのにちょうどいい距離です。



[この場所をGoogleマップで見る →](#)

5

深川洲崎十万坪

Fukagawa Susaki Jū mantsubo

安政4年(1857)閏5月 / No.25(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 深川洲崎十万坪」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Mizushimasea, Wikimedia Commons(CC BY-SA 4.0)

浮世絵を読み解く

雪の舞う空から、一羽の鷺が獲物めがけて急降下する——静止した一枚の絵に、これほどの躍動感を詰め込んだ広重の技巧に脱帽です。海側から見下ろす鳥瞰構図で、荒涼とした埋立地の冬景色を描いています。

最寄り駅: 木場駅から徒歩2分 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

深川洲崎十万坪

いまの場所

洲崎神社

江東区木場6-13-13

歴史

初日の出や月見、潮干狩りを楽しむ行楽地として賑わったこの一帯は、寛政3年(1791)の大津波で一変。壊滅的な被害を受け、以来長らく人の住めない土地になりました。今も残る洲崎神社の「波除碑」が、その教訓を静かに伝えています。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

富岡八幡宮(元八幡)

徒歩15分ほど

富岡八幡宮の「本家」を名乗る、通称「元八幡」。深川の八幡様のルーツをたどりたい人向けの、少し足を伸ばした先にある穴場です。



この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://susakijinja.or.jp/>

6

小奈木川五本まつ

Five Pines, Onagi Canal

安政3年(1856)7月 / No.89(太田記念美術館リスト番号)



現地は小さな碑と復元の松のみで、著作権フリーで使える適切な現地写真が見つからなかったため未掲載です

歌川広重「名所江戸百景 小奈木川五本まつ」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)

浮世絵を読み解く

実はまっすぐな小名木川を、広重はわざと大きく湾曲させて描きました。理由は単純、その方が五本松の枝ぶりが映えるから。塩を運ぶ行徳船が松の枝の下をくぐり抜ける、演出過剰気味だけど憎めない一枚です。

最寄り駅: 都営新宿線 住吉駅から徒歩12分 滞在目安: 約5分

広重が描いた場所

小奈木川五本まつ

いまの場所

小名木川五本松(碑・復元)

江東区猿江2-16

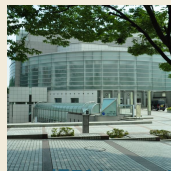
歴史

この松、なんと8代将軍・徳川吉宗のお墨付きでした。九鬼家の屋敷から川面に張り出した見事な枝ぶりを吉宗が褒めたことから江戸中の評判となったと伝わります。松尾芭蕉もこの木陰に舟を停め、「川上とこの川しもや 月の友」の句を残しました。将軍と俳聖、両方に愛されたこの松は明治末に一度枯れましたが、昭和63年(1988)に現在地で復活。80年越しの里帰りを果たしました。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

猿江恩賜公園

碑は公園内にあります



五本松の碑が実際に立っている、広い都立公園。かつて材木蔵があった場所で、木場と並ぶ深川の「木の町」としての歴史を今に伝えます。

この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://www.city.koto.lg.jp/103020/bunkasports/bunka/bunkazaisiseki/shiseki/16075.html>

本所・両国・亀戸ルート

墨田区(両国) → 江東区(大島・亀戸)

両国橋周辺から北東へ、旧本所・亀戸方面の名所をたどるルート。



起点: JR総武線・都営大江戸線 両国駅

終点: JR総武線・東武亀戸線 亀戸駅

徒步距離目安: 約4.5km

順路

- ① 両ごく回向院元柳橋 → 回向院 (滞在目安 約15分)
- ② 両国橋大川ばた → 両国橋 (滞在目安 約10分)
- ③ 両国花火 → 隅田川花火大会(会場は移動) (滞在目安 約5分)
- ④ 五百羅漢さるゝ堂 → 羅漢寺(名跡のみ。名所江戸百景当時の五百羅漢像は現・天恩山五百羅漢寺(目黒区)へ移転) (滞在目安 約10分)
- ⑤ 亀戸天神境内 → 亀戸天神社 (滞在目安 約20分)
- ⑥ 亀戸梅屋舗 → 梅屋敷跡の碑(北十間川沿い) / 亀戸梅屋敷(観光施設) (滞在目安 約15分)
- ⑦ 柳しま → 法性寺(柳嶋妙見堂)・十間橋周辺 (滞在目安 約10分)

この順路でGoogleマップの徒歩ルートを開く →

エリアのグルメ



ちゃんこ鍋
ちゃんこ 川崎

元力士が暖簾を掲げた、昭和12年創業のちゃんこ鍋の老舗。鶏がら出汁の「ソップ炊き」を守り続け、ミシュランガイド東京でビブグルマンの常連という隠れた名店です。

墨田区両国2-13-1



亀戸餃子
亀戸餃子 本店

メニューは餃子のみ、という潔さで勝負する専門店。亀戸駅北口を出てすぐ、行列必至の人気ぶりです。

江東区亀戸5-3-3



くず餅
船橋屋 亀戸天神前本店

文化2年(1805)創業、実に450日もかけて
発酵させる「発酵くず餅」の元祖。亀戸天
神にお参りしたら、ここに寄らずに帰るの
はもったいない老舗です。

江東区亀戸3-2-14

1

両ごく回向院元柳橋

Ek ō in Temple, Ry ō goku and Moto-Yanagibashi Bridge

安政4年(1857)閏5月 / No.41(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 両ごく回向院元柳橋」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)

Photo by Morio, Wikimedia Commons(CC BY-SA 3.0)

浮世絵を読み解く

高さ約17メートル、ビル5階分はある巨大な櫓太鼓——相撲の本場所開催を知らせるこの櫓を手前に大きく配し、隅田川越しに兩岸の町並みと富士山を見渡す俯瞰構図。安政4年(1857)は前年の大地震・台風から立ち直る途中の年で、広重は相撲という「日常が戻ってきた」象徴に、江戸の人々への応援歌を重ねたとされています。

最寄り駅: JR両国駅から徒歩3分 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

両ごく回向院元柳橋

いまの場所

回向院

墨田区両国2-8-10

歴史

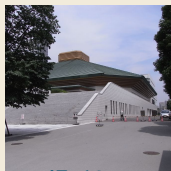
明暦の大火(1657)の無縁仏を弔うために建てられた回向院では、江戸勧進相撲が年2回の恒例行事として開催されました。生涯成績254勝10敗、勝率9割6分という空前絶後の記録を残し「史上最強の力士」とも称される雷電為右衛門も、21年の現役生活でこの土俵に何度も上がっています。ここが今の相撲・両国国技館へとつながる系譜の原点です。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

両国国技館

徒歩5分ほど

大相撲の本場所が開かれる、相撲の殿堂。回向院の勧進相撲から続く歴史の「今」を見に行けます。

[この場所をGoogleマップで見る →](#)浮世絵原画・解説: <https://www.nippon.com/ja/guide-to-japan/gu004104/>

2

両国橋大川ばた

Ryōgoku Bridge and the Great Riverbank

安政3年(1856)8月 / No.99(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 両国橋大川ばた」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン) Photo by Ryu ohsako, Wikimedia Commons(CC BY-SA 4.0)

浮世絵を読み解く

両国広小路からの俯瞰で、両国橋を画面中央に据え、隅田川上流や本所・向島方面を望む大胆な構成。旧暦5月28日から8月28日までの夕涼み期間、火除け地に立ち並んだ葦簀張りの茶屋や見世物小屋で賑わう、江戸一番の夏の盛り場の光景が描かれています。

最寄り駅: JR/都営 両国駅から徒歩5分 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

両国橋大川ばた

いまの場所

両国橋

西岸: 中央区東日本橋2丁目 / 東岸: 墨田区両国1丁目

歴史

この橋が架けられたきっかけは、江戸史上最大の大火・明暦の大火(1657)。恋煩いで亡くなった娘の振袖を焼いた寺の炎が強風で燃え広がった、という「振袖火事」の伝説でも知られるこの大火では、逃げ場を失った人々が隅田川に阻まれて命を落としました。その教訓から架けられたのが両国橋。悲劇から生まれた橋が江戸一番の歓楽街に育つという、たくましいサクセスストーリーです。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

すみだ北斎美術館

徒歩5～9分

両国生まれの浮世絵師・葛飾北斎の美術館。広重のライバルであり、この先の五百羅漢さるゐ堂を違う角度から描いた北斎の仕事をまとめて見られます。



この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://www.nippon.com/ja/guide-to-japan/gu004068/>

3

両国花火

Fireworks at Ryōgoku

安政5年(1858)8月 / No.113(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 両国花火」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by てんどん, Wikimedia Commons(CC BY 2.1 Japan)

浮世絵を読み解く

夜空の花火と、それを見上げる無数の屋形船・涼み船で埋め尽くされた隅田川。写真もSNSもない時代、この一瞬の輝きをどう伝えるか——広重が選んだ答えが、この賑やかな水面の一枚でした。

最寄り駅: 両国橋周辺 / 会場は浅草・蔵前方面 滞在目安: 約5分

広重が描いた場所

両国花火

いまの場所

隅田川花火大会(会場は移動)

現在の主会場は両国橋よりやや上流の浅草・駒形橋～厩橋周辺、桜橋～言問橋周辺

歴史

始まりは享保18年(1733)、8代将軍・徳川吉宗の命による「両国川開き」。前年の享保の大飢饉と疫病で亡くなった人々の慰霊と厄除けを願って打ち上げられた鎮魂の花火が、いつしか江戸随一の納涼イベントに育ちました。昭和36年(1961)に一旦中断し、昭和53年(1978)に隅田川花火大会として復活しましたが、会場は両国から上流の浅草方面へ移りました。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

江戸東京博物館

徒歩1～3分

2026年3月末に4年越しのリニューアルオープンをしたばかりの、江戸から東京への歴史をまるごと体感できるミュージアム。ちょうど今、行くのに良いタイミングです。



この場所をGoogleマップで見える →

浮世絵原画・解説: <https://www.sumidagawa-hanabi.com/about/>

4

五百羅漢さゝる堂

Spiral Hall, Five Hundred Rakan Temple

安政4年(1857)8月 / No.88(太田記念美術館リスト番号)



安政期



いま

歌川広重「名所江戸百景 五百羅漢さゝる堂」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン) Photo by あばさー, Wikimedia Commons(Public Domain)

浮世絵を読み解く

サザエの殻のように、内部がぐるぐる三層のらせん状になった変わり種のお堂。上りきった最上階からは江戸の町並みが一望でき、あの葛飾北斎までもがこの絶景に魅せられて絵にしたほどの人気展望スポットでした。

最寄り駅: 都営新宿線 西大島駅すぐ 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

五百羅漢さゝる堂

いまの場所

羅漢寺(名跡のみ。名所江戸百景当時の五百羅漢像は現・天恩山五百羅漢寺(目黒区)へ移転)
江東区大島3-1-8

歴史

「本所のらかんさん」として親しまれたこのお寺は、たび重なる水害に見舞われて衰退。明治42年(1909)、五百羅漢像ごと目黒へ引っ越してしまいました(現在の天恩山五百羅漢寺)。今の場所には後から別のお寺(羅漢寺)が入居している、いわば「テナントが入れ替わった」状態です。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

大島稻荷神社



松尾芭蕉が詠んだ句の碑「女木塚碑」が残る神社。津波の記憶と、芭蕉ゆかりの土地としての顔をあわせ持ちます。

少し足を伸ばして

この場所をGoogleマップで見ると →

浮世絵原画・解説: <https://www.city.koto.lg.jp/103020/bunkasports/bunka/bunkazaisiseki/shiseki/16117.html>

5

亀戸天神境内

Inside Kameido Tenjin Shrine

安政3年(1856)7月 / No.21(太田記念美術館リスト番号)



安政期



いま

歌川広重「名所江戸百景 亀戸天神境内」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)

Photo by Takuro1202, Wikimedia Commons(CC BY-SA 3.0)

浮世絵を読み解く

太鼓橋を、恐る恐る手をつないで降りる母子——広重は名所の建物だけでなく、そこに暮らす人々の何気ない一瞬もちゃんと拾い上げています。境内の藤棚と合わせ、春の亀戸天神の華やかさを伝える一枚です。

最寄り駅: JR/東武亀戸線 亀戸駅から徒歩15分、または錦糸町駅からバス 滞在目安: 約20分

広重が描いた場所

亀戸天神境内

いまの場所

亀戸天神社

江東区亀戸3-6-1

歴史

祀られているのは学問の神様・菅原道真。平安時代の右大臣でありながら政争に敗れて九州・太宰府に左遷され、失意のうちに没した後、都で災いが相次いだため「祟り」を鎮めるべく神格化されたという、なかなかドラマチックな経歴の持ち主です。社殿の造りが太宰府天満宮そっくりなことから「東宰府天満宮」の別名も。広重が描いた太鼓橋と藤棚は、今も春の藤まつりの時期にほぼ同じ姿で参拝者を迎えています。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

亀戸香取神社

徒歩10分ほど



「スポーツ振興の神様」として、多くのアスリートが必勝祈願に訪れる神社。亀戸天神からさらに足を延ばす価値あります。

[この場所をGoogleマップで見ると](#)浮世絵原画・解説: <https://www.nippon.com/ja/guide-to-japan/gu004001/>

6

亀戸梅屋舗

Plum Park in Kameido

安政4年(1857)11月 / No.2(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 亀戸梅屋舗」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Souka Kinmei, Wikimedia Commons(CC0)

浮世絵を読み解く

地を這う龍のような枝ぶりから「臥龍梅」と呼ばれた奇木を、画面いっぱいにクローズアップ。この思い切った構図に世界が反応し、印象派の巨匠ゴッホがわざわざ油絵で模写したことも有名です。名所江戸百景の中でも、海外での知名度はナンバーワンかもしれません。

最寄り駅: 亀戸駅北口から徒歩5分 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

亀戸梅屋舗

いまの場所

梅屋敷跡の碑(北十間川沿い) / 亀戸梅屋敷(観光施設)

碑: 江東区亀戸3丁目 北十間川沿い / 観光施設: 江東区亀戸4-18-8

歴史

「臥龍梅」の名付け親は、あの水戸黄門こと徳川光圀と伝わります。庭を訪れた光圀が、地面を這うような枝ぶりを見て「まるで龍が伏せているようだ」と名付けたのだとか。将軍家ゆかりの銘木も、明治43年(1910)の水害であっけなく失われましたが、跡地には碑が、少し離れた場所には「亀戸梅屋敷」という観光施設が作られ、往時の記憶を今に伝えています。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

龍眼寺(萩寺)



亀戸梅屋敷の交差点のすぐ向かい。江戸時代から「萩寺」として親しまれ、秋には百種の萩が咲き誇ります。亀戸七福神の布袋尊も祀られています。

交差点の向かい

[この場所をGoogleマップで見る →](#)

浮世絵原画・解説: <https://www.nippon.com/ja/guide-to-japan/gu004030/>

7

柳しま

Yanagishima

安政4年(1857)4月 / No.56(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 柳しま」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Kentin, Wikimedia Commons(CC BY-SA 4.0)

浮世絵を読み解く

北十間川と横十間川が交わる柳島の一角、料亭「橋本」の灯りと、木々に隠れた妙見堂を描いた一枚。奥には筑波山ものぞく、のどかな郊外風景です。

最寄り駅: 東京メトロ半蔵門線・京成押上線 押上駅から徒歩8分 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

柳しま

いまの場所

法性寺(柳嶋妙見堂)・十間橋周辺
墨田区業平5丁目

歴史

柳島は葛飾郡柳島村にちなむ地名で、柳島の妙見様として親しまれた法性寺(柳嶋妙見堂)が今も墨田区業平に残ります。すぐそばの十間橋からは、川面に映る「逆さスカイツリー」が人気の撮影スポットに。安政4年(1857)4月の作。

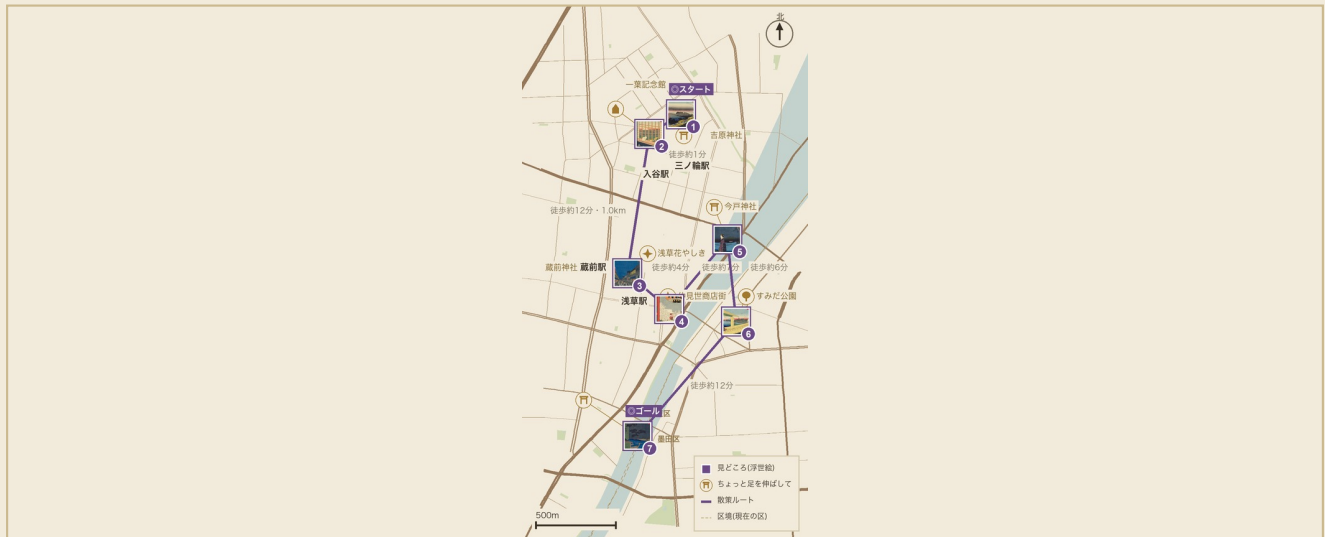
[この場所をGoogleマップで見る →](#)

浮世絵原画・解説: [https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9F%B3%E5%B3%B6_\(%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E9%83%BD\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9F%B3%E5%B3%B6_(%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E9%83%BD))

浅草ルート

台東区(千束・浅草・蔵前)

吉原・鷺神社のあたりから浅草寺・隅田川沿いを通り、蔵前まで歩くルート。



起点: 東京メトロ日比谷線 三ノ輪駅

終点: 都営浅草線・都営大江戸線 蔵前駅

徒歩距離目安: 約3.5km

順路

- ① よし原日本堤 → 日本堤(通り名として名残) (滞在目安 約10分)
- ② 浅草田甫西の町詣 → 鷺神社 (滞在目安 約15分)
- ③ 猿わか町よるの景 → 猿若町跡(現・浅草6丁目、浅草演芸ホール周辺) (滞在目安 約10分)
- ④ 浅草金龍山 → 浅草寺・雷門 (滞在目安 約30分)
- ⑤ 真乳山山谷堀夜景 → 待乳山聖天(本龍院) (滞在目安 約15分)
- ⑥ 吾妻橋金龍山遠望 → 吾妻橋 (滞在目安 約10分)
- ⑦ 浅草川首尾の松御厩河岸 → 首尾の松(石碑・復元) (滞在目安 約10分)

[この順路でGoogleマップの徒歩ルートを開く →](#)

エリアのグルメ



電気ブラン 神谷バー

明治13年(1880)創業、日本で最初の洋風バー。ブランデーをベースにした名物カクテル「電気ブラン」は、電気が珍しかった時代に「新しいもの」の象徴としてこの名がつけました。

台東区浅草1-1-1



どぜう鍋 駒形どぜう

享和元年(1801)創業。どじょうを丸ごと甘辛く煮込む「どぜう鍋」一筋の老舗。畳に座って鍋をつつく、江戸の庶民の味そのままの食べ方が今も守られています。

台東区雷門周辺(駒形)



栗ぜんざい 浅草 梅園

安政元年(1854)創業、元祖あわせんざいの甘味処。浅草寺の塔頭「梅園院」の一角にあったのが店名の由来です。

台東区浅草1-31-12

1

よし原日本堤

Nihon Embankment and Yoshiwara

安政4年(1857)4月 / No.109(太田記念美術館リスト番号)



遊郭の名残を示す適切な現地写真が見つからなかったため未掲載です

歌川広重「名所江戸百景 よし原日本堤」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)

浮世絵を読み解く

吉原へと続く土手道「日本堤」を描いた一枚。駕籠に乗った客たちが、田んぼの中を一直線に延びる堤を進んでいく構図で、これから遊里へ向かう高揚感と、まわりの静かな田園風景の対比が印象的です。

最寄り駅: 東京メトロ日比谷線 三ノ輪駅から徒歩10分 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

よし原日本堤

いまの場所

日本堤(通り名として名残)

台東区日本堤・千束エリア

歴史

吉原はもともと日本橋人形町にありましたが、明暦の大火(1657)で焼け出されたのを機に、当時はまだ田んぼが広がるだけだったこの浅草の地へ移転しました。以後「新吉原」として、幕末まで200年以上にわたり江戸最大の遊里であり続けます。周囲を堀で囲み、出入り口は日本堤に面した大門ひとつだけという、逃亡を防ぐための閉ざされた作りでした。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

吉原神社

徒歩5分ほど

新吉原の四隅にあった稲荷社をまとめて祀る神社。花魁たちの参拝の記録も残る、遊里の守り神です。



[この場所をGoogleマップで見る →](#)

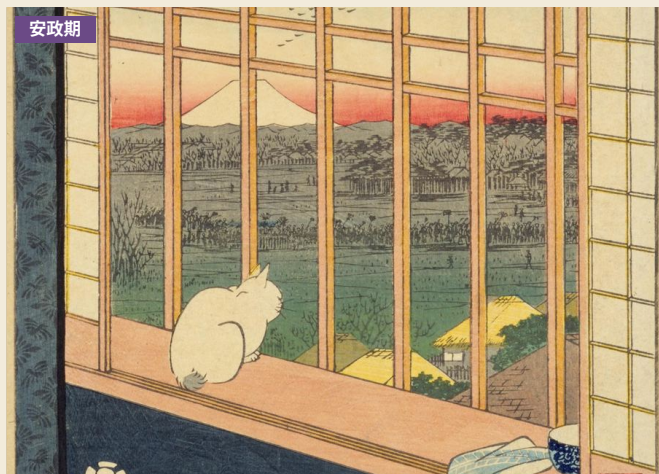
浮世絵原画・解説: [https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%90%89%E5%8E%9F_\(%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E9%83%BD\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%90%89%E5%8E%9F_(%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E9%83%BD))

2

浅草田甫酉の町詣

Asakusa Ricefields and Torinomachi Festival

安政4年(1857)11月 / No.5(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 浅草田甫酉の町詣」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Jerry fish tkc, Wikimedia Commons(CC BY-SA 3.0)

浮世絵を読み解く

吉原の見世(遊女屋)の二階から、田んぼ越しに鷺神社の「酉の市」へ向かう人々を見下ろす構図。窓辺には遊女の後ろ姿と衣紋掛けの着物が描かれ、遊郭の中から外の賑わいを眺めるといふ、少し切ない視点が特徴的です。

最寄り駅: 東京メトロ日比谷線 入谷駅から徒歩7分 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

浅草田甫酉の町詣

いまの場所

鷺神社

台東区千束3-18-7

歴史

鷺神社の「酉の市」は江戸時代から続く年中行事で、開運招福の縁起物「熊手」を売る屋台が、今も11月の酉の日に境内を埋め尽くします。このすぐ近くの竜泉という町は、のちに小説家・樋口一葉が「たけくらべ」の舞台とした場所でもあります。一葉自身、吉原のそばで荒物・雑貨屋を営みながらこの作品を書き上げました。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

一葉記念館

徒歩10分ほど



「たけくらべ」を書いた樋口一葉の資料を集めた記念館。一葉が実際にこの近くで暮らし、店を営んでいた縁の地に建っています。

[この場所をGoogleマップで見る →](#)

浮世絵原画・解説: https://www.fujibi.or.jp/our-collection/profile-of-works.html?work_id=9738

3

猿わか町よるの景

Night View of Saruwaka-machi

安政3年(1856)9月 / No.107(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 猿わか町よるの景」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Kentin, Wikimedia Commons(CC BY-SA 3.0)

浮世絵を読み解く

芝居小屋の看板行灯が夜空に浮かび上がる、猿若町の賑わいを描いた一枚。芝居がはねた後の高揚感と、江戸随一の芝居町の熱気が伝わってきます。

最寄り駅: 東京メトロ銀座線 浅草駅から徒歩10分 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

猿わか町よるの景

いまの場所

猿若町跡(現・浅草6丁目、浅草演芸ホール周辺)
台東区浅草6丁目

歴史

この町名は、江戸歌舞伎の創始者・猿若勘三郎(初代中村勘三郎、1624年に江戸で最初の芝居小屋を開いた人物)にちなみます。老中・水野忠邦による天保の改革(1841)で風紀を乱すとされた中村座・市村座などの芝居小屋が、まとめてこの地へ強制移転させられ「猿若町」と名付けられました。現在は住宅地ですが、一角には浅草演芸ホールが今も演芸の灯をともし続けています。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

浅草花やしき

徒歩5分ほど



この場所をGoogleマップで見る →

嘉永6年(1853)開園、日本最古の遊園地。当初は牡丹や菊細工を楽しむ花園として始まりました。170年以上経った今も現役です。

浮世絵原画・解説: <https://gekkan-asakusa.com/asakusa-rokku-geinouden28/2/>

4

浅草金龍山

Kinry ū zan Temple in Asakusa

安政3年(1856)7月 / No.9(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 浅草金龍山」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Tak1701d, Wikimedia Commons(CC BY-SA 3.0)

浮世絵を読み解く

雷門の大提灯と仁王門、五重塔を画面いっぱいに配し、白と朱の対比で浅草寺の門前を印象的に描いた一枚。広重晩年らしい大胆な構図で、江戸随一の観音霊場の風格を伝えています。

最寄り駅: 東京メトロ銀座線・都営浅草線 浅草駅から徒歩すぐ 滞在目安: 約30分

広重が描いた場所

浅草金龍山

いまの場所

浅草寺・雷門
台東区浅草2-3-1

歴史

浅草寺の始まりは推古天皇36年(628)、隅田川で漁をしていた檜前浜成・竹成の兄弟の網に観音像がかかり、里長の土師中知がこれを祀ったのが起源と伝わります。以来1400年近く「浅草観音」として親しまれ、雷門から本堂まで続く仲見世通りは、日本最古の商店街のひとつに数えられています。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

仲見世商店街

雷門から本堂まで徒歩5分

雷門から浅草寺本堂まで続く、日本最古級の商店街。人形焼きや雷おこしなど、食べ歩きのお店が軒を連ねます。



この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://www.nippon.com/ja/guide-to-japan/gu004025/>

5

真乳山山谷堀夜景

Night View of Matsuchiyama and the San'ya Canal

安政4年(1857)8月 / No.112(太田記念美術館リスト番号)



安政期



いま

歌川広重「名所江戸百景 真乳山山谷堀夜景」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)

Photo by あばさー, Wikimedia Commons(Public Domain)

浮世絵を読み解く

隅田川沿いの小高い丘・待乳山と、そこに注ぐ山谷堀の夜景を描いた一枚。山谷堀は吉原へ舟で向かう客たちの水路としても使われ、川面に映る灯りが夜の情緒を引き立てています。

最寄り駅: 都営浅草線・東武線 浅草駅から徒歩10分 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

真乳山山谷堀夜景

いまの場所

待乳山聖天(本龍院)

台東区浅草7-4-1

歴史

待乳山聖天(本龍院)は、推古天皇3年(595)にこの丘が一夜にして湧き出たという伝説を持つお寺です。祀られている歓喜天は夫婦和合や商売繁盛の神様とされ、お供えの大根と、財運を象徴する巾着が名物になっています。かつて舟で行き来した山谷堀は、今では埋め立てられて山谷堀公園という遊歩道になっています。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

今戸神社

徒歩5分ほど

招き猫発祥の地のひとつとされる神社。狛犬ならぬ一對の招き猫が出迎えてくれます。

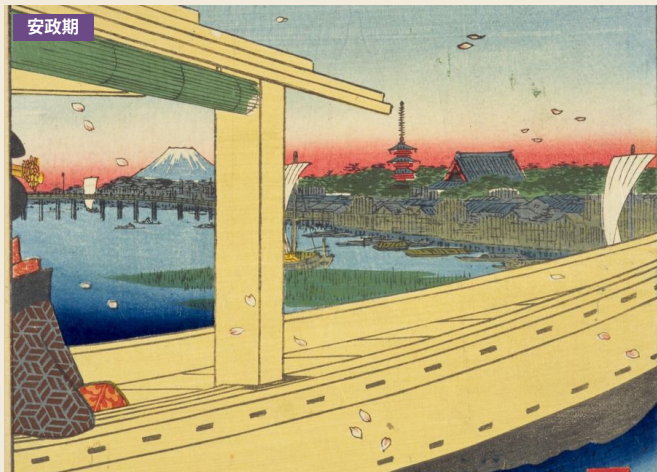
[この場所をGoogleマップで見る →](#)浮世絵原画・解説: <https://www.nippon.com/ja/guide-to-japan/gu004062/>

6

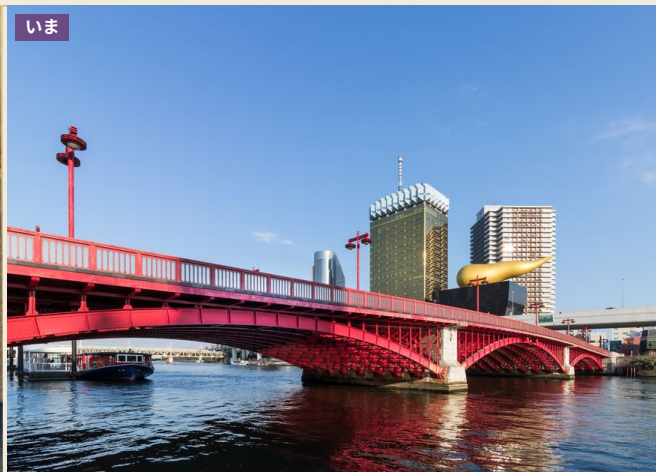
吾妻橋金龍山遠望

Distant View of Kinryūzan Temple and the Azuma Bridge

安政4年(1857)8月 / No.34(太田記念美術館リスト番号)



安政期



いま

歌川広重「名所江戸百景 吾妻橋金龍山遠望」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)

Photo by Kakidai, Wikimedia Commons(CC BY-SA 4.0)

浮世絵を読み解く

吾妻橋の上から隅田川越しに浅草寺(金龍山)を遠望する構図。橋を渡る人々の姿とともに、対岸に浮かぶ五重塔が江戸屈指の名所であったことを物語っています。

最寄り駅: 東京メトロ銀座線・都営浅草線 浅草駅から徒歩5分 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

吾妻橋金龍山遠望

いまの場所

吾妻橋

台東区花川戸1丁目・墨田区吾妻橋1丁目

歴史

吾妻橋は安永3年(1774)、町人たちの出資によって架けられた橋です。隅田川に公式な橋を架けることに幕府が慎重だった時代、江戸で最後発の大橋としてこの地に生まれ、当時は「大川橋」とも呼ばれていました。現在の橋は昭和6年(1931)に架け替えられたもので、対岸には東京スカイツリーを望むこともできます。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

すみだ公園

橋を渡ってすぐ

隅田川沿いに広がる公園。桜の名所としても知られ、対岸のアサヒビール本社や東京スカイツリーを一望できます。



この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://www.nippon.com/ja/guide-to-japan/gu004110/>

7

浅草川首尾の松御厩河岸

Pine of Success and Oumayagashi

安政3年(1856)8月 / No.111(太田記念美術館リスト番号)



松の跡地の石碑周辺で適切な現地写真が見つからなかったため未掲載です

歌川広重「名所江戸百景 浅草川首尾の松御厩河岸」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)

浮世絵を読み解く

御厩河岸のたもとに枝を広げる「首尾の松」越しに、満天の星と隅田川を行き交う舟を描いた一枚。すだれを下ろした屋根舟に人影がうっすらと浮かび、水辺の密やかな逢瀬を思わせる情緒的な構図です。

最寄り駅: 都営浅草線・都営大江戸線 蔵前駅から徒歩8分 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

浅草川首尾の松御厩河岸

いまの場所

首尾の松(石碑・復元)
台東区蔵前・隅田川沿い

歴史

「首尾の松」の名は、舟で吉原へ向かう客たちがこの松の下で今宵の首尾(遊びがうまくいくかどうか)を語り合ったことに由来すると伝わります。松のあった御厩河岸は、幕府の米蔵(浅草御蔵)に囲われた倉庫街・蔵前の一隅でした。現在は厩橋のたもとに石碑と復元の松が残るのみですが、蔵前は近年、紙や雑貨の店が集まるおしゃれな町として生まれ変わっています。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

蔵前神社

徒歩10分ほど



江戸時代、勧進相撲がここでも行われたと伝わる神社。蔵前が「もうひとつの相撲の町」だった記憶を今に伝えます。

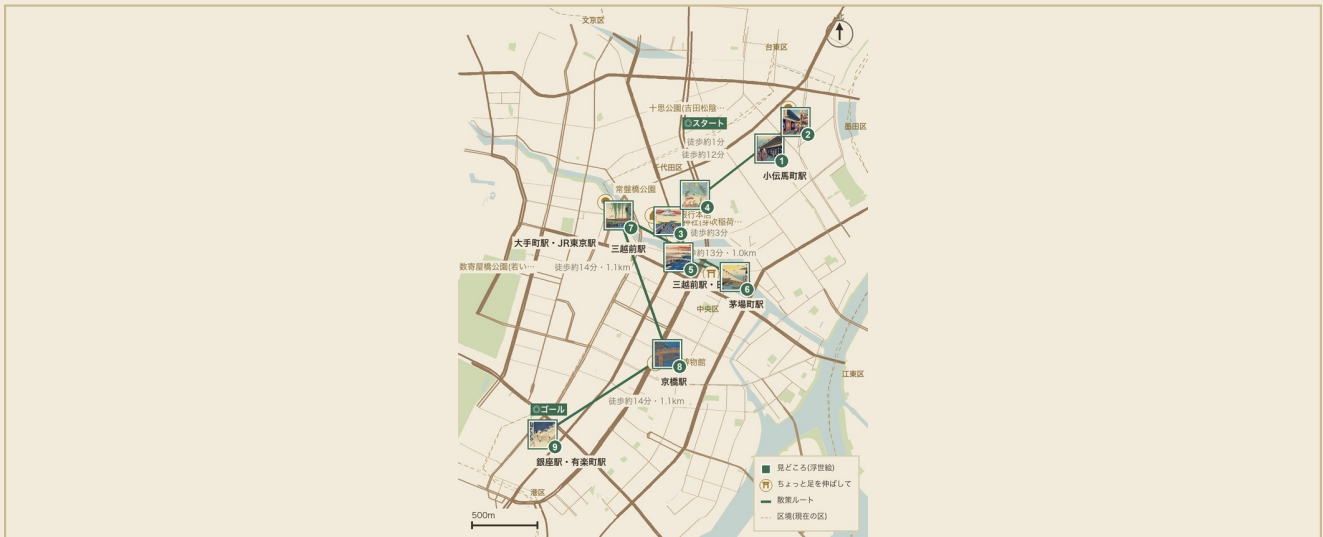
[この場所をGoogleマップで見る →](#)

浮世絵原画・解説: <https://www.nippon.com/ja/guide-to-japan/gu004045/>

日本橋・京橋ルート

中央区

小伝馬町駅から銀座・数寄屋橋まで、日本橋川沿いの老舗と橋の跡をめぐる散歩ルート。



起点: 東京メトロ日比谷線 小伝馬町駅

終点: 東京メトロ銀座線 銀座駅

徒步距離目安: 約3.2km

順路

- ① 大てんま町木綿店 → 日本橋大伝馬町 (滞在目安 約10分)
- ② 大伝馬町こふく店 → 日本橋大伝馬町 (滞在目安 約10分)
- ③ する賀てふ → 日本橋室町(三越前) (滞在目安 約15分)
- ④ 市中繁栄七夕祭 → 日本橋室町(コレド室町周辺) (滞在目安 約10分)
- ⑤ 日本橋雪晴 → 日本橋 (滞在目安 約15分)
- ⑥ 鎧の渡し小網町 → 鎧橋(日本橋小網町・兜町) (滞在目安 約10分)
- ⑦ ハツ見のはし → 一石橋 (滞在目安 約10分)
- ⑧ 京橋竹がし → 京橋 (滞在目安 約10分)
- ⑨ びくにはし雪中 → 数寄屋橋交差点 (滞在目安 約10分)

この順路でGoogleマップの徒歩ルートを開く →

エリアのグルメ



洋食(オムライス)

たいめいけん

昭和6年(1931)創業の洋食店。名物のオムライスは、初代が考案し二代目が広めた「タンポポオムライス」でも有名。日本橋室町に移転後も味を守り続けています。

中央区日本橋室町1-8-6

適切なライセンスの写真が見つからなかったため未掲載です

だし・鰹節

にんべん 日本橋本店

元禄12年(1699)創業、320年以上続く鯉節・だし専門店。日本橋という地名ができる前からこの地で商いを続けてきた、まさに生き証人のような老舗です。

中央区日本橋室町2-2-1

1

大てんま町木綿店

Cotton-Goods Lane, Ōdenma-chō

安政5年(1858)4月 / No.54(太田記念美術館リスト番号)



安政期



いま

歌川広重「名所江戸百景 大てんま町木綿店」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)

Photo by Suikotei, Wikimedia Commons(CC BY 4.0)

浮世絵を読み解く

反物を担いだ商人たちが行き交う、木綿問屋が軒を連ねた大伝馬町の通りを描いた一枚。同じ大伝馬町を描いた「こふく店」(このルートの別の一景)とは扱う商品が異なり、木綿と絹、江戸の呉服商売の奥行きを伝えています。

最寄り駅: 東京メトロ日比谷線 小伝馬町駅から徒歩3分 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

大てんま町木綿店

いまの場所

日本橋大伝馬町
中央区日本橋大伝馬町

歴史

大伝馬町は幕府の伝馬(公用の馬継ぎ)を差配した名主・馬込勘解由の名にちなむ町。木綿店・こふく店とも呼ばれた問屋街は、慶長年間から続く江戸有数の商業地でした。安政5年(1858)4月、シリーズの中でも遅い時期に制作された一枚です。

この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E6%A9%8B%E5%A4%A7%E4%BC%9D%E9%A6%AC%E7%94%BA>

2

大伝馬町こふく店

Silk-Goods Lane, Odenma-cho

安政5年(1858)7月 / No.59(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 大伝馬町こふく店」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Suikotei, Wikimedia Commons(CC BY 4.0)

浮世絵を読み解く

呉服商・大丸の店先を、木遣りを歌いながら練り歩く鳶職たちの祝賀行列。新築の棟上げを終えた「棟梁送り」の祝いで、大きな纏や梯子を掲げた威勢の良い姿が描かれています。

最寄り駅: 東京メトロ日比谷線 小伝馬町駅から徒歩3分 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

大伝馬町こふく店

いまの場所

日本橋大伝馬町
中央区日本橋大伝馬町

歴史

大伝馬町の名は、慶長年間にこの地で幕府の伝馬(公用の馬による飛脚)を差配した名主・馬込勘解由に由来します。以後、木綿や呉服を扱う問屋が軒を連ねる江戸有数の商業地となり、明治以降も繊維卸の街として発展しました。関東大震災と東京大空襲で江戸期の街並みは失われましたが、今も繊維関連の卸商が点在しています。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

十思公園(吉田松陰終焉の地)

徒歩5分ほど



江戸時代の伝馬町牢屋敷跡に作られた公園。幕末の思想家・吉田松陰が安政の大獄で処刑された場所として知られ、園内に記念碑が立っています。

この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E4%BC%9D%E9%A6%AC%E7%94%BA>

3

する賀てふ

Suruga-chō

安政3年(1856)9月 / No.53(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 する賀てふ」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Kakidai, Wikimedia Commons(CC BY-SA 4.0)

浮世絵を読み解く

越後屋(現・三越)の屋根越しに富士山を望む、江戸随一と謳われた眺め。街の名は駿河国(するがのくに)がよく見えることに由来し、両側に大きく描かれた越後屋の暖簾が通りの主役です。

最寄り駅: 東京メトロ銀座線・半蔵門線 三越前駅から徒歩すぐ 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

する賀てふ

いまの場所

日本橋室町(三越前)
中央区日本橋室町1丁目

歴史

越後屋は延宝元年(1673)、三井高利が創業した呉服店。それまでの「掛け売り・訪問販売」が当たり前だった商習慣に対し、「店先現金売り・正札販売(値切り交渉なし)」という革新的な商法を持ち込み、江戸中の評判を呼びました。この越後屋こそが、後の三越百貨店、そして三井財閥のルーツです。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして



福徳神社(芽吹稲荷)

徒歩2分ほど

貞観年間からと伝わる古社。徳川秀忠が参詣した際、鳥居に若芽が芽吹いていたことから「芽吹稲荷」とも呼ばれます。2014年、再開発にあわせて社殿が新しくなりました。

[この場所をGoogleマップで見る →](#)浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%89%E8%B6%8A>

4

市中繁栄七夕祭

The City Flourishing, Tanabata Festival

安政4年(1857)7月 / No.74(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 市中繁栄七夕祭」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Kentin, Wikimedia Commons(CC BY-SA 4.0)

浮世絵を読み解く

屋根より高く掲げられた七夕飾りの向こうに富士山、右手には江戸城を望む一枚。この構図、実は広重自身の自宅(日本橋大鋸町)からの眺めだったと伝わります。

最寄り駅: 東京メトロ銀座線・半蔵門線 三越前駅から徒歩1分 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

市中繁栄七夕祭

いまの場所

日本橋室町(コレド室町周辺)
中央区日本橋室町

歴史

瓢箪や西瓜などの飾りが揺れる、江戸っ子憧れの七夕風景。今の五節句の七夕とは比べ物にならない賑わいで、商家の娘たちが技芸上達を願って短冊を吊るしました。広重最晩年の作で、自邸の窓からの眺めを名所絵に仕立てるといふ、シリーズならではの遊び心が光ります。

この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%90%8D%E6%89%80%E6%B1%9F%E6%88%B8%E7%99%BE%E6%99%AF>

5

日本橋雪晴

Nihonbashi Bridge: Clearing after Snow

安政3年(1856)5月 / No.1(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 日本橋雪晴」 国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)

Photo by urbzoo, Wikimedia Commons(CC BY 2.0)

浮世絵を読み解く

百景シリーズの巻頭を飾る一枚。雪晴れの朝、日本橋の向こうに江戸城と富士山を望む構図で、魚河岸へ急ぐ船が行き交う「江戸の台所」の活気ある一日の始まりを描いています。

最寄り駅: 東京メトロ 三越前駅・日本橋駅から徒歩すぐ 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

日本橋雪晴

いまの場所

日本橋
中央区日本橋

歷史

日本橋は慶長8年(1603)、徳川家康が幕府を開いたのと同じ年に架けられました。以後、東海道をはじめ五街道すべての起点「里程元標」と定められ、文字通り日本の道路網の中心地となります。現在の石造りの橋は明治44年(1911)完成のもので、頭上を首都高速道路が覆う姿は1964年東京五輪に向けた突貫工事の名残です。橋の中央には今も「日本国道路元標」が埋め込まれています。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

日本銀行本店

徒歩5分ほど

明治29年(1896)竣工、辰野金吾設計のネオバロック様式建築。日本橋川沿いに立つその姿は、江戸の金融の中心地だったこの一帯の記憶を今に伝えます。



浮世絵原画・解説: [https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E6%A9%8B_\(%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E9%83%BD%E4%B8%AD%E5](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E6%A9%8B_(%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E9%83%BD%E4%B8%AD%E5)

6

鎧の渡し小網町

Yoroi Ferry, Koami-chō

安政4年(1857)10月 / No.28(太田記念美術館リスト番号)



安政期



いま

歌川広重「名所江戸百景 鎧の渡し小網町」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)

Photo by 妖精書士, Wikimedia Commons(CC BY-SA 4.0)

浮世絵を読み解く

橋のなかった日本橋川を渡る「鎧の渡し」の渡船場を描いた一枚。手前の小網町には問屋の蔵が建ち並び、荷を積んだ渡し船が対岸の茅場町方面へと行き交っています。

最寄り駅: 東京メトロ東西線・日比谷線 茅場町駅から徒歩5分 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

鎧の渡し小網町

いまの場所

鎧橋(日本橋小網町・兜町)

中央区日本橋小網町

歴史

「鎧の渡し」の名は、後三年の役で嵐に遭った源義家が鎧を川に投げ入れて水を鎮めたという伝説に由来すると伝わります。渡し船は明治5年(1872)、日本初期の西洋式鉄橋のひとつ「鎧橋」に架け替えられ、渡し場としての役目を終えました。現在の橋は昭和32年(1957)の架け替えで、すぐそばの兜町は東京証券取引所を擁する日本の金融の中心地として発展しています。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

兜神社

徒歩5分ほど

東京証券取引所のすぐそばに鎮座する、証券界の守護神。かつて源義家が兜を埋めたという「兜岩」の伝説にちなむ神社で、商売繁盛を願う参拝者が絶えません。



この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%8E%A7%E6%A9%8B>

7

八ツ見のはし

Yatsumibashi Bridge

安政3年(1856)8月 / No.4(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 八ツ見のはし」 国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Katorisi, Wikimedia Commons(CC BY-SA 4.0)

浮世絵を読み解く

一石橋の上から見渡すと、外堀の呉服橋・鍛冶橋、道三堀の銭瓶橋・道三橋、そして北に常盤橋、西に日本橋、東に江戸橋と、一度に8つの橋が見えたことから「八ツ見のはし」と呼ばれました。

最寄り駅: 東京メトロ 大手町駅・JR東京駅から徒歩5分 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

八ツ見のはし

いまの場所

一石橋

中央区八重洲1丁目・日本橋本石町1丁目

歴史

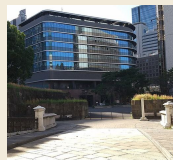
橋の名「一石橋」は洒落から来ています。橋の兩岸にそれぞれ屋敷を構えていた後藤庄三郎(金座)と後藤対馬守という、共に「後藤」姓の人物が費用を出し合って架けたことから、「五斗+五斗=一石」の語呂合わせで名付けられたと伝わります。現在の橋は大正11年(1922)築。橋詰には安政4年(1857)建立の「迷子しらせ石標」が今も残り、迷子を探す親が貼る紙をした江戸の掲示板として使われていました。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

常盤橋公園

徒歩3分ほど

日本橋川に架かる常盤橋門跡と、渋沢栄一の銅像がある公園。江戸城外堀の枳形門の石垣が今も残り、江戸時代の面影を伝える貴重な史跡です。



この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%80%E7%9F%B3%E6%A9%8B>

8

京橋竹がし

Bamboo Yards, Kyō bashi Bridge

安政4年(1857)12月 / No.114(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 京橋竹がし」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Aimaimyi, Wikimedia Commons(CC BY-SA 3.0)

浮世絵を読み解く

京橋のもと、竹河岸に積み上げられた大量の竹材を月明かりが照らす一枚。江戸中の建材や生活用品に使われた竹を扱う問屋が並び、水運の要所として賑わっていました。

最寄り駅: 東京メトロ銀座線 京橋駅から徒歩 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

京橋竹がし

いまの場所

京橋

中央区京橋

歴史

京橋は慶長8年(1603)、日本橋の翌年に架けられた橋で、東海道を京都・上方へ向かう最初の橋であったことからこの名がつけました。橋が架かっていた京橋川は昭和34年(1959)に埋め立てられて姿を消し、橋自体も撤去されましたが、橋詰には明治8年(1875)建造の親柱(橋の欄干の柱)が今も保存されています。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

警察博物館

徒歩3分ほど

警視庁の歴史や活動を紹介する博物館。パトカーやヘリコプターの実物展示もあり、子供から大人まで楽しめる無料スポットです。

[この場所をGoogleマップで見る →](#)浮世絵原画・解説: [https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%AC%E6%A9%8B_\(%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E9%83%BD\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%AC%E6%A9%8B_(%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E9%83%BD))

9

びくにはし雪中

Bikuni Bridge in Snow

安政5年(1858)10月 / No.78(太田記念美術館リスト番号)



安政期



いま

歌川広重「名所江戸百景 びくにはし雪中」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)

Photo by Souka Kinmei, Wikimedia Commons(CC BY 4.0)

浮世絵を読み解く

外堀に架かるびくにはし(比丘尼橋)のたもと、雪の中で商う屋台を描いた一枚。「山くじら」の看板(猪肉を婉曲に表す隠語)が見え、殺生を憚りながらも肉食を楽しんだ江戸っ子の姿がうかがえます。

最寄り駅: 東京メトロ 銀座駅・有楽町駅から徒歩 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

びくにはし雪中

いまの場所

数寄屋橋交差点
中央区銀座5丁目

歴史

びくにはしは外堀に架かっていた橋で、名の由来は付近に「比丘尼(尼僧姿の私娼)」を置く水茶屋があったためと伝わります。外堀は昭和になって埋め立てられ、橋も姿を消しましたが、すぐそばにあった数寄屋橋の名だけが交差点名として残り、現在は銀座を代表する待ち合わせスポットのひとつになっています。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

数寄屋橋公園(若い時計台)

徒歩1分ほど



岡本太郎作の彫刻「若い時計台」が立つ小さな公園。数寄屋橋ライオンズクラブから中央区へ寄贈されたもので、夜はライトアップされます。

[この場所をGoogleマップで見る →](#)浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%95%B0%E5%AF%84%E5%B1%8B%E6%A9%8B>

上野・谷中・根岸ルート

台東区・文京区・荒川区

上野公園から谷中・西日暮里まで、寛永寺の山内と寺町・坂道をめぐる散歩ルート。



起点: JR 上野駅

終点: JR 西日暮里駅

徒歩距離目安: 約3.5km

順路

- ① 上野清水堂不忍ノ池 → 清水観音堂・不忍池 (滞在目安 約20分)
- ② 上野山内月のまつ → 清水観音堂の「月の松」 (滞在目安 約10分)
- ③ 上野山した → 上野駅山地下口周辺 (滞在目安 約10分)
- ④ 下谷広小路 → アメヤ横丁(アメ横)周辺 (滞在目安 約20分)
- ⑤ 湯しま天神坂上眺望 → 湯島天満宮(湯島天神) (滞在目安 約15分)
- ⑥ 千駄木団子坂花屋敷 → 団子坂 (滞在目安 約10分)
- ⑦ 日暮里寺院の林泉 → 谷中・修性院周辺 (滞在目安 約15分)
- ⑧ 日暮里諏訪の台 → 諏方神社周辺の高台 (滞在目安 約15分)
- ⑨ 蓑輪金杉三河しま → 東日暮里(三河島駅周辺) (滞在目安 約10分)

この順路でGoogleマップの徒歩ルートを開く →

エリアのグルメ



洋食

上野精養軒

明治5年(1872)創業、日本の西洋料理店の草分け。夏目漱石や森鷗外の作品にも登場する老舗で、上野公園の中に今も店を構えています。

台東区上野公園4-58

適切なライセンスの写真が見つからなかったため未掲載です

そば

蓮玉庵

安政年間(1854-1860)創業と伝わる、上野広小路の老舗そば屋。名所江戸百景が描かれたのとはほぼ同じ時代からこの地で商いを続けています。

台東区上野2-8-7

1

上野清水堂不忍ノ池

Kiyomizu Hall and Shinobazu Pond at Ueno

安政3年(1856)4月 / No.19(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 上野清水堂不忍ノ池」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Guilhem Vellut, Wikimedia Commons(CC BY 2.0)

浮世絵を読み解く

京都・清水寺を模して建てられた清水観音堂の舞台から、不忍池と弁天堂を見下ろす構図。舞台の柱越しに池を望むという、実際の清水寺の「舞台造り」を彷彿とさせる仕掛けが凝らされています。

最寄り駅: JR・東京メトロ 上野駅から徒歩5分 滞在目安: 約20分

広重が描いた場所

上野清水堂不忍ノ池

いまの場所

清水観音堂・不忍池
台東区上野公園1-29

歴史

清水観音堂は寛永8年(1631)、寛永寺の開山・天海が「江戸の人々にも京都の清水寺参りの気分を味わってほしい」と、あえて本家そっくりに建てたお堂です。慶応4年(1868)の上野戦争(彰義隊の戦い)や第二次大戦の空襲では寛永寺の大半が焼失しましたが、この観音堂は奇跡的に焼け残り、上野公園に現存する江戸期建築のひとつとなっています。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

上野大仏(顔だけ大仏)

徒歩3分ほど

度重なる地震と火災で身体を失い、今では顔の部分だけが残る大仏様。「これ以上落ちない」ということから、受験合格祈願の名所になっています。

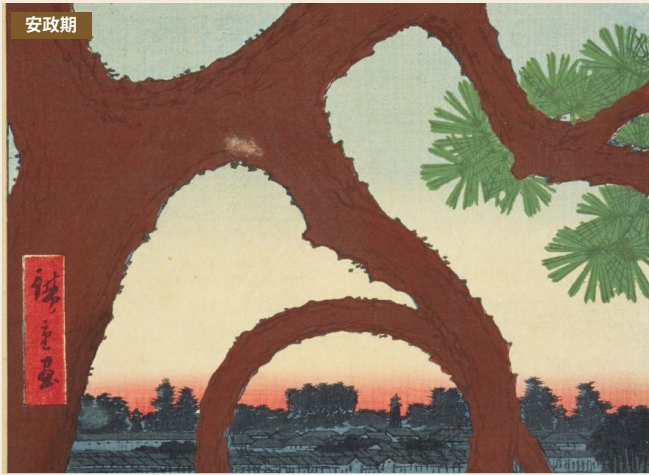
[この場所をGoogleマップで見る →](#)浮世絵原画・解説: [https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B8%85%E6%B0%B4%E8%A6%B3%E9%9F%B3%E5%A0%82_\(%E5%AF%9B%E6%B0%B8%E5%\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B8%85%E6%B0%B4%E8%A6%B3%E9%9F%B3%E5%A0%82_(%E5%AF%9B%E6%B0%B8%E5%))

2

上野山内月のまつ

Moon Pine, Ueno

安政4年(1857)8月 / No.36(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 上野山内月のまつ」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Tak1701d, Wikimedia Commons(CC BY-SA 3.0)

浮世絵を読み解く

枝を丸く仕立てた「月の松」の輪の中に、不忍池と満月のような構図をおさめた奇抜な一枚。円形の枝越しに景色を切り取るという斬新なアイデアで、広重晩年の遊び心がよく表れています。

最寄り駅: JR・東京メトロ 上野駅から徒歩5分 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

上野山内月のまつ

いまの場所

清水観音堂の「月の松」
台東区上野公園1-29

歴史

この月の松、実は明治初期に枯れてしまい、長らく失われていました。しかし平成24年(2012)、清水観音堂の境内にこの浮世絵をもとにして「月の松」が復元され、今では広重が描いた構図とほぼ同じ景色を実際に見ることができます。浮世絵が現実の景観を「作り直させた」珍しい例といえます。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

上野東照宮

徒歩5分ほど



徳川家康を祀る神社で、金色殿と呼ばれる絢爛豪華な社殿が有名。江戸初期の建築がほぼそのままの姿で残る、上野公園でも屈指の見どころです。

[この場所をGoogleマップで見る →](#)浮世絵原画・解説: https://www.tesshow.jp/taito/temple_uenokoen_kiyomizu.html

3

上野山した

Ueno Yamashita

安政5年(1858)10月 / No.12(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 上野山した」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by LERK, Wikimedia Commons(CC BY-SA 4.0)

浮世絵を読み解く

日傘をさした奥女中たちの行列と、平目や鯛を店先に吊るした紫蘇飯屋「いせや」を描いた一枚。上野の山と不忍池の間、上野駅山下手口にあたる低地の賑わいを伝えています。

最寄り駅: JR・東京メトロ 上野駅山下手口すぐ 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

上野山した

いまの場所

上野駅山下手口周辺

台東区上野

歴史

「山した」は上野の山(寛永寺境内)の南東に広がる低地を指し、18世紀末から盛り場として発達しました。広重没後の安政5年(1858)10月に出版されており、二代広重の筆が加わっているとの説もあります。今の上野駅山下手口周辺にあたります。

[この場所をGoogleマップで見る →](#)

浮世絵原画・解説: <https://www.ndl.go.jp/landmarks/details/detail243.html>

4

下谷広小路

Shitaya Hirokōji

安政3年(1856)9月 / No.60(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 下谷広小路」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Angus Chan, Wikimedia Commons(CC BY-SA 2.5)

浮世絵を読み解く

寛永寺の総門前に広がる、江戸有数の広い通り「下谷広小路」を描いた一枚。両側に呉服店や小間物屋が軒を連ね、大勢の人々が行き交う様子から当時の賑わいが伝わってきます。

最寄り駅: JR 上野駅・御徒町駅から徒歩 滞在目安: 約20分

広重が描いた場所

下谷広小路

いまの場所

アメヤ横丁(アメ横)周辺

台東区上野4-7-8付近

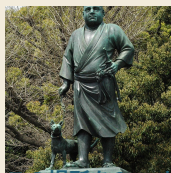
歴史

「広小路」という名の通り、この通りは明暦の大火(1657)という江戸史上最大の大火の教訓から、防火のためにわざと広く作られました。現在この界隈は、戦後の闇市を起源に持つ「アメ横」として生まれ変わり、乾物や衣料品の露店がひしめく庶民的な商店街として、当時とは違う形の賑わいを今に伝えています。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

西郷隆盛像

徒歩5分ほど



上野公園の入口に立つ、犬を連れた着物姿の銅像。明治31年(1898)除幕、彫刻家・高村光雲の作で、上野のシンボリック的存在として親しまれています。

この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%83%A1%E3%83%A4%E6%A8%AA%E4%B8%81>

5

湯しま天神坂上眺望

Hilltop View, Yushima Tenjin Shrine

安政3年(1856)4月 / No.17(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 湯しま天神坂上眺望」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Dennis Boller, Wikimedia Commons(CC BY-SA 3.0)

浮世絵を読み解く

湯島天神の男坂・女坂を上りきった高台から、不忍池方面を見晴らす構図。坂の上という高低差を生かして、江戸の町並みを一望する開放感を表現しています。

最寄り駅: 東京メトロ千代田線 湯島駅から徒歩5分 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

湯しま天神坂上眺望

いまの場所

湯島天満宮(湯島天神)

文京区湯島3-30-1

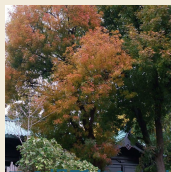
歴史

湯島天神は雄略天皇2年(458)創建と伝わる古社で、祭神は学問の神様・菅原道真(亀戸天神と同じ祭神です)。受験シーズンには合格祈願の絵馬で境内が埋め尽くされる、東京有数の学問成就スポットとして今も多くの参拝者を集めています。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

湯島聖堂

徒歩10分ほど



徳川綱吉が元禄3年(1690)に建てた孔子廟。日本の学校教育発祥の地ともいわれ、現在の建物は関東大震災後に鉄筋コンクリートで再建されたものです。

[この場所をGoogleマップで見る →](#)

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B9%AF%E5%B3%B6%E5%A4%A9%E6%BA%80%E5%AE%AE>

6

千駄木団子坂花屋敷

Flower Pavilion, Dangozaka Slope, Sendagi

安政3年(1856)5月 / No.65(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 千駄木団子坂花屋敷」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Higa4, Wikimedia Commons(CC0)

浮世絵を読み解く

団子坂の途中にあった花屋敷(植木屋)を描いた一枚。坂の上からは花見客で賑わう庭園を見下ろし、坂の下からは見上げる構図で、高低差のある地形を活かした遠近感が印象的です。

最寄り駅: 東京メトロ千代田線 千駄木駅から徒歩 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

千駄木団子坂花屋敷

いまの場所

団子坂

文京区千駄木2丁目・3丁目の間

歴史

坂の名の由来は諸説あり、団子屋が並んでいたから、あるいは坂の形が団子のようなことからとも言われます。江戸から明治にかけては菊人形の見世物で全国的に有名になり、夏目漱石の小説「三四郎」にも団子坂の菊人形見物の場面が登場します。花屋敷は今はなく、静かな住宅地の坂道になっています。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

根津神社

徒歩10分ほど



1900年以上の歴史を持つと伝わる古社で、現在の社殿は宝永3年(1706)、5代将軍・徳川綱吉が奉建したもの。江戸期の権現造り社殿がほぼそのまま残る貴重な神社です。

この場所をGoogleマップで見る →

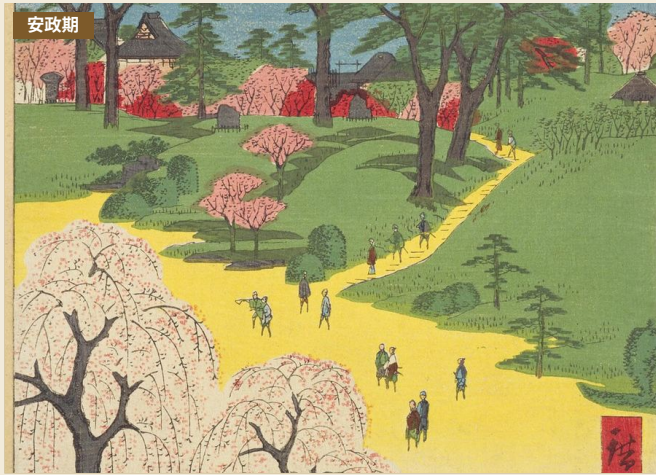
浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9B%A3%E5%AD%90%E5%9D%82>

7

日暮里寺院の林泉

Temple Gardens, Nippori

安政4年(1857)2月 / No.106(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 日暮里寺院の林泉」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Multa, Wikimedia Commons(CC BY-SA 3.0)

浮世絵を読み解く

日暮里の寺院に作られた庭園の池泉を描いた一枚。手前に大きく枝垂れ桜、奥に築山と池という構図で、都心とは思えない静かな行楽地としての日暮里の魅力を伝えています。

最寄り駅: JR 日暮里駅から徒歩7分 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

日暮里寺院の林泉

いまの場所

谷中・修性院周辺

荒川区西日暮里3丁目付近

歴史

「日暮里」という地名は、もとは「新堀(にっぽり)」と書かれていましたが、一日中いても飽きない里という意味を込めて「日暮らしの里」の字が当てられるようになったといわれます。江戸時代から寺と庭園が集まる行楽地として知られ、関東大震災や東京大空襲の被害も比較的少なかったため、今も谷中には数多くの寺院と、独特の下町情緒が残っています。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

経王寺

徒歩5分ほど



明暦元年(1655)開山の日蓮宗寺院。慶応4年(1868)の上野戦争で敗走した彰義隊の一部をかくまったとされ、山門には今も戦いの弾痕が残っていると伝わります。

[この場所をGoogleマップで見る →](#)

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%B0%B7%E4%B8%AD>

8

日暮里諏訪の台

Suwa Bluff, Nippori

安政3年(1856)5月 / No.95(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 日暮里諏訪の台」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Abasaa, Wikimedia Commons(Public Domain)

浮世絵を読み解く

諏訪の台にあった茶屋からの眺めを描いた一枚。高台から田んぼ越しに富士山と筑波山を望む構図で、行楽客がくつろぐ様子とともに、江戸近郊ののどかな眺望が表現されています。

最寄り駅: JR・東京メトロ 西日暮里駅から徒歩3分 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

日暮里諏訪の台

いまの場所

諏方神社周辺の高台

荒川区西日暮里3-4-8

歴史

諏訪の台の名は、鎌倉時代創建と伝わる諏方神社に由来します。日暮里・谷中一带の総鎮守として今も地域に親しまれるこの神社の立つ高台は、今ではすぐ下を走るJRの線路を見渡せる、鉄道ファンに人気の「ふれあい橋」からの眺めにその面影を残しています。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

谷中銀座・タヤけだんだん

徒歩10分ほど

谷中霊園の南側に広がる昭和レトロな商店街と、その入口の階段。夕日の名所として知られ、猫の町としても有名な谷根千散歩の定番スポットです。

[この場所をGoogleマップで見る →](#)

浮世絵原画・解説: [https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%AB%8F%E6%96%B9%E7%A5%9E%E7%A4%BE_\(%E8%8D%92%E5%B7%9D%E5%8C%BA\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%AB%8F%E6%96%B9%E7%A5%9E%E7%A4%BE_(%E8%8D%92%E5%B7%9D%E5%8C%BA))

9

蓑輪金杉三河しま

Minowa, Kanasugi and Mikawashima

安政4年(1857)閏5月 / No.103(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 蓑輪金杉三河しま」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Sushiya, Wikimedia Commons(CC BY 3.0)

浮世絵を読み解く

雪の中、竹垣に囲われた餌場に鶴が舞い降りる様子を描いた一枚。三河島は將軍自ら鷹狩りで鶴を捕らえ朝廷へ献上する「鶴御成」の獵場のひとつでした。

最寄り駅: JR常磐線 三河島駅すぐ 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

蓑輪金杉三河しま

いまの場所

東日暮里(三河島駅周辺)

荒川区東日暮里

歴史

三河島は現在の荒川区東日暮里にあたり、荒川がたびたび氾濫する湿地帯だったため、江戸時代は將軍家の放鷹地・鶴の保護区として利用されました。安政4年(1857)閏5月の作。今はJR常磐線三河島駅周辺の住宅地です。

[この場所をGoogleマップで見る →](#)

浮世絵原画・解説: https://edohanga.jp/one_hundred_famous_views_of_edo/minowa_kanasugi_and_mikawashima/

王子・飛鳥山ルート

北区

王子駅から飛鳥山公園まで、溪谷・滝・稲荷社をめぐる散歩ルート。



起点: JR京浜東北線・東京メトロ南北線 王子駅

終点: 都電荒川線 飛鳥山駅

徒歩距離目安: 約2.8km

順路

- ① 王子稲荷の社 → 王子稲荷神社 (滞在目安 約15分)
- ② 王子瀧の川 → 石神井川(音無川)溪谷 (滞在目安 約15分)
- ③ 王子不動之瀧 → 金剛寺(滝野川不動) (滞在目安 約10分)
- ④ 王子音無川堰埭世俗大瀧ト唱 → 音無親水公園の堰跡 (滞在目安 約15分)
- ⑤ 飛鳥山北の眺望 → 飛鳥山公園 (滞在目安 約20分)
- ⑥ 王子装束系の木大晦日の狐火 → 装束稲荷神社 (滞在目安 約10分)

この順路でGoogleマップの徒歩ルートを開く →

エリアのグルメ

適切なライセンスの写真が見つからなかったため未掲載です

厚焼き玉子

王子 扇屋

慶安元年(1648)創業、370年以上続く老舗。落語「王子の狐」の舞台としても知られ、秘伝のだしで仕立てた甘い厚焼き玉子が名物です。

北区岸町1-1-7

写真は未掲載です

おうじロール

洋菓子 ランギヤール

三笠會館でパティシエを務めた杉山亘氏が2003年に開いた洋菓子店。地元で長く愛される定番の味を追求して生まれたロールケーキで、北区名品30選にも選ばれている。

東京都北区岸町1丁目付近

1

王子稲荷の社

Ōji Inari Shrine

安政4年(1857) / No.12(太田記念美術館リスト番号)



安政期



いま

歌川広重「名所江戸百景 王子稲荷の社」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)

Photo by Tak1701d, Wikimedia Commons(CC BY-SA 3.0)

浮世絵を読み解く

崖の斜面に沿って続く石段と、その上に鎮座する社殿を描いた一枚。関東稲荷総司という格式にふさわしい、荘厳な佇まいが表現されています。

最寄り駅: JR・東京メトロ 王子駅から徒歩5分 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

王子稲荷の社

いまの場所

王子稲荷神社

北区岸町1-12-26

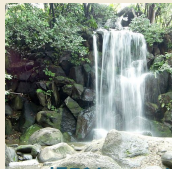
歴史

王子稲荷神社は、関東一円のお稲荷様を束ねる「関東稲荷総司」という別格の社格を持つ古社です。大晦日の夜、関東中の狐たちがこの近くの装束榎で身なりを整えてから稲荷に参詣したという伝説があり、その様子は広重の別の一枚「王子装束糸の木大晦日の狐火」にも描かれています。現在も大晦日には、この伝説にちなんだ「狐の行列」が地域の行事として行われています。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

名主の滝公園

徒歩10分ほど



かつて「王子七滝」と呼ばれた滝のうち、唯一現存する滝がある公園。江戸時代に名主が屋敷内に開いた庭園がルーツで、都会とは思えない渓谷美が楽しめます。

[この場所をGoogleマップで見る →](#)浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%8E%8B%E5%AD%90%E7%A8%B2%E8%8D%B7%E7%A5%9E%E7%A4%BE>

2

王子瀧の川

Takinogawa, Ōji

安政3年(1856)4月 / No.15(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 王子瀧の川」 国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Souka Kinmei, Wikimedia Commons(CC0)

浮世絵を読み解く

石神井川(別名・滝野川)が刻む溪谷を描いた一枚。飛鳥山のふもとを流れるこの川は急流で、不動の滝や弁天の滝など大小の滝があり、江戸有数の景勝地として知られていました。

最寄り駅: JR・東京メトロ 王子駅から徒歩5分 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

王子瀧の川

いまの場所

石神井川(音無川)溪谷
北区王子本町・滝野川エリア

歴史

「滝野川」という地名は、この川に多くの滝があったことに由来します。江戸時代、王子を訪れた人々はこの溪谷沿いを歩いて滝めぐりを楽しみました。現在の石神井川はコンクリート護岸の都市河川となっていますが、王子駅周辺の一部区間は「音無親水公園」として整備され、せせらぎの音が聞こえる憩いの場になっています。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

王子神社

徒歩5分ほど



鎌倉時代創建と伝わる古社で、「王子」という地名の由来そのものになった神社。石神井川を見下ろす高台に鎮座し、境内には推定樹齢600年の大イチョウがあります。

[この場所をGoogleマップで見る →](#)

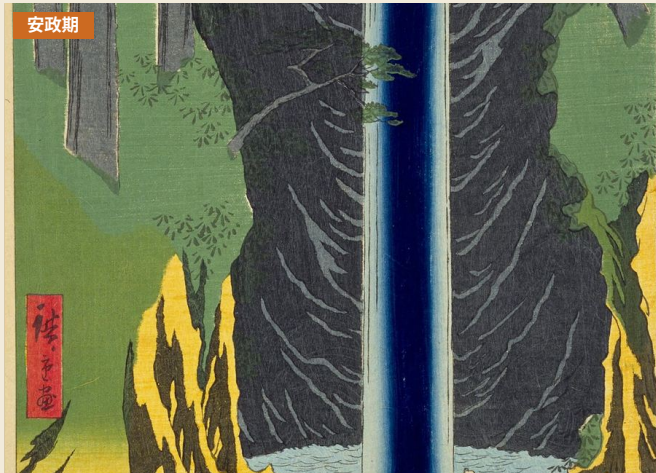
浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%9F%B3%E7%A5%9E%E4%BA%95%E5%B7%9D>

3

王子不動之瀧

Fudō Falls, Ōji

安政4年(1857)9月 / No.51(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 王子不動之瀧」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Kamemaru2000, Wikimedia Commons(CC BY-SA 3.0)

浮世絵を読み解く

金剛寺の境内にあった不動の滝で、滝行をする人々を描いた一枚。「王子七滝」の中でも特に信仰を集めた滝で、断崖から流れ落ちる水の勢いが印象的に表現されています。

最寄り駅: JR・東京メトロ 王子駅から徒歩10分 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

王子不動之瀧

いまの場所

金剛寺(滝野川不動)

北区滝野川3-88-17

歴史

金剛寺は「岩屋弁天」「松橋弁天」とも呼ばれる古刹で、崖下の洞窟に弁財天を祀っていたと伝わります。源頼朝が布陣したという伝承も残る由緒あるお寺です。境内の不動の滝は湧水量の減少により失われましたが、寺自体は今も滝野川の地に残り、紅葉の名所としても知られています。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

音無親水公園

徒歩5分ほど



石神井川の旧流路を利用して作られた親水公園。せせらぎや小さな滝、木の橋があり、かつての「音無溪谷」の雰囲気をも今に伝える憩いのスポットです。

[この場所をGoogleマップで見る →](#)

浮世絵原画・解説: [https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%87%91%E5%89%9B%E5%AF%BA_\(%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E9%83%BD%E5%8C%97%E5%\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%87%91%E5%89%9B%E5%AF%BA_(%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E9%83%BD%E5%8C%97%E5%))

4

王子音無川堰埭世俗大瀧ト唱

Dam on the Otonashi River at Ōji

安政4年(1857)2月 / No.102(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 王子音無川堰埭世俗大瀧ト唱」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Souka Kinmei, Wikimedia Commons(CC0)

浮世絵を読み解く

石神井川に設けられた堰を、地元の人々が「王子の大滝」と呼んで親しんだ様子を描いた一枚。実際の落差はさほどないものの、誇張気味に「大瀧」と呼ばれるほどの人気ぶりが伝わってきます。

最寄り駅: JR・東京メトロ 王子駅から徒歩 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

王子音無川堰埭世俗大瀧ト唱

いまの場所

音無親水公園の堰跡
北区王子本町1丁目

歴史

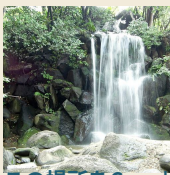
この堰は明暦3年(1657)、下流の田畑を潤す用水を確保するために作られた治水施設でした。飛鳥山の桜と合わせて花見客で賑わったこの一帯は、昭和63年(1988)に「音無親水公園」として整備され、「日本の都市公園100選」にも選ばれる憩いの場になっています。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

名主の滝公園

徒歩10分ほど

音無溪谷とともに「王子の滝めぐり」を彩った公園。江戸時代の名主・畑野孫八が屋敷内に開いた庭園がルーツで、今も四つの滝が楽しめます。



[この場所をGoogleマップで見る →](#)

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%9F%B3%E7%84%A1%E8%A6%AA%E6%B0%B4%E5%85%AC%E5%9C%92>

5

飛鳥山北の眺望

View to the North from Asukayama

安政3年(1856)5月 / No.20(太田記念美術館リスト番号)



安政期



いま

歌川広重「名所江戸百景 飛鳥山北の眺望」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)

Photo by (WT-shared) Shoestring, Wikimedia Commons(CC BY-SA 1.0)

浮世絵を読み解く

飛鳥山の高台から、北方に広がる田園風景と筑波山を望む一枚。手前には満開の桜が描かれ、江戸随一の桜の名所であった飛鳥山の華やかさを伝えています。

最寄り駅: 都電荒川線 飛鳥山駅から徒歩 滞在目安: 約20分

広重が描いた場所

飛鳥山北の眺望

いまの場所

飛鳥山公園

北区王子1-1-3

歴史

飛鳥山を桜の名所にしたのは8代将軍・徳川吉宗です。享保の改革の一環として庶民の行楽地を増やす目的で、1000本以上の桜を植えさせました。それまで庶民が自由に立ち入れる花見の名所は少なかったため、この飛鳥山は「誰でも楽しめる公園」の先駆けとも言えます。明治6年(1873)には日本初の公園のひとつに指定され、現在も都内屈指の桜の名所として親しまれています。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

飛鳥山公園モノレール「アスカルゴ」

園内すぐ

飛鳥山の急な坂を上る、無料で乗れるミニモノレール。桜の時期はもちろん、園内には渋沢栄一ゆかりの資料館も点在し、家族連れにも人気のスポットです。



この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%A3%9B%E9%B3%A5%E5%B1%B1%E5%85%AC%E5%9C%92>

6

王子装束ゑの木大晦日の狐火

New Year's Eve Foxfires at the Changing Tree, Ōji

安政4年(1857)9月 / No.119(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 王子装束ゑの木大晦日の狐火」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Carbonium, Wikimedia Commons(CC BY 3.0)

浮世絵を読み解く

大晦日の夜、関東中から集まった狐たちが装束榎の下で身なりを整え、狐火を灯しながら王子稲荷へ向かう幻想的な伝説を描いた一枚。夜空をきらめかせる「雲母摺」という特殊な技法が使われた、シリーズ最後を飾るにふさわしい一枚です。

最寄り駅: JR・東京メトロ 王子駅から徒歩7分 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

王子装束ゑの木大晦日の狐火

いまの場所

装束稲荷神社
北区王子2-30-14

歴史

この伝説にちなみ、榎のあった場所には装束稲荷神社が建てられました。かつての大きな榎は失われましたが、今も大晦日には地元の人々が白い狐の面をつけて装束稲荷から王子稲荷まで練り歩く「王子狐の行列」が現代の年越し行事として親しまれています。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

王子稲荷神社

徒歩10分ほど



狐の行列のゴール地点。関東稲荷総司の格式を持つ古社で、大晦日にはこの装束稲荷から狐に扮した人々の行列が到着します。

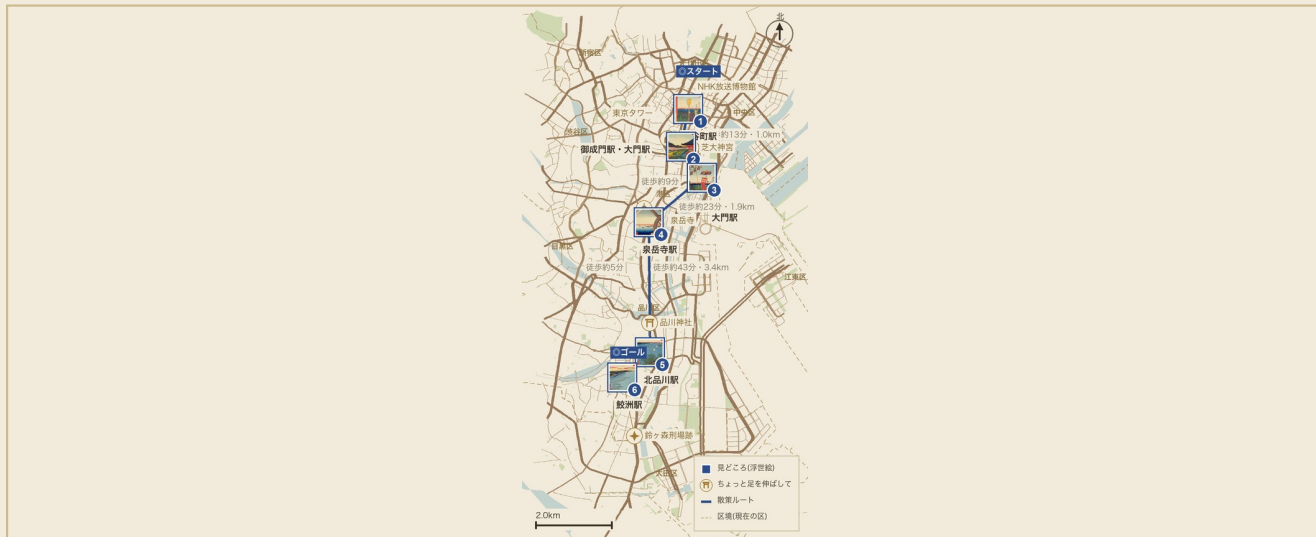
[この場所をGoogleマップで見る →](#)

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%A3%85%E6%9D%9F%E7%A8%B2%E8%8D%B7%E7%A5%9E%E7%A4%BE>

品川・高輪ルート

港区・品川区

神谷町駅から鮫洲駅まで、愛宕山・増上寺・高輪大木戸・品川宿をめぐる散歩ルート。



起点: 東京メトロ日比谷線 神谷町駅

終点: 京急本線 鮫洲駅

徒歩距離目安: 約5.5km

順路

- ① 芝愛宕山 → 愛宕神社 (滞在目安 約20分)
- ② 増上寺塔赤羽根 → 増上寺 (滞在目安 約20分)
- ③ 金杉橋芝浦 → 金杉橋 (滞在目安 約10分)
- ④ 高輪うしまち → 高輪大木戸跡 (滞在目安 約10分)
- ⑤ 品川すさき → 利田神社 (滞在目安 約10分)
- ⑥ 南品川鮫洲海岸 → 鮫洲(品川宿南端) (滞在目安 約10分)

[この順路でGoogleマップの徒歩ルートを開く →](#)

エリアのグルメ

適切なライセンスの写真が見つからなかったため未掲載です

そば会席

立会川 吉田家

安政3年(1856)創業、名所江戸百景が描かれたのとまさに同じ時代から続く老舗そば店。坂本龍馬や山岡鉄舟も通ったと伝わります。

品川区東大井2-27-4

写真は未掲載です

どら焼き・塩大福

栴翁軒

嘉永2年(1849)、江戸品川宿にて創業した和菓子店。旧東海道沿いの北品川で、200年近く変わらぬ味を守り続けている。

東京都品川区北品川1-2-8

2

増上寺塔赤羽根

Zōjōji Pagoda and Akabane

安政4年(1857)正月 / No.48(太田記念美術館リスト番号)



安政期



いま

歌川広重「名所江戸百景 増上寺塔赤羽根」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)

Photo by Ymblanter, Wikimedia Commons(CC BY-SA 4.0)

浮世絵を読み解く

遠くに望む増上寺の朱塗りの五重塔と、手前の赤羽根橋を描いた一枚。塔の上部二層だけを大きく切り取る構図で、江戸のランドマークとしての存在感を伝えています。

最寄り駅: 都営三田線 御成門駅・大門駅から徒歩5分 滞在目安: 約20分

広重が描いた場所

増上寺塔赤羽根

いまの場所

増上寺

港区芝公園4-7-35

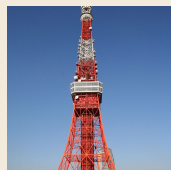
歴史

増上寺は徳川將軍家の菩提寺で、境内には歴代將軍6人の靈廟がありました。広重が描いた五重塔は東京大空襲で焼失しましたが、寛永10年(1633)建立の三解脱門(山門)は戦火を免れ、都内最古級の木造建築として今も現役です。すぐ隣には昭和33年(1958)完成の東京タワーがそびえ、新旧のランドマークが並び立つ景観になっています。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

東京タワー

徒歩5分ほど



増上寺のすぐ隣にそびえる、高さ333mの電波塔。建設には朝鮮戦争で使われた米軍戦車のスクラップ鉄も使われたと伝わります。

[この場所をGoogleマップで見る →](#)浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A2%97%E4%B8%8A%E5%AF%BA>

3

金杉橋芝浦

Kanasugibashi Bridge and Shibaura

安政4年(1857)8月 / No.47(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 金杉橋芝浦」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Abasaa, Wikimedia Commons(Public Domain)

浮世絵を読み解く

東海道が古川の河口を渡る金杉橋を、白装束の参詣者たちが行き交う様子とともに描いた一枚。橋の向こうには芝浦の干潟と江戸湾が広がっています。

最寄り駅: 都営浅草線・三田線 大門駅から徒歩5分 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

金杉橋芝浦

いまの場所

金杉橋

港区芝1丁目・浜松町2丁目

歴史

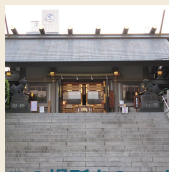
かつての芝浦は、海苔や貝類が豊富に採れる遠浅の干潟でした。江戸前の海苔養殖の一大産地として栄えましたが、20世紀の埋め立てにより海岸線は大きく後退し、現在ではビル群が立ち並ぶオフィス街に姿を変えています。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

芝大神宮

徒歩10分ほど

寛弘2年(1005)創建と伝わる古社。「関東のお伊勢さま」として親しまれ、江戸時代には「だらだら祭り」と呼ばれる長期間の例大祭で賑わいました。



この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%8A%9D%E6%B5%A6>

4

高輪うしまち

Ushimachi, Takanawa

安政4年(1857)4月 / No.63(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 高輪うしまち」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by 江戸村のとくそう, Wikimedia Commons(CC BY-SA 4.0)

浮世絵を読み解く

巨大な牛車の車輪を画面いっぱいに配した大胆な構図。高輪大木戸の外に広がる「牛町」の光景を、虹のかかる江戸湾を背景に描いています。

最寄り駅: JR高輪ゲートウェイ駅・都営浅草線 泉岳寺駅から徒歩5分 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

高輪うしまち

いまの場所

高輪大木戸跡
港区高輪3-14付近

歴史

「牛町」の名は、寛永16年(1639)、増上寺などの建設資材を運ぶための牛がこの地に集められ、牛方(牛の御者)たちの集落ができたことに由来します。すぐそばの高輪大木戸は宝永7年(1710)、東海道から江戸市中への出入りを取り締まるために設けられた関所でした。現在は土塁の一部だけが国史跡として残り、JRの高架と道路に挟まれた小さな緑地になっています。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

泉岳寺

徒歩10分ほど

赤穂浪士47人の墓所があることで知られる曹洞宗の寺院。主君・浅野内匠頭の仇討ちを果たした四十七士は、本懐を遂げた後この寺の主君の墓前に集結しました。

[この場所をGoogleマップで見る →](#)浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AB%98%E8%BC%AA%E5%A4%A7%E6%9C%A8%E6%88%B8%E8%B7%A1>

5

品川すさき

Shinagawa Susaki

安政3年(1856)4月 / No.69(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 品川すさき」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Suikotei, Wikimedia Commons(CC BY-SA 4.0)

浮世絵を読み解く

目黒川の河口に突き出た砂洲「洲崎」に鎮座する小さな弁天社を、松林と朱色の鳥居とともに描いた一枚。江戸湾の穏やかな漁村風景が広がります。

最寄り駅: 京急本線 北品川駅から徒歩7分 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

品川すさき

いまの場所

利田神社

品川区東品川1-7-17

歴史

この弁天社(現・利田神社)は、寛政10年(1798)に品川沖に迷い込んだ鯨を捕獲した際、その骨を祀った「鯨塚」があることで知られています。当時この珍事は江戸中の評判となり、時の将軍・徳川家斉も見物に訪れたと伝わります。埋め立てが進んだ現在、神社は海から離れた住宅地の中に佇んでいます。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

品川神社

徒歩10分ほど



この場所をGoogleマップで見る →

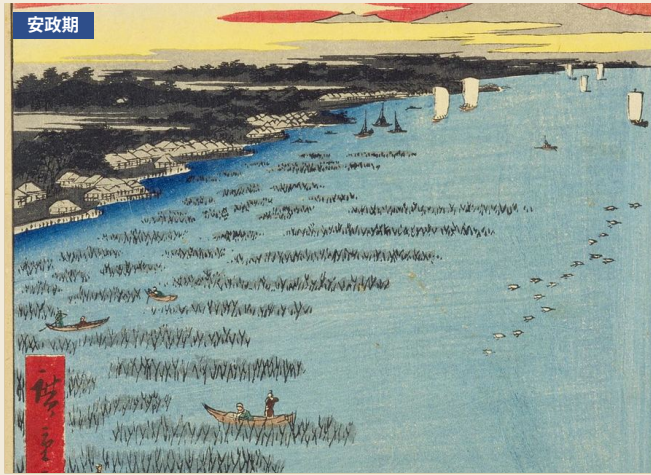
浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%88%A9%E7%94%B0%E7%A5%9E%E7%A4%BE>

6

南品川鯨洲海岸

Minami Shinagawa and Samezu Coast

安政4年(1857)2月 / No.104(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 南品川鯨洲海岸」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)

Photo by Aimaimyi, Wikimedia Commons(CC BY-SA 3.0)

浮世絵を読み解く

浅瀬に立てた枝に育てた海苔を摘む女性たちの舟を描いた一枚。遠くに筑波山を望む、のどかな海辺の漁村風景が広がっています。

最寄り駅: 京急本線 鯨洲駅から徒歩 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

南品川鯨洲海岸

いまの場所

鯨洲(品川宿南端)

品川区東大井1丁目付近

歴史

「鯨洲」の名は、この浦でかつて鯨が捕らえられたという伝説に由来すると言われています。この一帯は東海道五十三次の第一宿・品川宿の南端にあたり、江戸随一の賑わいを見せた宿場町でした。海岸線は埋め立てで大きく後退しましたが、旧東海道の道筋は今も品川区内に細い通りとして残り、ところどころに海鼠壁の土蔵など往時の面影を伝える建物が残っています。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

鈴ヶ森刑場跡

徒歩15分ほど



慶安4年(1651)に設置された江戸時代の処刑場跡。由井正雪の乱の関係者や八百屋お七など、歴史上有名な人物もここで処刑されたと伝わります。

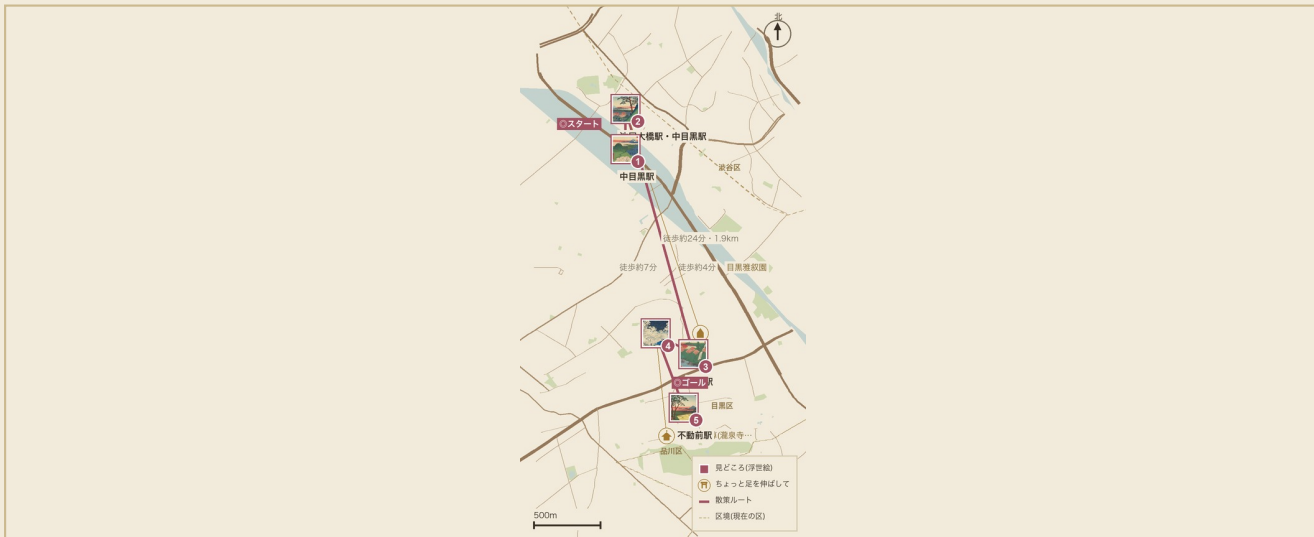
この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%93%81%E5%B7%9D%E5%AE%BF>

目黒ルート

目黒区

中目黒駅から目黒駅・不動前駅まで、富士塚跡と目黒川沿いをめぐる散歩ルート。



起点: 東急東横線 中目黒駅

終点: 東急目黒線 不動前駅

徒歩距離目安: 約3.0km

順路

- ① 目黒新富士 → 目黒新富士跡 (滞在目安 約10分)
- ② 目黒元不二 → 上目黒氷川神社(浅間神社を合祀) (滞在目安 約15分)
- ③ 目黒千代か池 → 千代が池跡 (滞在目安 約10分)
- ④ 目黒太鼓橋夕日の岡 → 太鼓橋(目黒川) (滞在目安 約10分)
- ⑤ 目黒爺々が茶屋 → 目黒不動尊参道周辺 (滞在目安 約10分)

[この順路でGoogleマップの徒歩ルートを開く →](#)

エリアのグルメ

適切なライセンスの写真が見つからなかったため未掲載です

写真は未掲載です

とんかつ

とんき 目黒本店

昭和14年(1939)創業、行列の絶えない目黒の老舗とんかつ店。三度づけの衣とかつ切りの美しさで知られ、多くの著名人にも愛されてきました。

目黒区下目黒1-1-2

目黒のさんま

目黒のさんま 菜の花 権之助坂本店

将軍が目黒でさんまを食べ「さんまは目黒に限る」と言ったという古典落語『目黒のさんま』にちなんだ一軒。気仙沼から届く新鮮なさんまを塩焼きなどで味わえる。

東京都目黒区下目黒1-1-15 菊ビル1F

1

目黒新富士

New Fuji, Meguro

安政4年(1857)4月 / No.75(太田記念美術館リスト番号)



築山は失われ痕跡もほとんど残っていないため、適切な現地写真が見つからず未掲載です

歌川広重「名所江戸百景 目黒新富士」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)

浮世絵を読み解く

文政12年(1829)、旗本・近藤重蔵が自邸に築いた人工の富士山「新富士」を描いた一枚。手前に築山を登る参詣者たち、奥に本物の富士山を配し、見立ての妙を楽しませる構図です。

最寄り駅: 東急東横線 中目黒駅から徒歩10分 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

目黒新富士

いまの場所

目黒新富士跡

目黒区中目黒2丁目付近

歴史

本物の富士山に登れない江戸庶民のために、富士山を模した小さな山(富士塚)を築いて疑似登山を叶えたのが「富士講」という信仰です。この新富士は昭和34年(1959)まで残っていましたが、現在は跡地に自然石が残るのみで、普通の住宅地に溶け込んでいます。

この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%9B%AE%E9%BB%92%E5%AF%8C%E5%A3%AB>

2

目黒元不二

Original Fuji in Meguro

安政4年(1857)4月 / No.76(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 目黒元不二」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by yamai36, Wikimedia Commons(CC BY 3.0)

浮世絵を読み解く

文化9年(1812)、新富士より早く築かれた「元富士」を描いた一枚。新富士に対して「元祖」を名乗るその名の通り、坂の上にそびえる築山を仰ぎ見る構図です。

最寄り駅: 東急東横線・田園都市線 池尻大橋駅・中目黒駅から徒歩12分 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

目黒元不二

いまの場所

上目黒氷川神社(浅間神社を合祀)

目黒区大橋2-16-21

歴史

目切坂の上に築かれたこの元富士は、新富士より17年古い、目黒で最初の富士塚でした。取り壊された後、明治21年(1888)に山頂に祀られていた浅間神社が近くの上目黒氷川神社に遷座し、今もその境内社として大切に祀られています。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

目黒雅叙園

徒歩15分ほど

昭和6年(1931)創業、絢爛豪華な装飾で知られる結婚式場・ホテル。「昭和の竜宮城」とも呼ばれた名建築の面影を今に伝えます。

[この場所をGoogleマップで見ると見る →](#)浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%9B%AE%E9%BB%92%E5%AF%8C%E5%A3%AB>

3

目黒千代か池

Chiyogaike Pond, Meguro

安政4年(1857)4月 / No.94(太田記念美術館リスト番号)



池は埋め立てられ官庁街となっており、適切な現地写真が見つからず未掲載です

歌川広重「名所江戸百景 目黒千代か池」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)

浮世絵を読み解く

目黒川を見下ろす高台にあった池「千代か池」を描いた一枚。桜の木がぼんやりと水面に映り込む、広重には珍しい繊細な情景表現が特徴です。

最寄り駅: JR・東急目黒線 目黒駅から徒歩10分 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

目黒千代か池

いまの場所

千代が池跡

目黒区目黒1丁目付近

歴史

池の名は、南北朝時代の武将・新田義興の侍女「千代」が、主君の討死を知ってこの池に身を投げたという伝説に由来します。池は昭和初期まで残っていましたが、その後埋め立てられ、現在は目黒区の官庁街の一角となり、面影は広重の絵の中にしか残っていません。

[この場所をGoogleマップで見る →](#)

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%9B%AE%E9%BB%92%E5%8C%BA>

4

目黒太鼓橋夕日の岡

Meguro Drum Bridge and Sunset Hill

安政4年(1857)4月 / No.83(太田記念美術館リスト番号)



安政期

石造りの太鼓橋自体は失われ、適切な現地写真が見つからず未掲載です

歌川広重「名所江戸百景 目黒太鼓橋夕日の岡」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)

浮世絵を読み解く

目黒川に架かる石造りのアーチ橋「太鼓橋」と、その名の由来となった太鼓のように丸い橋の形を描いた一枚。奥にそびえる夕日の岡は、紅葉が夕日に映える名所として親しまれました。

最寄り駅: JR・東急目黒線 目黒駅から徒歩7分 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

目黒太鼓橋夕日の岡

いまの場所

太鼓橋(目黒川)

目黒区中目黒1丁目・下目黒1丁目

歴史

地震に弱い石造りのアーチ橋は江戸では珍しく、この太鼓橋も大正9年(1920)には鉄橋に架け替えられました。現在の目黒川は護岸整備された都市河川となり、江戸期の石橋の面影はありませんが、「太鼓橋」の名は今も交差点名として残っています。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして



目黒不動尊(瀧泉寺)

徒歩15分ほど

江戸五色不動のひとつに数えられる天台宗の名刹。かつて茶屋が立ち並んだ参道は、今も商店街として賑わいを伝えています。

この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%9B%AE%E9%BB%92%E5%B7%9D>

5

目黒爺々が茶屋

Grandpa's Teahouse in Meguro

安政4年(1857)4月 / No.84(太田記念美術館リスト番号)



安政期

茶屋自体は現存せず、適切な現地写真が見つからず未掲載です

歌川広重「名所江戸百景 目黒爺々が茶屋」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)

浮世絵を読み解く

目黒不動尊へ向かう街道沿いの茶屋で、旅人たちが一服する様子を描いた一枚。田畑の向こうに富士山を望む、江戸郊外らしいのどかな風景です。

最寄り駅: 東急目黒線 不動前駅から徒歩5分 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

目黒爺々が茶屋

いまの場所

目黒不動尊参道周辺

目黒区下目黒3丁目付近

歴史

「爺々が茶屋」は目黒不動(瀧泉寺)へ参詣する人々のための、街道沿いの休み処のひとつでした。目黒不動は江戸五色不動のひとつに数えられる名刹で、鷹狩り好きの将軍・徳川家光にも縁が深い寺です。茶屋そのものは残っていませんが、不動尊の参道は今も商店街として、当時と同じ「参拝と憩い」の役割を果たし続けています。

この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%80%A7%E6%B3%89%E5%AF%BA>

神田ルート

千代田区

神田駅から御茶ノ水駅まで、神田明神・湯島聖堂・秋葉原をめぐる散歩ルート。



起点: JR・東京メトロ 神田駅

終点: JR 御茶ノ水駅

徒歩距離目安: 約2.2km

順路

- 1 神田紺屋町 → 神田紺屋町跡(東神田・岩本町エリア) (滞在目安 約10分)
- 2 筋違内八ツ小路 → 万世橋・秋葉原周辺 (滞在目安 約15分)
- 3 昌平橋聖堂神田川 → 湯島聖堂・昌平橋 (滞在目安 約15分)
- 4 神田明神曙之景 → 神田明神(神田神社) (滞在目安 約15分)

この順路でGoogleマップの徒歩ルートを開く →

エリアのグルメ



あんこう鍋 いせ源

天保元年(1830)創業、あんこう料理専門店として知られる老舗。現在の建物は昭和5年(1930)築で、東京都選定歴史的建造物にも選ばれています。

千代田区神田須田町1-11-1

写真は未掲載です

揚げまんじゅう・あんみつ 竹むら

昭和5年(1930)築の建物が東京都選定歴史的建造物にもなっている神田須田町の甘味処。北海道小豆の自家製餡を使った揚げまんじゅうが名物。

東京都千代田区神田須田町1-19

1

神田紺屋町

Dyers' Quarter, Kanda

安政4年(1857)11月 / No.79(太田記念美術館リスト番号)



染物町としての痕跡は失われ、適切な現地写真が見つからず未掲載です

歌川広重「名所江戸百景 神田紺屋町」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)

浮世絵を読み解く

染め上がった反物を高い物干し台にずらりと干した、染物問屋の情景を描いた一枚。色とりどりの布が旗のようにはためく合間から富士山が覗く、大胆で装飾的な構図が魅力です。

最寄り駅: JR・東京メトロ 神田駅から徒歩10分 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

神田紺屋町

いまの場所

神田紺屋町跡(東神田・岩本町エリア)

千代田区東神田・岩本町付近

歴史

「紺屋町」は染物職人(紺屋)が集まって暮らした江戸の職人町のひとつでした。昭和9年(1934)の住居表示変更で「紺屋町」の地名自体は姿を消し、現在は東神田・岩本町として、染物とは無縁のオフィス街になっています。

[この場所をGoogleマップで見る →](#)

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A5%9E%E7%94%B0%E7%B4%BA%E5%B1%8B%E7%94%BA>

2

筋違内八ツ小路

Yatsukōji, Inside Sujikai Gate

安政4年(1857)11月 / No.81(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 筋違内八ツ小路」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)

Photo by 妖精書士, Wikimedia Commons(CC BY-SA 3.0)

浮世絵を読み解く

筋違御門の内側に広がる広場「八ツ小路」を描いた一枚。8本もの道が集まる交差点は江戸有数の広さを誇り、大名行列や物売り、旅人たちで大変な賑わいを見せています。

最寄り駅: JR 秋葉原駅・神田駅からすぐ 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

筋違内八ツ小路

いまの場所

万世橋・秋葉原周辺

千代田区外神田1丁目付近

歴史

「八ツ小路」の名は、この広場から外堀・神田川に架かる複数の橋(常盤橋・鎌倉河岸・昌平橋など)へ向かう道が放射状に集まっていたことに由来します。明治になり筋違御門は取り壊され、その石材は最初の万世橋建設に転用されました。現在この一帯は、世界的な電気街・アニメの聖地として知られる秋葉原に姿を変えています。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

秋葉原電気街

徒歩3分ほど

戦後の闇市から発展した世界的な電気街。近年はアニメ・ゲーム関連のショップも集まり、「オタク文化の聖地」としても世界中から観光客を集めています。

[この場所をGoogleマップで見る →](#)浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A7%8B%E8%91%89%E5%8E%9F>

3

昌平橋聖堂神田川

Seid ō and Kanda River from Sh ō heibashi Bridge

安政4年(1857)9月 / No.72(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 昌平橋聖堂神田川」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Reggaeman, Wikimedia Commons(CC BY-SA 3.0)

浮世絵を読み解く

昌平橋の上から神田川を見下ろす構図で、夏の雨に打たれながら材木を運ぶ川船を描いた一枚。対岸には湯島聖堂の白壁が続いています。シリーズ中、雨を描いた数少ない作品のひとつです。

最寄り駅: JR・東京メトロ 御茶ノ水駅から徒歩 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

昌平橋聖堂神田川

いまの場所

湯島聖堂・昌平橋

千代田区外神田2-1-14

歴史

湯島聖堂は元禄3年(1690)、五代将軍・徳川綱吉が儒学を学ぶために建てた孔子廟です。後に幕府の学問所「昌平坂学問所」となり、明治以降は東京大学や日本の近代教育制度の源流のひとつとなりました。昌平橋の名も、孔子の生誕地・中国山東省の昌平郷にちなんで名付けられたものです。

この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B9%AF%E5%B3%B6%E8%81%96%E5%A0%82>

4

神田明神曙之景

Dawn at Kanda Myōjin Shrine

安政4年(1857)9月 / No.80(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 神田明神曙之景」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Fg2, Wikimedia Commons(Public Domain)

浮世絵を読み解く

夜明けの神田明神で、まだ茶屋の縁台も空っぽの中、神職・巫女・下働きの3人が朝の見回りを始める静かな一枚。前年の安政大地震(1855)からの復興を願う気持ちが、夜明けの光に込められていると言われます。

最寄り駅: JR・東京メトロ 御茶ノ水駅から徒歩5分 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

神田明神曙之景

いまの場所

神田明神(神田神社)
千代田区外神田2-16-2

歴史

神田明神(神田神社)は、神田・日本橋・秋葉原など108の町を氏子に持つ「江戸総鎮守」です。5月の神田祭は、山王祭と並ぶ「江戸三大祭」のひとつとして、隔年で今も盛大に行われています。

[この場所をGoogleマップで見る →](#)

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A5%9E%E7%94%B0%E7%A5%9E%E7%A4%BE>

赤坂・四谷ルート

港区・新宿区・千代田区

虎ノ門から赤坂・四谷を抜けて新宿御苑周辺まで、坂道の多い武家地の名残をたどる散歩ルート。



起点: 東京メトロ 虎ノ門駅

終点: 都営新宿線・丸ノ内線 新宿三丁目駅

徒歩距離目安: 約4.6km

順路

- ① 山下町日比谷外さくら田 → 日比谷公園(心字池) (滞在目安 約10分)
- ② 霞かせき → 霞が関(中央合同庁舎周辺) (滞在目安 約5分)
- ③ 虎の門外あふひ坂 → 葵坂跡(虎ノ門一丁目付近) (滞在目安 約10分)
- ④ 赤坂桐畑 → 溜池跡(溜池山王駅周辺) (滞在目安 約10分)
- ⑤ 赤坂桐畑雨中夕けい → 溜池跡(溜池山王駅周辺) (滞在目安 約10分)
- ⑥ 紀の国坂赤坂溜池遠景 → 紀伊国坂 (滞在目安 約10分)
- ⑦ 市ヶ谷八幡 → 市谷亀岡八幡宮 (滞在目安 約20分)
- ⑧ 四ツ谷内藤新宿 → 新宿三丁目・新宿御苑周辺 (滞在目安 約15分)

この順路でGoogleマップの徒歩ルートを開く →

エリアのグルメ



うなぎ

重箱

文化年間(1804-1818)創業と伝わる、200年以上続くうなぎの老舗。赤坂の中心で、今も炭火でじっくり焼き上げる江戸前うなぎを味わえます。

港区赤坂2-17-61



和菓子・お汁粉

とらや 赤坂店(虎屋菓寮)

室町時代創業と伝わる老舗和菓子店とらやの赤坂本店。3階の喫茶「虎屋菓寮」では、小豆の風味を生かしたお汁粉やあんみつが味わえる。

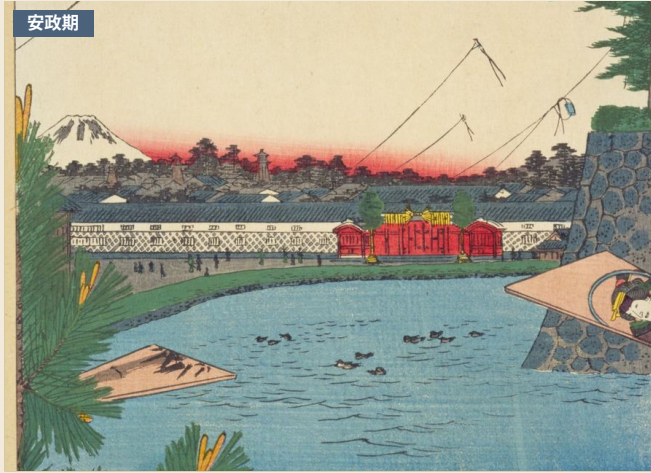
東京都港区赤坂4-9-22

1

山下町日比谷外さくら田

Hibiya and Soto-Sakurada from Yamashita-chō

安政4年(1857)12月 / No.11(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 山下町日比谷外さくら田」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン) Photo by Roger W(1967), Wikimedia Commons(CC BY-SA 2.0)

浮世絵を読み解く

正月の空に凧が舞い、鍋島家上屋敷の赤門越しに松飾りを望む一枚。日比谷の内堀端、山下町からの正月風景を描いています。

最寄り駅: 東京メトロ 日比谷駅から徒歩2分 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

山下町日比谷外さくら田

いまの場所

日比谷公園(心字池)
千代田区日比谷公園1

歴史

描かれた外堀(日比谷濠)は明治以降に埋め立てられましたが、一部は日比谷公園の「心字池」として今に残っています。鍋島家の屋敷跡は、公園の噴水広場あたりと考えられています。安政4年(1857)12月の作。

この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://online.bunka.go.jp/heritages/detail/417325>

2

霞かせき

Kasumigaseki

安政4年(1857)正月 / No.18(太田記念美術館リスト番号)



安政期



いま

歌川広重「名所江戸百景 霞かせき」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)

Photo by Miyuki Meinaka, Wikimedia Commons(Public Domain)

浮世絵を読み解く

正月飾りの松と、干物を担ぐ物売りを配した一枚。霞が関の名は、遠くまで霞がたなびくように見えた眺めの良さに由来すると言われます。

最寄り駅: 東京メトロ 霞ヶ関駅すぐ 滞在目安: 約5分

広重が描いた場所

霞かせき

いまの場所

霞が関(中央合同庁舎周辺)
千代田区霞が関2丁目

歴史

江戸時代の霞が関一帯は大名屋敷が立ち並ぶ武家地でしたが、明治以降に中央官庁街となり、今の国土交通省・外務省などが軒を連ねています。安政4年(1857)正月の作。

[この場所をGoogleマップで見る →](#)浮世絵原画・解説: <https://www.nippon.com/ja/guide-to-japan/gu004027/>

3

虎の門外あふひ坂

Aoi Slope, Outside Toranomon Gate

安政4年(1857)11月 / No.117(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 虎の門外あふひ坂」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン) Photo by Soramimi, Wikimedia Commons(CC BY-SA 4.0)

浮世絵を読み解く

極寒の夜、虎ノ門の外堀沿いに続く葵坂を、提灯を手に凍えながら歩く人々を描いた一枚。手前の二人は職人の徒弟で、真冬に神社仏閣を裸参りする「寒稽古」の途中とされ、地面には湯気の立つ落とし物まで克明に描かれています。

最寄り駅: 東京メトロ 虎ノ門駅から徒歩すぐ 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

虎の門外あふひ坂

いまの場所

葵坂跡(虎ノ門一丁目付近)
港区虎ノ門1丁目付近

歴史

葵坂は江戸城外堀(現在の桜田通り・外堀通り交差点付近)にあった坂道で、坂の周辺一帯が「赤坂葵町」と呼ばれたことに名の由来があります。外堀は明治以降に埋め立てられ、坂そのものも都市開発でほぼ消滅しましたが、地下鉄駅名や町名に「虎ノ門」の名だけが残っています。

この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%99%8E%E3%83%8E%E9%96%80>

4

赤坂桐畑

The Paulownia Field at Akasaka

安政3年(1856)4月 / No.30(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 赤坂桐畑」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by MaedaAkihiko, Wikimedia Commons(CC0)

浮世絵を読み解く

外堀の一部だった溜池のほとりに広がる桐畑を描いた一枚。江戸時代初期に土手の土留めとして植えられたと伝わる二本の桐の木が手前にそびえ、対岸には大名屋敷の藁が連なっています。

最寄り駅: 東京メトロ 溜池山王駅から徒歩 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

赤坂桐畑

いまの場所

溜池跡(溜池山王駅周辺)

港区赤坂1丁目・永田町2丁目付近

歴史

溜池は江戸城西側の外堀を兼ねた人工の池で、かつては江戸市中への上水源のひとつでもありました。明治以降に埋め立てられて道路となり、今ではその名を「溜池山王」の駅名に残すのみ。桐の木も池も失われ、現在は首都高速と高層ビルが行き交うオフィス街に姿を変えています。

この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%BA%9C%E6%B1%A0>

5

赤坂桐畑雨中夕けい

Night Rain at the Paulownia Grove, Akasaka

安政6年(1859)4月 / No.118(太田記念美術館リスト番号)



二代歌川広重「名所江戸百景 赤坂桐畑雨中夕けい」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by MaedaAkihiko, Wikimedia Commons(CC0)

浮世絵を読み解く

同じ桐畑を、雨に畑る夕暮れどきに描き直した一枚。手前の桐の枝葉が画面いっぱいに広がり、雨脚を表す繊細な斜めの摺り(バレン摺り)が、しっとりとした夜の空気を伝えています。

最寄り駅: 東京メトロ 溜池山王駅から徒歩 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

赤坂桐畑雨中夕けい

いまの場所

溜池跡(溜池山王駅周辺)

港区赤坂1丁目・永田町2丁目付近

歴史

初代広重は安政5年(1858)に没しましたが、「名所江戸百景」は好評につき続刊が望まれ、二代広重(初代の門人・重宣)が跡を継いで欠けていた図を補いました。本作はその代表例で、初代の「赤坂桐畑」(前図)と同じ場所を、師の死後に弟子が描き足した一枚として知られています。

この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: [https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%AD%8C%E5%B7%9D%E5%BA%83%E9%87%8D_\(2%E4%BB%A3%E7%9B%AE\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%AD%8C%E5%B7%9D%E5%BA%83%E9%87%8D_(2%E4%BB%A3%E7%9B%AE))

6

紀の国坂赤坂溜池遠景

Kinokuni Hill and Distant View of Akasaka Tameike

安政4年(1857)9月 / No.35(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 紀の国坂赤坂溜池遠景」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by ITA-ATU, Wikimedia Commons(CC BY-SA 4.0)

浮世絵を読み解く

紀伊徳川家の屋敷脇を通る坂道を、大名行列がゆっくりと上ってゆく情景。坂の下には溜池と対岸の町並みが遠く広がり、手前の木々の緑と奥の水面の対比が涼やかな一枚です。

最寄り駅: 東京メトロ 赤坂見附駅から徒歩8分 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

紀の国坂赤坂溜池遠景

いまの場所

紀伊国坂

港区元赤坂2丁目付近

歴史

「紀伊国坂」の名は、坂の西側に御三家のひとつ紀伊徳川家の広大な中屋敷があったことに由来します。その屋敷跡地は明治以降皇室に献上され、現在は迎賓館赤坂離宮と赤坂御用地となっています。坂そのものは今も同じ場所に残り、迎賓館の石垣沿いを歩くことができます。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

迎賓館赤坂離宮

徒歩3分ほど



明治42年(1909)完成、旧東宮御所として建てられたネオ・バロック様式の洋館。紀伊徳川家中屋敷の跡地に立ち、日本を代表する迎賓施設として国賓・公賓を迎えています。

[この場所をGoogleマップで見る →](#)

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%B4%80%E4%BC%8A%E5%9B%BD%E5%9D%82>

7

市ヶ谷八幡

Ichigaya Hachiman Shrine

安政5年(1858)10月 / No.42(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 市ヶ谷八幡」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Doricono, Wikimedia Commons(CC BY-SA 4.0)

浮世絵を読み解く

急な石段の上に鳥居がそびえ、参道脇には大きな松の木が枝を広げる情景。石段を上り下りする参詣者たちの姿が小さく描かれ、境内からの眺めの良さが伝わってきます。

最寄り駅: JR・都営新宿線 市ヶ谷駅から徒歩3分 滞在目安: 約20分

広重が描いた場所

市ヶ谷八幡

いまの場所

市谷亀岡八幡宮

新宿区市谷八幡町15

歴史

太田道灌が江戸城築城の際、鎌倉の鶴岡八幡宮を勧請して文明11年(1479)に創建したと伝わる古社。江戸時代は徳川將軍家からも篤く信仰され、現在も急な石段と正面の大きな鳥居は当時とほぼ変わらぬ姿で残っています。境内には縁結びで知られる茶ノ木稲荷神社も鎮座します。

この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B8%82%E8%B0%B7%E4%BA%80%E5%B2%A1%E5%85%AB%E5%B9%A1%E5%AE%AE>

8

四ツ谷内藤新宿

Naitō Shinjuku, Yotsuya

安政4年(1857)11月 / No.26(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 四ツ谷内藤新宿」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Kentin, Wikimedia Commons(CC BY-SA 4.0)

浮世絵を読み解く

宿場の路上に佇む二頭の馬と、その足元に転がる馬糞の玉までもをあえて克明に描いた、シリーズ中でも異色の一枚。手前に大きく描かれた馬の脚が独特の遠近感を生み、飾らない宿場の日常を伝えています。

最寄り駅: 東京メトロ・都営新宿線 新宿三丁目駅から徒歩すぐ 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

四ツ谷内藤新宿

いまの場所

新宿三丁目・新宿御苑周辺
新宿区新宿3丁目付近

歴史

内藤新宿は元禄11年(1698)、甲州街道の最初の宿場として開設された、江戸四宿(品川・板橋・千住・新宿)のひとつ。もとは信濃高遠藩・内藤家の下屋敷地で、その広大な屋敷跡地は明治以降「新宿御苑」として整備され、現在は都心有数の庭園として親しまれています。宿場としての賑わいは新宿三丁目・新宿通り一帯に受け継がれています。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

太宗寺

徒歩7分ほど



慶長元年(1596)開山と伝わる浄土宗の寺院。内藤家の菩提寺としても知られ、境内には江戸六地藏の一つに数えられる銅造地藏菩薩坐像が今も残っています。

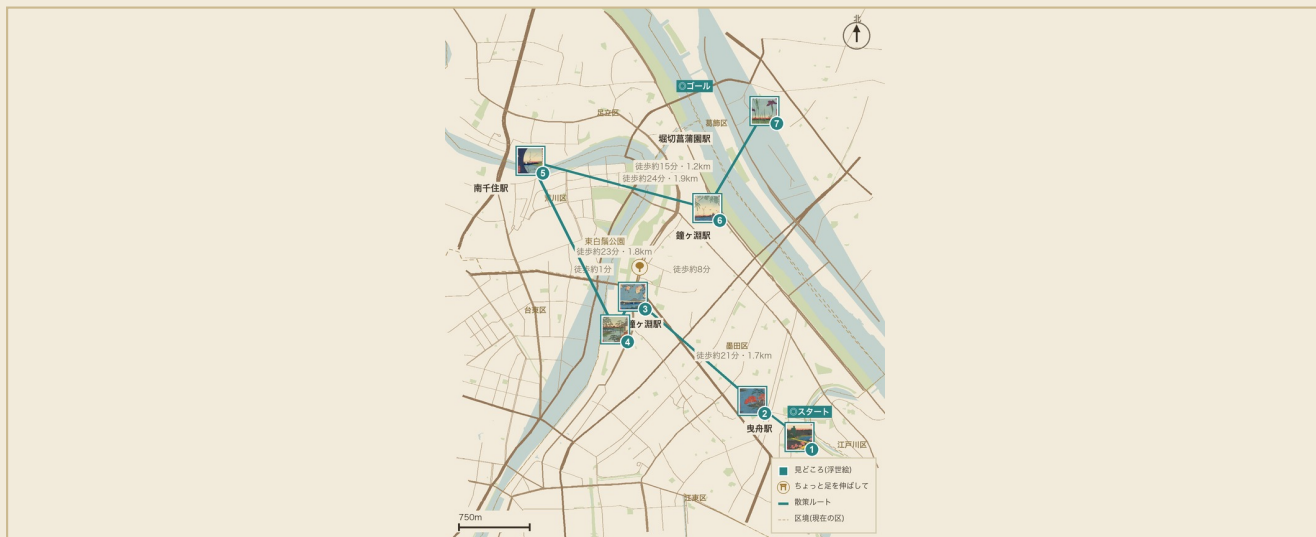
[この場所をGoogleマップで見る →](#)

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%86%85%E8%97%A4%E6%96%B0%E5%AE%BF>

向島・墨田北ルート

墨田区・荒川区・葛飾区

亀戸方面の吾嬬神社から隅田川沿いを北上し、堀切菖蒲園まで歩く、水にゆかりの深い名所をめぐるルート。



起点: 東武亀戸線・JR 小村井駅

終点: 京成本線 堀切菖蒲園駅

徒歩距離目安: 約7.4km

順路

- ① 吾嬬の森連理の梓 → 吾嬬神社 (滞在目安 約15分)
- ② 請地秋葉の境内 → 向島秋葉神社 (滞在目安 約10分)
- ③ 隅田川水神の森真崎 → 隅田川神社 (滞在目安 約15分)
- ④ 木母寺内川御前裁畑 → 木母寺 (滞在目安 約15分)
- ⑤ 真崎辺より水神の森内川関屋の里を見る図 → 関屋の里跡(素盞雄神社周辺) (滞在目安 約15分)
- ⑥ 綾瀬川鐘か淵 → 鐘ヶ淵 (滞在目安 約10分)
- ⑦ 堀切の花菖蒲 → 堀切菖蒲園 (滞在目安 約30分)

[この順路でGoogleマップの徒歩ルートを開く →](#)

エリアのグルメ



三色団子(言問団子)

言問団子

慶応年間(1865-1868)創業、隅田川沿いに佇む老舗和菓子店。あんこ・白餡・味噌餡の三色団子「言問団子」は、在原業平の和歌にちなんで名付けられました。幸田露伴や竹久夢二ら文人にも愛された名店です。

墨田区向島5-5-22

写真は未掲載です

草餅

志”満ん草餅

明治2年(1869)創業、隅田川土手のヨモギで作った草餅を渡し舟を待つ人に供したのが始まり。あん入り・あんなしの2種類があり、今も4代目が製法を守る。

東京都墨田区堤通1-5-9

1

吾孀の森連理の梓

Azuma Shrine and the Entwined Camphor

安政3年(1856)7月 / No.50(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 吾孀の森連理の梓」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Beryllium Transistor, Wikimedia Commons(CC BY-SA 4.0)

浮世絵を読み解く

二股に分かれながら根元でつながる、珍しい「連理の梓」の大木を大きく手前に描いた一枚。木の根元には小さな祠が祀られ、その奥に吾孀神社の杜が静かに広がっています。

最寄り駅: JR・東武亀戸線 亀戸駅から徒歩15分 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

吾孀の森連理の梓

いまの場所

吾孀神社

墨田区立花1-1-15

歴史

日本武尊の妃・弟橘媛が海神の怒りを鎮めるため入水し、後にその衣が漂着したという伝説から祀られたと伝わる古社です。かつて境内には二股の梓(あずさ)の大木があり「吾孀の森」として名所江戸百景にも描かれていましたが、明治43年(1910)の大水害で失われました。それでも杜と社殿は今も同じ場所に残り、地域の鎮守として大切にされています。

この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%90%BE%E5%AC%AC%E7%A5%9E%E7%A4%BE>

2

請地秋葉の境内

Inside Akiba Shrine at Ukeji

安政4年(1857)8月 / No.91(太田記念美術館リスト番号)



安政期



いま

歌川広重「名所江戸百景 請地秋葉の境内」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)

Photo by Beryjapan, Wikimedia Commons(CC BY-SA 4.0)

浮世絵を読み解く

秋葉神社の池に映る木々の影を、緑と紅葉の濃淡で描き分けただけ。西洋画にも通じる「水面の反射」表現を取り入れた、広重晩年らしい実験的な構図です。

最寄り駅: 東武伊勢崎線 曳舟駅から徒歩8分 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

請地秋葉の境内

いまの場所

向島秋葉神社

墨田区向島4-9-13

歴史

請地村の鎮守だった秋葉神社(千代世稲荷大明神として正応2年/1289年頃創建と伝わる)は、防火の神様として今も向島に鎮座しています。安政4年(1857)8月作。

この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: [https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A7%8B%E8%91%89%E7%A5%9E%E7%A4%BE_\(%E5%A2%A8%E7%94%B0%E5%8C%BA\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A7%8B%E8%91%89%E7%A5%9E%E7%A4%BE_(%E5%A2%A8%E7%94%B0%E5%8C%BA))

3

隅田川水神の森真崎

Suijin Shrine and Massaki on the Sumida River

安政3年(1856)8月 / No.3(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 隅田川水神の森真崎」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Higa4, Wikimedia Commons(CC0)

浮世絵を読み解く

隅田川が大きく蛇行する「水神の森」の岸边から、対岸の真崎(まっさき)方面を望む構図。手前の木々の緑と、川面に浮かぶ舟、遠くに広がる田園風景が描かれています。

最寄り駅: 東武伊勢崎線 鐘ヶ淵駅から徒歩10分 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

隅田川水神の森真崎

いまの場所

隅田川神社

墨田区堤通2-17-1

歴史

水神の森は、その名の通り水運関係者から篤く信仰された水神社(現・隅田川神社)の鎮守の杜でした。治承4年(1180)、源頼朝が暴風雨に遭った際にこの神へ祈願したという伝説も残ります。明治5年(1872)に隅田川神社と改称し、現在も堤通の隅田川沿いに鎮座しています。

歩いて行けるならちょっと足を伸ばして

東白鬚公園

徒歩3分ほど



隅田川神社のすぐ北に隣接する、川沿いに細長く延びる都立公園。防災拠点としての役割も持ち、川風を感じながら散策できる憩いの場です。

[この場所をGoogleマップで見る →](#)

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%9A%85%E7%94%B0%E5%B7%9D%E7%A5%9E%E7%A4%BE>

4

木母寺内川御前栽畑

Mokuboji Temple and Vegetable Fields on Uchikawa Inlet

安政4年(1857)12月 / No.61(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 木母寺内川御前栽畑」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン) Photo by Abasaa, Wikimedia Commons(Public Domain)

浮世絵を読み解く

木母寺の門前に広がる内川(うちかわ)沿いの畑を描いた一枚。畑の作物と、その奥に見える木母寺の麓、遠く雪をかぶった山並みまでが一望できる、のどかな冬景色です。

最寄り駅: 東武伊勢崎線 鐘ヶ淵駅から徒歩10分 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

木母寺内川御前栽畑

いまの場所

木母寺

墨田区堤通2-16-1

歴史

木母寺は天禄元年(970)創建と伝わる古刹で、人買いにさらわれてこの地で亡くなった少年・梅若丸を吊う「梅若伝説」ゆかりの寺として知られます。この伝説は能「隅田川」など数々の古典芸能の題材にもなりました。堤防工事に伴い元の場所から少し移動しましたが、隅田川神社のすぐ隣に今も梅若の供養塔とともに残っています。

この場所をGoogleマップで見る →

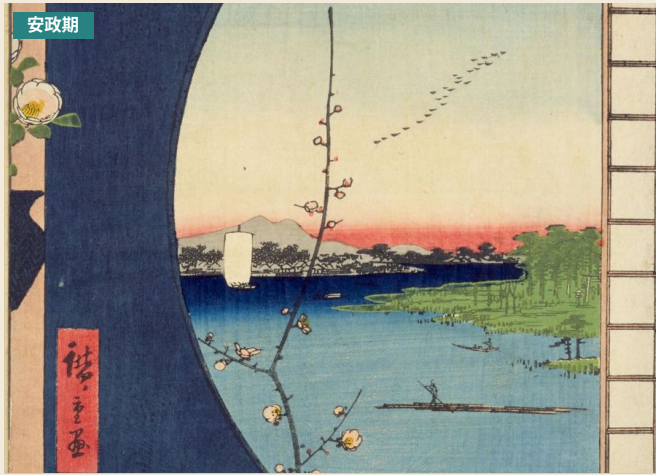
浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9C%A8%E6%AF%8D%E5%AF%BA>

5

真崎辺より水神の森内川関屋の里を見る図

View from Massaki of Suijin Shrine, Uchikawa Inlet, and Sekiya

安政4年(1857)8月 / No.27(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 真崎辺より水神の森内川関屋の里を見る図」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)

Photo by Higa4, Wikimedia Commons(CC0)

浮世絵を読み解く

隅田川対岸の真崎から、水神の森と内川、そして関屋の里を見晴らす構図。手前を鷹狩り姿の行列が横切り、遠くに筑波山まで見渡せる、広々とした空間表現が魅力の一枚です。

最寄り駅: JR・東京メトロ・つくばエクスプレス 南千住駅から徒歩8分 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

真崎辺より水神の森内川関屋の里を見る図

いまの場所

関屋の里跡(素盞雄神社周辺)

荒川区南千住6丁目付近

歴史

「関屋の里」は隅田川西岸、現在の南千住・千住付近一帯を指した古い地名です。この一帯の総鎮守である素盞雄神社(すさのおじんじゃ)は延暦14年(795)創建と伝わる古社で、松尾芭蕉が「奥の細道」の旅に出発した地としても知られ、境内には芭蕉の句碑が残ります。

この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: [https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%B4%A0%E7%9B%9E%E9%9B%84%E7%A5%9E%E7%A4%BE_\(%E8%8D%92%E5%B7%9D%E5%\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%B4%A0%E7%9B%9E%E9%9B%84%E7%A5%9E%E7%A4%BE_(%E8%8D%92%E5%B7%9D%E5%))

6

綾瀬川鐘か淵

Ayase River and Kanegafuchi

安政4年(1857)7月 / No.31(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 綾瀬川鐘か淵」 国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Nesnad, Wikimedia Commons(CC BY-SA 3.0)

浮世絵を読み解く

隅田川が大きく直角に曲がる淀み「鐘ヶ淵」を描いた一枚。手前には漁をする小舟が浮かび、対岸には木々と家並みが静かに広がっています。

最寄り駅: 東武伊勢崎線 鐘ヶ淵駅から徒歩 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

綾瀬川鐘か淵

いまの場所

鐘ヶ淵

墨田区墨田1丁目・堤通2丁目付近

歴史

「鐘ヶ淵」の名は、水没した寺の鐘がこの淀みに沈んでいるという伝説に由来します。川がちょうど指矩(さしがね、大工道具の直角定規)のように直角に曲がることから名付けられたとも言われます。明治期にはこの地に鐘淵紡績(後のカネボウ)が創業し、地名は工業の町としても知られるようになりました。現在は東武伊勢崎線の駅名として、その名を今に伝えています。

この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%89%84%E3%83%B6%E6%B7%B5>

7

堀切の花菖蒲

Horikiri Iris Garden

安政4年(1857)閏5月 / No.70(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 堀切の花菖蒲」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Nesnad, Wikimedia Commons(CC BY-SA 4.0 / GFDL)

浮世絵を読み解く

菖蒲田越しに、初夏の花菖蒲を楽しむ人々を見下ろす構図。手前に大きく描かれた紫と白の花菖蒲が、シリーズ屈指の華やかさを見せる一枚です。

最寄り駅: 京成本線 堀切菖蒲園駅から徒歩10分 滞在目安: 約30分

広重が描いた場所

堀切の花菖蒲

いまの場所

堀切菖蒲園

葛飾区堀切2-19-1

歴史

堀切の花菖蒲園は江戸時代から続く、庶民に愛された花菖蒲の名所です。明治以降も何度か経営者や場所を変えながら守られ、昭和34年(1959)に東京都が買収して現在の「堀切菖蒲園」として整備されました。今も6月には約200種6,000株の花菖蒲が咲き誇り、江戸時代さながらの光景を見ることができます。

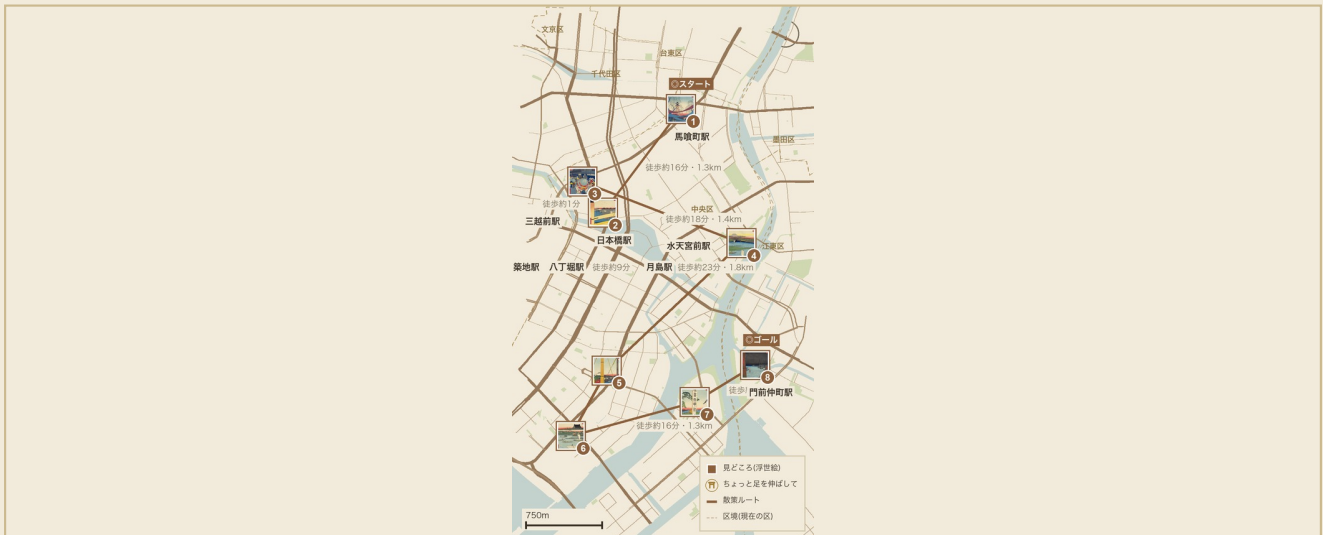
この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A0%80%E5%88%87%E8%8F%96%E8%92%B2%E5%9C%92>

日本橋・佃島・築地ルート

中央区

馬喰町の間屋街から日本橋・鉄砲洲・築地を経て、佃島の住吉神社・永代橋まで歩く散歩ルート。



起点: 都営新宿線・JR 馬喰町駅

終点: 東京メトロ 門前仲町駅

徒歩距離目安: 約5.5km

順路

- ① 馬喰町初音の馬場 → 馬喰町・横山町間屋街 (滞在目安 約10分)
- ② 日本橋江戸ばし → 日本橋・江戸橋 (滞在目安 約15分)
- ③ 日本橋通一丁目略図 → 日本橋室町(コレド室町周辺) (滞在目安 約15分)
- ④ みつまたわかれの淵 → 日本橋中洲 (滞在目安 約10分)
- ⑤ 鉄砲洲稻荷橋湊神社 → 鉄砲洲稻荷神社 (滞在目安 約15分)
- ⑥ 鉄砲洲築地門跡 → 築地本願寺 (滞在目安 約20分)
- ⑦ 佃しま住吉の祭 → 住吉神社(佃島) (滞在目安 約20分)
- ⑧ 永代橋佃しま → 永代橋 (滞在目安 約15分)

この順路でGoogleマップの徒歩ルートを開く →

エリアのグルメ

適切なライセンスの現地写真が見つからず未掲載です

佃煮 天安本店

天保8年(1837)創業、佃島に今も残る佃煮の老舗。「佃煮」という言葉自体、この佃島で漁師町の保存食として生まれたとされ、天安はその発祥の歴史を伝える名店のひとつです。

中央区佃1-3-14

写真は未掲載です

佃煮 丸久

安政6年(1859)創業、佃島に残る佃煮の老舗のひとつ。手作りにこだわり、昔ながらの製法で炊き上げる佃煮を今も製造・販売している。

東京都中央区佃1-2-10

1

馬喰町初音の馬場

Hatsune Horse Riding Ground, Bakuro-chō

安政4年(1857)9月 / No.93(太田記念美術館リスト番号)



安政期

問屋街としての痕跡はあるものの、適切な現地写真が見つからず未掲載です

歌川広重「名所江戸百景 馬喰町初音の馬場」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)

浮世絵を読み解く

馬場で馬を責める武士たちと、それを取り囲む見物人たちの活気を描いた一枚。手前には旗指物がはためき、馬喰町という地名の由来ともなった馬にまつわる情景が生き生きと表現されています。

最寄り駅: 都営新宿線・JR 馬喰町駅から徒歩すぐ 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

馬喰町初音の馬場

いまの場所

馬喰町・横山町問屋街

中央区日本橋馬喰町・横山町付近

歴史

馬喰町の名は、江戸時代に幕府の御用で馬の売買や仲介を行う「馬喰(博労)」たちが集まって暮らしたことに由来します。明治以降は繊維・雑貨の問屋街として発展し、隣接する横山町とあわせて「横山町・馬喰町問屋街」は今も日本最大級の衣料品卸商店街として賑わっています。

この場所をGoogleマップで見る →

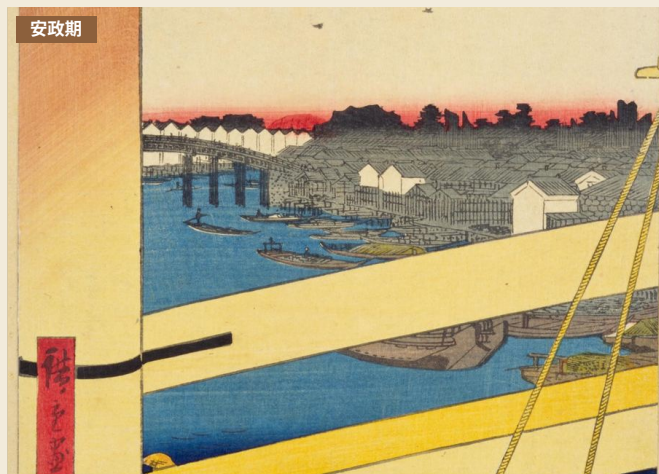
浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E6%A9%8B%E9%A6%AC%E5%96%B0%E7%94%BA>

2

日本橋江戸ばし

Nihonbashi Bridge and Edobashi Bridge

安政4年(1857)12月 / No.7(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 日本橋江戸ばし」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Aimaimyi, Wikimedia Commons(CC BY-SA 3.0 / GFDL)

浮世絵を読み解く

日本橋川に架かる江戸橋の上から、荷を積んだ舟や、橋を渡る人々を見下ろす構図。手前の蔵造りの問屋が並ぶ河岸には木材が積み上げられ、水運で栄えた日本橋の賑わいが伝わってきます。

最寄り駅: 東京メトロ・都営浅草線 日本橋駅から徒歩 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

日本橋江戸ばし

いまの場所

日本橋・江戸橋

中央区日本橋1丁目・日本橋室町1丁目付近

歴史

江戸橋は日本橋のすぐ下流に架かる橋で、名は「日本橋」と対になる形で名付けられました。現在の橋は昭和2年(1927)築の鋼橋で、頭上には首都高速都心環状線が通っています。すぐ隣の日本橋は明治44年(1911)完成の石造二重アーチ橋で、国の重要文化財に指定されています。

この場所をGoogleマップで見る →

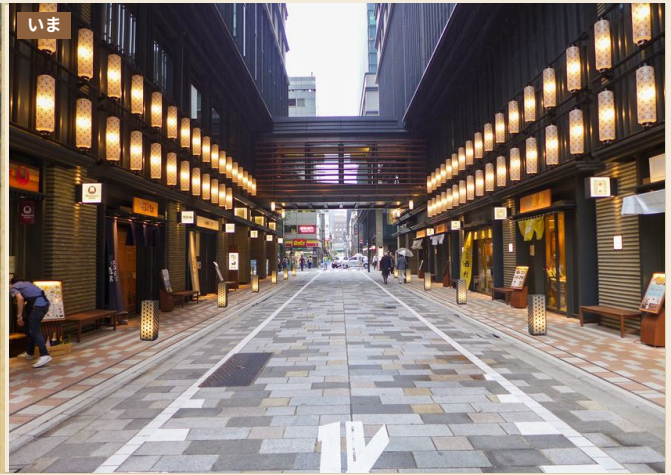
浮世絵原画・解説: [https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B1%9F%E6%88%B8%E6%A9%8B_\(%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E9%83%BD\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B1%9F%E6%88%B8%E6%A9%8B_(%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E9%83%BD))

3

日本橋通一丁目略図

View of Nihonbashi Itchōme Street

安政5年(1858)8月 / No.58(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 日本橋通一丁目略図」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン) Photo by Wpcpey, Wikimedia Commons(CC BY-SA 4.0)

浮世絵を読み解く

日本橋通りを見下ろす構図で、大店の看板が連なる大通りを、天秤棒を担ぐ商人や旅人たちが行き交う様子を描いた一枚。手前には呉服店の暖簾が大きくはためいています。

最寄り駅: 東京メトロ 三越前駅から徒歩すぐ 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

日本橋通一丁目略図

いまの場所

日本橋室町(コレド室町周辺)
中央区日本橋室町1丁目付近

歴史

日本橋通り一丁目は、江戸有数の呉服店「越後屋」(後の三越)をはじめ、大店が軒を連ねた江戸随一の商業地でした。現在この一帯は「コレド室町」として再開発され、老舗百貨店と最新の商業施設が同居する日本橋のシンボリックなエリアになっています。

この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E6%A9%8B%E5%AE%A4%E7%94%BA>

4

みつまたわかれの渚

Mitsumata Wakarenofuchi

安政4年(1857)2月 / No.97(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 みつまたわかれの渚」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Higa4, Wikimedia Commons(CC0)

浮世絵を読み解く

隅田川が3つに分かれて見える中洲の淀みを描いた一枚。かつて茶屋町として栄えた中洲新地は、たびたびの水害で幕府により取り壊され、葦の茂る湿地に戻されていました。

最寄り駅: 東京メトロ半蔵門線 水天宮前駅から徒歩8分 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

みつまたわかれの渚

いまの場所

日本橋中洲

中央区日本橋中洲

歴史

現在の日本橋中洲(中央区)にあたる地で、当時すでに歓楽街だった中洲新地が取り壊されてから68年後の風景を描いています。安政4年(1857)2月の作。

[この場所をGoogleマップで見る →](#)浮世絵原画・解説: <https://note.com/ohyononote/n/n8060b06e9506>

5

鉄砲洲稲荷橋湊神社

Inari Bridge and Minato Shrine, Teppōzu

安政4年(1857)2月 / No.29(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 鉄砲洲稲荷橋湊神社」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Tak1701d, Wikimedia Commons(CC BY-SA 3.0 / GFDL)

浮世絵を読み解く

稲荷橋のたもとから、帆を張った井才船と、対岸の鉄砲洲湊神社の社を望む構図。手前には荷を運ぶ人足たちの姿があり、水運の要衝としての鉄砲洲の賑わいが描かれています。

最寄り駅: 東京メトロ 八丁堀駅から徒歩5分 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

鉄砲洲稲荷橋湊神社

いまの場所

鉄砲洲稲荷神社

中央区湊1-6-7

歴史

鉄砲洲は江戸時代、幕府の鉄砲practice場があったことに由来する地名です。鉄砲洲稲荷神社は平安時代創建と伝わる古社で、江戸時代には港の安全を守る「湊神社」として船乗りたちの篤い信仰を集めました。今も1月の「寒中水浴大会」など、海にゆかりの深い神事を伝えています。

この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%90%B5%E7%A0%B2%E6%B4%B2%E7%A8%B2%E8%8D%B7%E7%A5%9E%E7%A4%BE>

6

鉄砲洲築地門跡

Teppōzu and Tsukiji Monzeki

安政5年(1858)7月 / No.44(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「江戸百景餘興 鉄砲洲築地門跡」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Kakidai, Wikimedia Commons(CC BY-SA 4.0)

浮世絵を読み解く

鉄砲洲の河岸から、築地本願寺(西本願寺の別院、当時は「門跡」と呼ばれた)の大屋根を望む構図。手前には荷を積んだ舟が行き交い、埋め立て地・築地の水辺の風景が広がっています。

最寄り駅: 東京メトロ 築地駅から徒歩1分 滞在目安: 約20分

広重が描いた場所

鉄砲洲築地門跡

いまの場所

築地本願寺

中央区築地3-15-1

歴史

築地本願寺は明暦の大火(1657)で焼失した浅草の本願寺別院を、佃島の門徒の協力で海を埋め立てて再建したのが始まりです。「築地」の地名自体、この「土地を築いた」ことに由来します。現在の古代インド様式の本堂は昭和9年(1934)築で、伝統的な寺院建築のイメージを覆すユニークな外観として知られています。

この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%AF%89%E5%9C%B0%E6%9C%AC%E9%A1%98%E5%AF%BA>

7

佃しま住吉の祭

Sumiyoshi Festival, Tsukudajima

安政4年(1857)7月 / No.40(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 佃しほ住吉の祭」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン) Photo by Ysakuma14, Wikimedia Commons(CC BY-SA 4.0)

浮世絵を読み解く

佃島の住吉神社の祭礼で、屋根船から高く掲げられた幟(のぼり)を見上げる構図。旧暦6月29日に行われたこの祭りは江戸市中でも評判で、佃沖に停泊した舟の上からも見物する人々の熱気が伝わってきます。

最寄り駅: 東京メトロ 月島駅から徒歩7分 滞在目安: 約20分

広重が描いた場所

佃しま住吉の祭

いまの場所

住吉神社(佃島)
中央区佃1-1-14

歷史

佃島は正保元年(1644)、徳川家康に招かれて摂津国佃村(現・大阪市西淀川区)から移住した漁師たちが、埋め立てて造った人工の島です。住吉神社は彼らが故郷から勧請した神社で、3年に一度の本祭りでは関東では珍しい八角形の神輿と、江戸城からも見えたという6本の大幟が今も掲げられます。

[この場所をGoogleマップで見る →](#)

浮世絵原画・解説: [https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BD%8F%E5%90%89%E7%A5%9E%E7%A4%BE_\(%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E9%83%BD%E4%\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BD%8F%E5%90%89%E7%A5%9E%E7%A4%BE_(%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E9%83%BD%E4%))

8

永代橋佃しま

Tsukudajima from Eitaibashi Bridge

安政4年(1857)2月 / No.108(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 永代橋佃しま」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by jmho, Wikimedia Commons(Public Domain)

浮世絵を読み解く

永代橋の上から隅田川を見下ろし、対岸に浮かぶ佃島を望む構図。橋の上には正月らしく晴れ着姿の人々が行き交い、川面には初荷を積んだ舟が連なっています。

最寄り駅: 東京メトロ 門前仲町駅から徒歩8分 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

永代橋佃しま

いまの場所

永代橋

中央区新川1丁目・江東区佐賀1丁目

歴史

永代橋は元禄11年(1698)、5代将軍・徳川綱吉の50歳を祝って架けられた橋です。文化4年(1807)の祭礼時には群衆の重みで橋が崩落し、多数の死者を出す大惨事も起きました。現在の橋は関東大震災復興事業として大正15年(1926)に架け替えられたタイドアーチ橋で、国の重要文化財に指定されています。

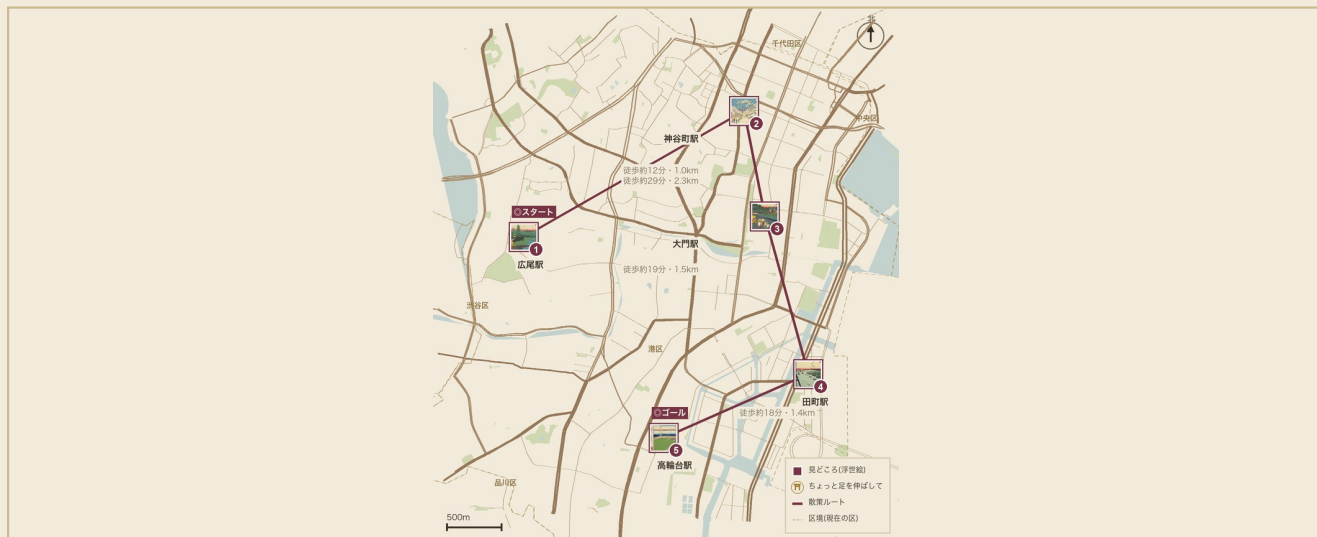
この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B0%B8%E4%BB%A3%E6%A9%8B>

芝・三田ルート

港区

愛宕下から芝大神宮・芝浦を経て、三田・伊皿子坂の高台まで歩く散歩ルート。



起点: 東京メトロ 神谷町駅

終点: 都営浅草線 高輪台駅

徒歩距離目安: 約3.9km

順路

- ① 広尾ふる川 → 天現寺橋交差点周辺(有栖川宮記念公園) (滞在目安 約10分)
- ② 愛宕下藪小路 → 愛宕下(愛宕グリーンヒルズ周辺) (滞在目安 約10分)
- ③ 芝神明増上寺 → 芝大神宮 (滞在目安 約15分)
- ④ 芝うらの風景 → 芝浦(芝浦アイランド周辺) (滞在目安 約10分)
- ⑤ 月の岬 → 月の岬跡(伊皿子坂周辺) (滞在目安 約15分)

この順路でGoogleマップの徒歩ルートを開く →

エリアのグルメ

適切なライセンスの現地写真が見つからず未掲載です

江戸蕎麦

芝大門 更科布屋

寛政3年(1791)創業、増上寺の大門前に店を構える江戸蕎麦の老舗。真っ白な更科そばと、江戸の食文化を受け継ぐ甘めの返しつゆが名物です。

港区芝大門1-13-8

写真は未掲載です

天然たい焼き

芝之寿堂

明治42年(1909)創業、もとは和菓子屋として始まった芝の老舗。一丁焼きで一つずつ丁寧に焼き上げる天然たい焼きが名物。

東京都港区芝2-30-11

1

広尾ふる川

Furukawa River, Hiroo

安政3年(1856)7月 / No.57(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 広尾ふる川」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Syced, Wikimedia Commons(CC0)

浮世絵を読み解く

古川(渋谷川の下流)の流れと、対岸の丘陵地を描いた一枚。今の天現寺橋交差点付近から見た景色と考えられています。

最寄り駅: 東京メトロ日比谷線 広尾駅から徒歩3分 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

広尾ふる川

いまの場所

天現寺橋交差点周辺(有栖川宮記念公園)
港区南麻布5丁目

歴史

古川は上流を渋谷川、下流を古川・新堀川と名を変えながら江戸湾へ注ぐ川で、1960年代以降は大部分が首都高速道路の下に隠れています。左奥に見える丘は、今の有栖川宮記念公園にあたる一帯です。安政3年(1856)7月の作。

この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://www.nippon.com/ja/guide-to-japan/gu004038/>

2

愛宕下藪小路

Atagoshita and Yabu Lane

安政4年(1857)12月 / No.82(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 愛宕下藪小路」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by 110kuwahara, Wikimedia Commons(CC BY-SA 3.0 / GFDL)

浮世絵を読み解く

愛宕山の麓、大名屋敷の練堀沿いに雪の積もった竹藪の小路を描いた一枚。人影のない静かな冬の路地に、傘をさした人物が一人だけ描かれ、しんとした空気が伝わってきます。

最寄り駅: 東京メトロ 神谷町駅から徒歩すぐ 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

愛宕下藪小路

いまの場所

愛宕下(愛宕グリーンヒルズ周辺)
港区愛宕1丁目付近

歴史

「愛宕下」は愛宕山の南東麓一帯を指した地名で、江戸時代は大名屋敷や武家屋敷が立ち並ぶ静かな武家地でした。現在この一帯は「愛宕グリーンヒルズ」として再開発され、超高層オフィスタワーとNHK放送博物館などが並ぶエリアに生まれ変わっています。

この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: [https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%84%9B%E5%AE%95%E5%B1%B1_\(%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E9%83%BD\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%84%9B%E5%AE%95%E5%B1%B1_(%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E9%83%BD))

3

芝神明増上寺

Shiba Shinmei Shrine and Zōjōji Temple

安政5年(1858)7月 / No.49(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「江戸百景餘興 芝神明増上寺」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by KENPEI, Wikimedia Commons(CC BY-SA 3.0)

浮世絵を読み解く

芝神明宮(現・芝大神宮)の門前と、その先にそびえる増上寺の躰を一枚に収めた構図。手前には参詣客で賑わう茶屋が並び、二つの信仰の中心が寄り添う芝の町の賑わいを伝えています。

最寄り駅: 都営浅草線・三田線 大門駅から徒歩5分 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

芝神明増上寺

いまの場所

芝大神宮

港区芝大門1-12-7

歴史

芝大神宮は平安時代創建と伝わる古社で、江戸時代は「関東のお伊勢さま」として篤く信仰されました。9月に行われる「だらだら祭り」(生姜市)は今も続く名物行事です。すぐ隣の増上寺は徳川将軍家の菩提寺で、当時は境内地続きの一体として賑わっていました。

この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%8A%9D%E5%A4%A7%E7%A5%9E%E5%AE%AE>

4

芝うらの風景

View of Shiba Coast

安政3年(1856)2月 / No.64(太田記念美術館リスト番号)



安政期



いま

歌川広重「名所江戸百景 芝うらの風景」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)

Photo by Harani0403, Wikimedia Commons(CC BY-SA 3.0)

浮世絵を読み解く

芝浦の遠浅の海辺に、貝を採る人々と停泊する舟を描いた一枚。江戸湾を望む静かな漁師町の風景で、遠くには対岸の房総の山並みまで見渡せます。

最寄り駅: JR・東京モノレール 田町駅から徒歩12分 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

芝うらの風景

いまの場所

芝浦(芝浦アイランド周辺)
港区芝浦4丁目付近

歴史

かつて遠浅の海苔の産地として知られた芝浦は、明治以降の埋め立てで海岸線が大きく後退しました。現在は運河に囲まれた「芝浦アイランド」として再開発され、高層マンション群が立ち並ぶウォーターフロントの住宅地に姿を変えています。

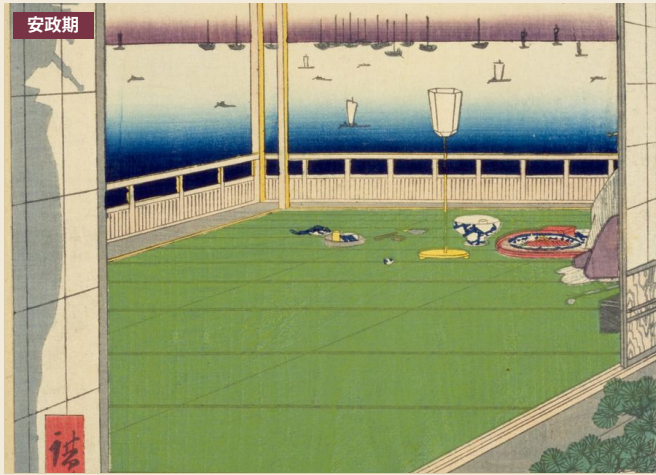
[この場所をGoogleマップで見る →](#)浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%8A%9D%E6%B5%A6>

5

月の岬

Moon Viewing Point

安政4年(1857)8月 / No.115(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 月の岬」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by 江戸村のとくそう, Wikimedia Commons(CC BY-SA 4.0)

浮世絵を読み解く

料亭の座敷から、江戸湾に浮かぶ月を眺める趣向の一枚。手前の障子と行灯、遠くの海に浮かぶ舟の灯りが、月見の宴の静かな情緒を伝えています。

最寄り駅: 都営浅草線 高輪台駅から徒歩5分 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

月の岬

いまの場所

月の岬跡(伊皿子坂周辺)

港区三田4丁目・高輪1丁目付近

歴史

「月の岬」は三田の高台一帯の雅称で、江戸湾を一望できる月見の名所として知られました。すぐそばの伊皿子坂・潮見坂も、坂上から海を見晴らせたことに名の由来があります。埋め立てが進んだ現在は海を望むことはできませんが、坂道と高台の地形は今も当時とほぼ変わらず残っています。

この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BC%8A%E7%9A%BF%E5%AD%90%E5%9D%82>

浅草・蔵前・駒形ルート

台東区・荒川区

蔵前橋周辺から駒形堂・隅田川沿いを北上し、吉原・橋場まで歩く散歩ルート。



起点: 都営浅草線 蔵前駅

終点: 東京メトロ・都バス 南千住・橋場方面

徒步距離目安: 約2.6km

順路

- ① 御厩河岸 → 蔵前橋 (滞在目安 約10分)
- ② 駒形堂吾孀橋 → 駒形堂 (滞在目安 約10分)
- ③ 浅草川大川端宮戸川 → 隅田川(吾妻橋周辺) (滞在目安 約10分)
- ④ 廓中東雲 → 新吉原(吉原神社周辺) (滞在目安 約15分)
- ⑤ 墨田河橋場の渡かわら竈 → 石浜神社(橋場の渡し跡) (滞在目安 約15分)

この順路でGoogleマップの徒歩ルートを開く →

エリアのグルメ



佃煮

鮒佐

文久2年(1862)創業、佃煮の元祖と称される老舗。素材ごとに異なる醤油だれで一品ずつ丁寧に炊き上げる製法を編み出し、今も浅草橋の地で変わらぬ味を守り続けています。

台東區淺草橋2-1-9



どぜう鍋

駒形どぜう 本店

享和元年(1801)創業、駒形堂のすぐそばで江戸庶民の味を伝える
どじょう料理店。味噌仕立てのどぜう鍋は、創業以来変わらぬ製
法で作られている。

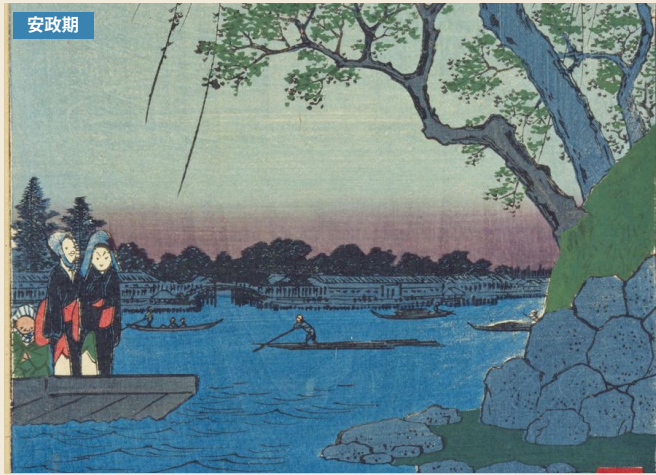
東京都台東区駒形1-7-12

1

御厩河岸

Onmayagashi

安政4年(1857)12月 / No.116(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 御厩河岸」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)

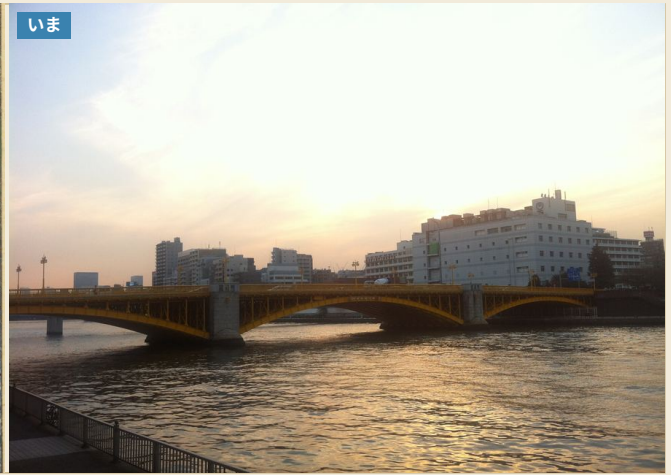


Photo by Nesnad, Wikimedia Commons(CC BY 3.0)

浮世絵を読み解く

御厩河岸の渡し舟に乗り込む人々を、船上から見下ろす構図。大きく傾いた画面構成が特徴的で、対岸に見える蔵屋敷の白壁が、この一帯が幕府の米蔵地帯であったことを物語っています。

最寄り駅: 都営浅草線 蔵前駅から徒歩すぐ 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

御厩河岸

いまの場所

蔵前橋

台東区蔵前2丁目・墨田区横網2丁目

歴史

「御厩」の名は、かつて將軍家の馬を飼育する厩(うまや)がこの地にあったことに由来します。すぐ隣には幕府の米蔵「浅草御蔵」があり、蔵前の地名の由来にもなりました。渡し場は明治以降に橋へと置き換えられ、現在は黄色く塗られた蔵前橋がこの一帯のシンボルとなっています。

この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%94%B5%E5%89%8D%E6%A9%8B>

2

駒形堂吾嬬橋

Komagata Hall and Azumabashi Bridge

安政4年(1857)正月 / No.92(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 駒形堂吾嬬橋」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Douglas P. Perkins, Wikimedia Commons(CC BY 3.0)

浮世絵を読み解く

隅田川岸に建つ駒形堂の脇から、上流に架かる吾妻橋を望む構図。手前には渡し舟や荷舟が行き交い、初詣らしき晴れ着姿の参詣者たちの姿も見えます。

最寄り駅: 都営浅草線 浅草駅からすぐ 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

駒形堂吾嬬橋

いまの場所

駒形堂

台東区雷門2-2-2

歴史

駒形堂は浅草寺の観音像が漁師の網にかかって最初に祀られた地とされる、浅草寺発祥ゆかりのお堂です。現在の建物は平成15年(2003)の再建ですが、今も同じ場所で「浅草観音戒殺碑」とともに残り、隅田川と浅草寺を結ぶ結節点であり続けています。

この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B5%85%E8%8D%89%E5%AF%BA>

3

浅草川大川端宮戸川

Asakusa River, Miyato River, Great Riverbank

安政4年(1857)7月 / No.46(太田記念美術館リスト番号)



適切なライセンスの現地写真が見つからず未掲載です

歌川広重「名所江戸百景 浅草川大川端宮戸川」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)

浮世絵を読み解く

舟の上から隅田川(浅草川)を見晴らす構図で、対岸には家並みと寺社の藁が連なり、川面には帆掛け舟が行き交います。「宮戸川」は浅草付近の隅田川の古い呼び名です。

最寄り駅: 東京メトロ・都営浅草線 浅草駅から徒歩7分 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

浅草川大川端宮戸川

いまの場所

隅田川(吾妻橋周辺)
台東区花川戸1丁目付近

歴史

「宮戸川」は浅草寺の山号「金龍山」の縁起にも登場する、浅草付近の隅田川の雅称です。現在この一帯は東京スカイツリーを望む観光の中心地となり、屋形船や水上バスが行き交う光景に、往時の水運の賑わいの面影が残っています。

[この場所をGoogleマップで見る →](#)浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%9A%85%E7%94%B0%E5%B7%9D>

4

廓中東雲

Dawn Inside the Yoshiwara

安政4年(1857)4月 / No.110(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 廓中東雲」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by 珈琲牛乳, Wikimedia Commons(CC BY 3.0)

浮世絵を読み解く

夜明けの吉原の通りを描いた一枚。桜の頃らしく、通りに植えられた桜並木の下を、朝帰りの客や忘れ物を届けに走る若い衆の姿が描かれています。

最寄り駅: 東京メトロ・都営浅草線 三ノ輪駅から徒歩10分 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

廓中東雲

いまの場所

新吉原(吉原神社周辺)
台東区千束4丁目付近

歴史

新吉原は明暦の大火(1657)を機に日本橋から移転した江戸最大の遊里で、周囲を堀で囲み出入口は大門ひとつという閉ざされた構造を持っていました。廃止は昭和33年(1958)。現在は住宅地となっていますが、吉原神社にはかつて廓内四隅にあった稲荷社が合祀され、当時の記憶を今に伝えています。

この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: [https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%90%89%E5%8E%9F_\(%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E9%83%BD\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%90%89%E5%8E%9F_(%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E9%83%BD))

5

墨田河橋場の渡かわら竈

Tile Kilns and Hashiba Ferry, Sumida River

安政4年(1857)4月 / No.101(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 墨田河橋場の渡かわら竈」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Souka Kinmei, Wikimedia Commons(CC BY 4.0)

浮世絵を読み解く

橋場の渡し場と、その先に立ち上る瓦を焼く窯の煙を描いた一枚。隅田川を挟んで向島の杜を望む、産業と信仰が同居するのどかな川辺の風景です。

最寄り駅: 東京メトロ 南千住駅から徒歩12分 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

墨田河橋場の渡かわら竈

いまの場所

石浜神社(橋場の渡し跡)
荒川区南千住3-28-58

歴史

橋場の渡しは承和2年(835)の記録も残る、隅田川最古級の渡し場のひとつと伝わります。かつて周辺には瓦を焼く窯場が集まっていました。渡し場の守護社であった石浜神社は聖武天皇の時代創建と伝わる荒川区最古級の古社で、現在も渡し場のあった川べりにほど近い場所に鎮座しています。

この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%9F%B3%E6%B5%9C%E7%A5%9E%E7%A4%BE>

千住・葛飾北部ルート

足立区・葛飾区

千住大橋から中川沿いに東へ歩き、新宿・四ツ木の渡し場跡をめぐる散歩ルート。



起点: 京成本線・東京メトロ 千住大橋駅

終点: 京成押上線 四ツ木駅

徒歩距離目安: 約5.7km

順路

- ① 千住の大はし → 千住大橋 (滞在目安 約10分)
- ② にい宿のわたし → 新宿(にいじゅく)の渡し跡 (滞在目安 約10分)
- ③ 四ツ木通用水引ふね → 四ツ木(曳舟川通り) (滞在目安 約10分)

この順路でGoogleマップの徒歩ルートを開く →

エリアのグルメ

適切なライセンスの現地写真が見つからず未掲載です

写真は未掲載です

鰻

尾花

明治元年(1868)創業、「東の尾花、西の野田岩」と並び称される関東屈指の鰻の名店。備長炭でじっくり焼き上げるふっくらとした蒲焼が名物です。

荒川区南千住3-10-11

大衆酒場

千住の永見

創業から80年以上、北千住で下町の飲兵衛たちに愛され続けてきた大衆居酒屋。ときわ通り沿いの、千住宿の面影が残る一軒。

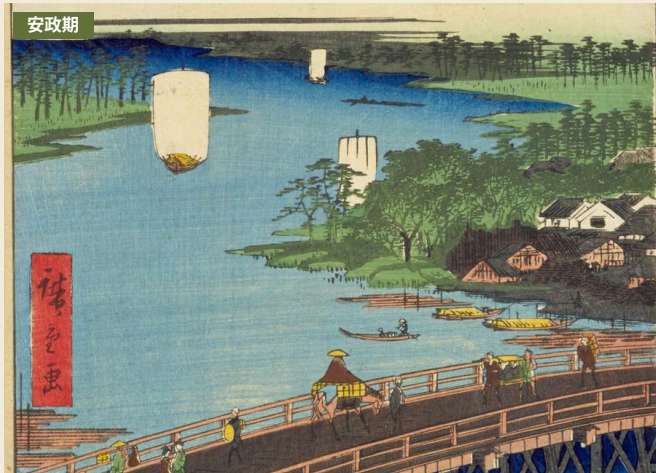
東京都足立区千住2-62

1

千住の大はし

Senju Great Bridge

安政3年(1856)2月 / No.105(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 千住の大はし」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Aimagiyi, Wikimedia Commons(CC BY-SA 3.0 / GFDL)

浮世絵を読み解く

隅田川に架かる千住大橋の上から、筏を組んで運ばれる材木を見下ろす構図。橋の下を悠々と流れる筏と、行き交う人々の姿が、街道の宿場町らしい活気を伝えています。

最寄り駅: 京成本線・東京メトロ・都営 千住大橋駅から徒歩 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

千住の大はし

いまの場所

千住大橋

足立区千住橋戸町・荒川区南千住4丁目

歴史

千住大橋は文禄3年(1594)、隅田川に架けられた最初の橋で、両国橋が架かるまでの約70年間、隅田川唯一の橋であり続けました。日光街道・奥州街道の最初の宿場町「千住宿」の玄関口として栄え、松尾芭蕉が「奥の細道」の旅に出発した地としても知られます。現在の橋は関東大震災の復興事業として昭和2年(1927)に架けられたタイドアーチ橋で、現存最古のタイドアーチ橋として土木学会の選奨土木遺産に選ばれています。

[この場所をGoogleマップで見る →](#)

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8D%83%E4%BD%8F%E5%A4%A7%E6%A9%8B>

2

にい宿のわたし

Nijuku Ferry

安政4年(1857)2月 / No.62(太田記念美術館リスト番号)



渡し場跡地に目立った現地写真が見つからず未掲載です

歌川広重「名所江戸百景 にい宿のわたし」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)

浮世絵を読み解く

中川の渡し舟が、対岸の水戸街道の宿場町「にい宿(新宿)」へと客を運ぶ一枚。棹をさす船頭の向こうに広がる家並みは、江戸から水戸へ抜ける旅人たちが乗り継いだ宿場の入り口でした。

最寄り駅: 京成本線 青砥駅から徒歩15分 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

にい宿のわたし

いまの場所

新宿(にいじゅく)の渡し跡
葛飾区新宿(にいじゅく)付近

歴史

「にい宿」は水戸街道の宿場町のひとつだった新宿(にいじゅく)を指し、中川の渡し舟がここと対岸の金町方面を結んでいました。今も葛飾区の町名「新宿」として残るこの一帯は、渡し場としての役割を昭和の橋の整備とともに終え、現在は住宅地となっています。

この場所をGoogleマップで見る →

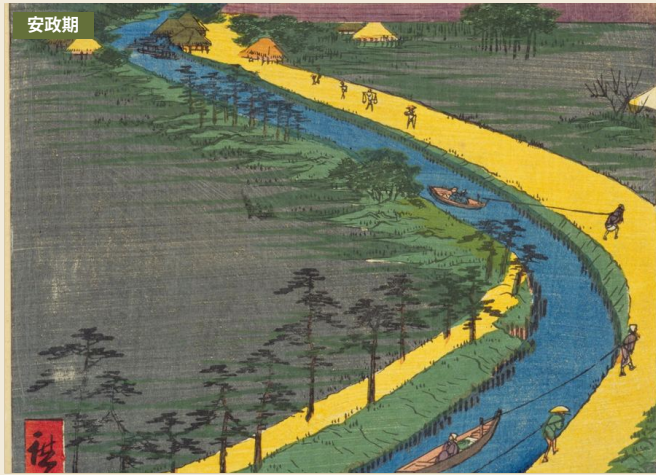
浮世絵原画・解説: [https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%96%B0%E5%AE%BF_\(%E8%91%9B%E9%A3%BE%E5%8C%BA\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%96%B0%E5%AE%BF_(%E8%91%9B%E9%A3%BE%E5%8C%BA))

3

四ツ木通用水引ふね

Towboats Along the Yotsugi-dōri Canal

安政4年(1857)2月 / No.86(太田記念美術館リスト番号)



曳舟川親水公園の適切なライセンスの現地写真が見つからず未掲載です

歌川広重「名所江戸百景 四ツ木通用水引ふね」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)

浮世絵を読み解く

綱を引く人足たちが、舟を人力で進める「曳舟(ひきふね)」の様子を描いた一枚。正式名は「上下之割用水」というこの水路、船を引く光景があまりに印象的だったため、いつしか「曳舟川」と呼ばれるようになりました。

最寄り駅: 京成押上線 四ツ木駅から徒歩 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

四ツ木通用水引ふね

いまの場所

四ツ木(曳舟川通り)
葛飾区四ツ木付近

歴史

この用水路は正式には「上下之割用水(小名木川用水)」といい、船を人力で引いて進む「曳舟(ひきふね)」の光景から、後に「曳舟川」の通称で親しまれました。用水としての役目を終えた後、川は埋め立てられ、現在はその名を継いだ「曳舟川通り」という道路と、一部区間の「曳舟川親水公園」に、往時の水路の記憶が残されています。

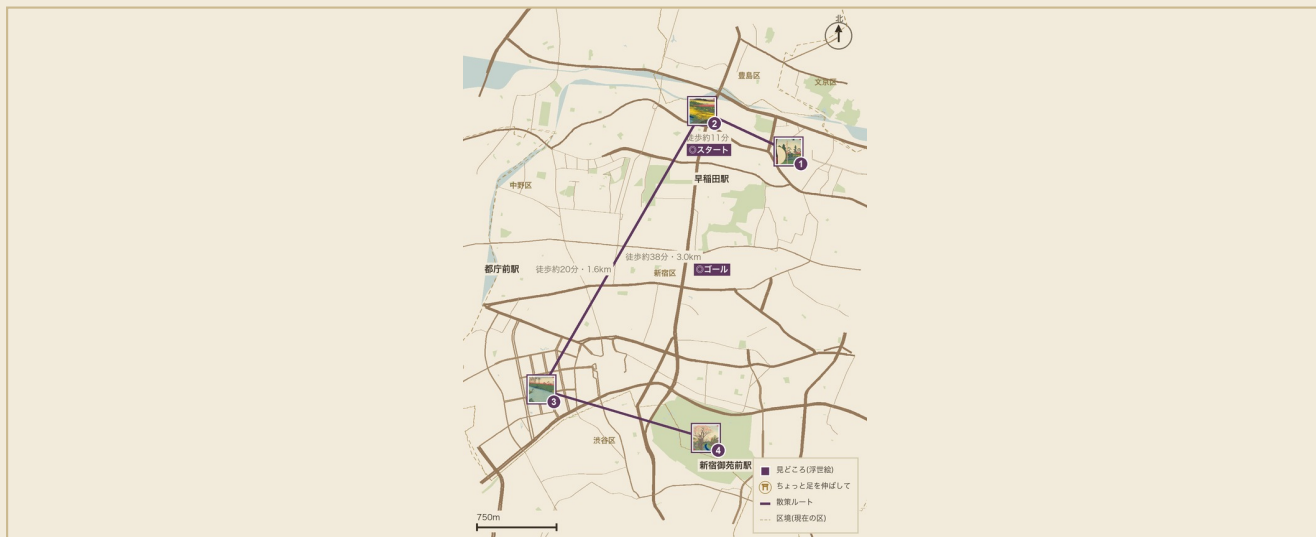
この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9B%B3%E8%88%9F%E5%B7%9D%E8%A6%AA%E6%B0%B4%E5%85%AC%E5%9C%92>

高田・西新宿ルート

新宿区

高田馬場から神田川沿いの面影橋を経て、西新宿の十二社熊野神社まで歩く散歩ルート。



起点: 東京メトロ・都電荒川線 早稲田駅

終点: 都営大江戸線 都庁前駅

徒歩距離目安: 約3.9km

順路

- ① 高田の馬場 → 穴八幡宮(高田馬場流鏑馬の地) (滞在目安 約15分)
- ② 高田姿見のはし侘の橋砂利場 → 面影橋 (滞在目安 約15分)
- ③ 角筈熊野十二社俗称十二そう → 十二社熊野神社 (滞在目安 約15分)
- ④ 玉川堤の花 → 新宿御苑(新宿門周辺) (滞在目安 約15分)

この順路でGoogleマップの徒歩ルートを開く →

エリアのグルメ

写真は未掲載です

牛めし・カツライス 三品食堂

昭和40年(1965)創業、早大西門通り沿いの学生街の名物食堂。「学生が喜ぶものを」と牛めし・カレー・とんかつの三品を看板に掲げてきた。

東京都新宿区西早稲田1-4-25

写真は未掲載です

地鶏焼き鳥 十二社通り 地鶏焼とりや

かつて江戸西郊の景勝地として茶屋が並んだ十二社(じゅうにそう)にちなむ一軒。西新宿の住宅街で、地鶏と地酒を楽しめる焼き鳥店。

東京都新宿区西新宿3-7-27 セントヒルズ西新宿B1F

1

高田の馬場

Takada Horse Riding Grounds

安政4年(1857)2月 / No.100(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 高田の馬場」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Daderot, Wikimedia Commons(CC0)

浮世絵を読み解く

馬場を駆ける騎馬武者と、それを見物する人々を描いた一枚。まっすぐに整備された馬場と、奥に広がる田園風景の対比が、郊外らしいのどかさを伝えています。

最寄り駅: 東京メトロ 早稲田駅から徒歩3分 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

高田の馬場

いまの場所

穴八幡宮(高田馬場流鏑馬の地)

新宿区西早稲田2-1-11

歴史

高田馬場は元和8年(1622)、幕府が旗本の馬術・弓術の鍛錬のために設けた馬場です。今も続く「高田馬場流鏑馬」は、8代将軍・徳川吉宗が世嗣の疱瘡平癒を祈願して奉納させたのが始まりと伝わり、現在も穴八幡宮の神事として毎年10月に近くの水稲荷公園(旧・箱根山)で執り行われています。地名は現在の「高田馬場」駅周辺にも受け継がれていますが、実際の馬場は少し離れたこの一帯にありました。

[この場所をGoogleマップで見る →](#)

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A9%B4%E5%85%AB%E5%B9%A1%E5%AE%AE>

2

高田姿見のはし俵の橋砂利場

Sugataminohashi Bridge, Omokagenohashi Bridge and Jariba at Takada

安政4年(1857)正月 / No.96(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 高田姿見のはし俵の橋砂利場」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Tak1701d, Wikimedia Commons(CC BY-SA 3.0 / GFDL)

浮世絵を読み解く

神田川に架かる姿見の橋(現・面影橋)と、川べりの砂利場を描いた一枚。橋の名の通り、水面に姿を映して眺める風流な行楽地として親しまれた様子が伝わってきます。

最寄り駅: 都電荒川線 面影橋停留場からすぐ 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

高田姿見のはし俵の橋砂利場

いまの場所

面影橋

新宿区side高田1丁目・豊島区高田1丁目

歴史

「姿見の橋」「俵(面影)の橋」は同じ場所を指す橋の別名とされ、在原業平がこの水面に姿を映したという伝説にちなむと伝わります。神田川沿いは桜の名所としても知られ、現在も都電荒川線(東京さくらトラム)の「面影橋」停留場のすぐそばに、その名を受け継いだ橋が架かっています。

この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: [https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%9D%A2%E5%BD%B1%E6%A9%8B_\(%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E9%83%BD\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%9D%A2%E5%BD%B1%E6%A9%8B_(%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E9%83%BD))

3

角筈熊野十二社俗称十二そう

Kumano J ū nisha Shrine, Tsunohazu, known as "J ū nis ō "

安政3年(1856)7月 / No.43(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 角筈熊野十二社俗称十二そう」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by R96340, Wikimedia Commons(CC BY-SA 4.0)

浮世絵を読み解く

熊野十二社の社と、その脇に広がる池を描いた一枚。手前の茶屋で涼む人々の姿から、江戸庶民が郊外まで足を延ばして楽しんだ行楽地としての賑わいが伝わってきます。

最寄り駅: 都営大江戸線 都庁前駅から徒歩5分 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

角筈熊野十二社俗称十二そう

いまの場所

十二社熊野神社
新宿区西新宿2-11-2

歴史

室町時代、諸国を旅した鈴木九郎という人物が、故郷紀州熊野の十二所権現をこの地に勧請したのが始まりと伝わります。江戸時代には社の脇に広がる「十二社池」が滝と共に行楽地として賑わい、「十二社」の名で親しまれました。池は戦後に埋め立てられましたが、神社は現在も超高層ビル街となった西新宿の一角、新宿中央公園に隣接する形で600年以上その地を守り続けています。

この場所をGoogleマップで見える →

浮世絵原画・解説: [https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%86%8A%E9%87%8E%E7%A5%9E%E7%A4%BE_\(%E6%96%B0%E5%AE%BF%E5%8C%BA\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%86%8A%E9%87%8E%E7%A5%9E%E7%A4%BE_(%E6%96%B0%E5%AE%BF%E5%8C%BA))

4

玉川堤の花

Blossoms on the Tama River Embankment

安政3年(1856)2月 / No.71(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 玉川堤の花」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo, Wikimedia Commons(CC BY-SA 2.5)

浮世絵を読み解く

玉川上水の堤に咲き誇る満開の桜並木を描いた一枚。実はこの桜、描かれてすぐに撤去されてしまった「幻の名所」でした。

最寄り駅: 東京メトロ丸ノ内線 新宿御苑前駅から徒歩5分 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

玉川堤の花

いまの場所

新宿御苑(新宿門周辺)

新宿区新宿1丁目

歴史

安政3年(1856)2月に植えられた桜並木は評判を呼びましたが、「御用木」に指定されていたことが幕府の目に留まり、わずか1ヶ月後には伐採が命じられたと伝わります。現在の新宿御苑・新宿門付近にあたる場所と考えられています。

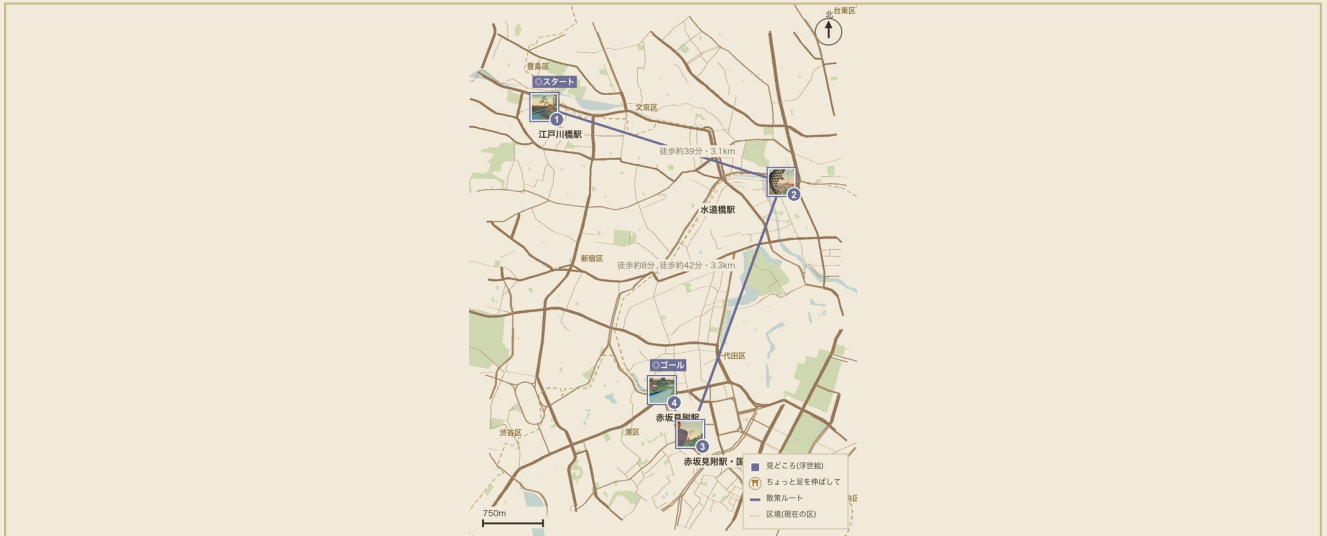
[この場所をGoogleマップで見る →](#)

浮世絵原画・解説: <https://www.nippon.com/ja/guide-to-japan/gu004031/>

麴町・駿河台ルート

千代田区・文京区・港区

関口芭蕉庵から水道橋を経て、日枝神社・弁慶橋まで歩く散歩ルート。距離が長いので、区間によっては電車を使うのもおすすめです。



起点: 東京メトロ 江戸川橋駅

終点: 東京メトロ 赤坂見附駅

徒歩距離目安: 約7.1km

順路

- ① せき口上水端はせを庵樗やま → 関口芭蕉庵 (滞在目安 約20分)
- ② 水道橋駿河台 → 水道橋 (滞在目安 約10分)
- ③ 糺町一丁目山王祭ねり込 → 日枝神社 (滞在目安 約20分)
- ④ 外桜田弁慶堀糺町 → 弁慶橋・弁慶堀 (滞在目安 約10分)

[この順路でGoogleマップの徒歩ルートを開く →](#)

エリアのグルメ

写真は未掲載です

うな重

うなぎ秋本

明治42年(1909)創業、麴町・半蔵門で百余年続くうなぎ屋。「割きたて・蒸したて・焼きたて」を信条に、四代にわたり職人技を受け継いでいる。

東京都千代田区麴町3-4-4

写真は未掲載です

欧風カレー

ボンディ 神保町本店

昭和48年(1973)創業、「欧風カレー」というジャンルを生み出した神保町の名店。水道橋・お茶の水にもほど近く、神田カレージャンプリ初代王者にも輝いた。

東京都千代田区神田神保町2-3 神田古書センター2F

1

せき口上水端はせを庵椿やま

Bashō's Hermitage and Camellia Hill on the Kanda Aqueduct at Sekiguchi

安政4年(1857)4月 / No.74(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 せき口上水端はせを庵椿やま」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Kentin, Wikimedia Commons(CC BY-SA 3.0 / GFDL)

浮世絵を読み解く

神田上水の取水口(関口大洗堰)脇の椿山と、松尾芭蕉が暮らした庵を描いた一枚。水面に映る椿の花と、静かな水辺の庵という、俳人の隠棲にふさわしい趣ある構図です。

最寄り駅: 東京メトロ 江戸川橋駅から徒歩8分 滞在目安: 約20分

広重が描いた場所

せき口上水端はせを庵椿やま

いまの場所

関口芭蕉庵

文京区関口2-11-3

歴史

延宝5年(1677)から3年ほど、松尾芭蕉は神田上水の改修工事に関わる仕事をしながらこの地に暮らしたと伝わります。後にゆかりの人々によって芭蕉を偲ぶ庵と池が整備され、現在も「関口芭蕉庵」として、句碑や芭蕉像とともに静かな庭園が保たれています。

この場所をGoogleマップで見る →

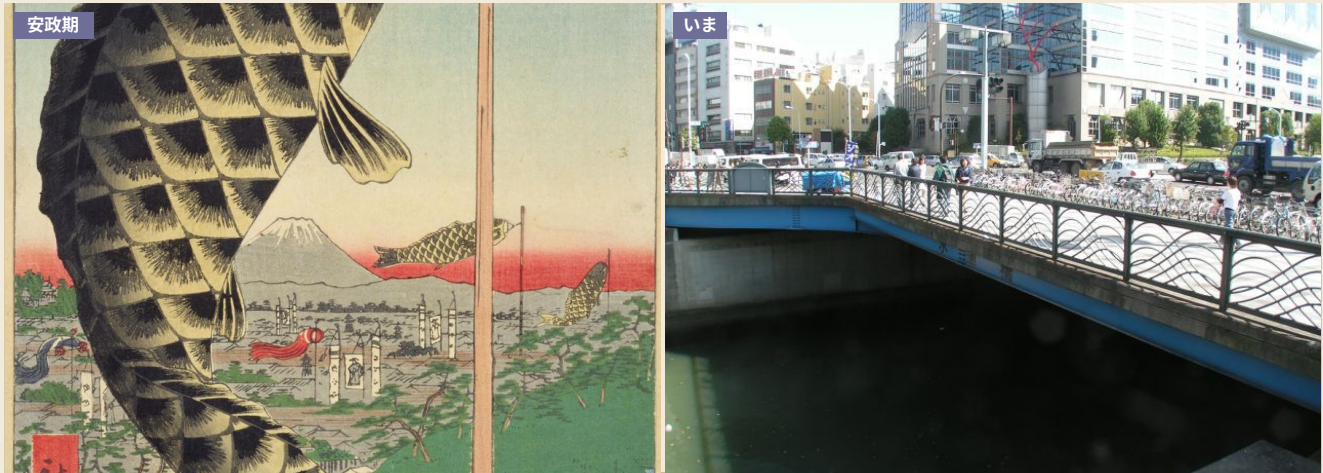
浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%96%A2%E5%8F%A3%E8%8A%AD%E8%95%89%E5%BA%B5>

2

水道橋駿河台

Suid ō bashi Bridge and Surugadai

安政4年(1857)閏5月 / No.33(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 水道橋駿河台」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン) Photo by Ribbon, Wikimedia Commons(CC BY-SA 3.0 / GFDL)

浮世絵を読み解く

神田川に架かる水道橋越しに、対岸の駿河台の高台と鯉のぼりを描いた一枚。5月の節句らしい大小さまざまな鯉のぼりが空を泳ぐ、季節感あふれる構図です。

最寄り駅: JR・都営三田線 水道橋駅から徒歩 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

水道橋駿河台

いまの場所

水道橋

千代田区神田三崎町1丁目・文京区後楽1丁目

歴史

橋の名は、すぐそばに神田上水の懸樋(かけひ、水道管を通す木製の橋)が架かっていたことに由来します。駿河台は徳川家康に従って駿河国から江戸へ移った家臣たちの屋敷地であったことが地名の由来と伝わります。現在の橋は昭和初期の架け替えで、橋の下を流れる神田川と、頭上を通る東京メトロ丸ノ内線の高架が、新旧の交通が交差する独特の景観を作っています。

この場所をGoogleマップで見る →

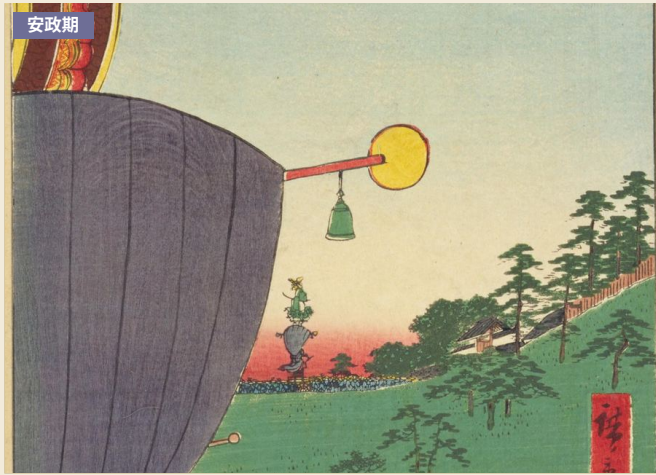
浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B0%B4%E9%81%93%E6%A9%8B>

3

麴町一丁目山王祭ねり込

Sann ō Festival Procession at Kōjimachi Itchōme

安政3年(1856)7月 / No.14(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 麴町一丁目山王祭ねり込」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Immanuelle, Wikimedia Commons(CC BY-SA 4.0)

浮世絵を読み解く

麴町一丁目の通りを練り歩く山王祭の山車行列を、屋根の上から見下ろす構図。沿道を埋め尽くす見物人と、大きく描かれた山車の飾りが、江戸有数の祭りの熱気を伝えています。

最寄り駅: 東京メトロ 赤坂見附駅・国会議事堂前駅からすぐ 滞在目安: 約20分

広重が描いた場所

麴町一丁目山王祭ねり込

いまの場所

日枝神社
千代田区永田町2-10-5

歴史

日枝神社の山王祭は、神田明神の神田祭と並ぶ「江戸三大祭」のひとつで、将軍上覧の祭礼として「天下祭」とも呼ばれた格式を誇りました。麴町一丁目はその行列が通った表通りのひとつです。現在も6月の山王祭では、隔年で数百人からなる本社神幸祭の行列が千代田区・中央区一帯を練り歩き、往時の賑わいを今に伝えています。

この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A5%E6%9E%B8%E7%A5%9E%E7%A4%BE>

4

外桜田弁慶堀糺町

Benkei Moat from Soto-Sakurada to Kōjimachi

安政3年(1856)5月 / No.73(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 外桜田弁慶堀糺町」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン) Photo by リザグレ5, Wikimedia Commons(CC BY-SA 4.0)

浮世絵を読み解く

江戸城外堀の一部である弁慶堀越しに、麴町方面の武家屋敷の藁を望む構図。堀端に広がる緑と、水面に映る空の対比が、外堀ならではの開放的な眺めを伝えています。

最寄り駅: 東京メトロ 赤坂見附駅から徒歩 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

外桜田弁慶堀糺町

いまの場所

弁慶橋・弁慶堀

千代田区紀尾井町・港区元赤坂1丁目

歴史

弁慶堀の名は、江戸城普請に携わった大工の棟梁・弁慶小左衛門に由来すると伝わります。かつて神田にあった弁慶橋は明治18年(1885)の下水道工事で撤去されましたが、明治22年(1889)にその廃材を用いてこの堀に移築されました。現在の橋は昭和60年(1985)の架け替えですが、木製の欄干と擬宝珠は今も江戸の面影を伝えています。

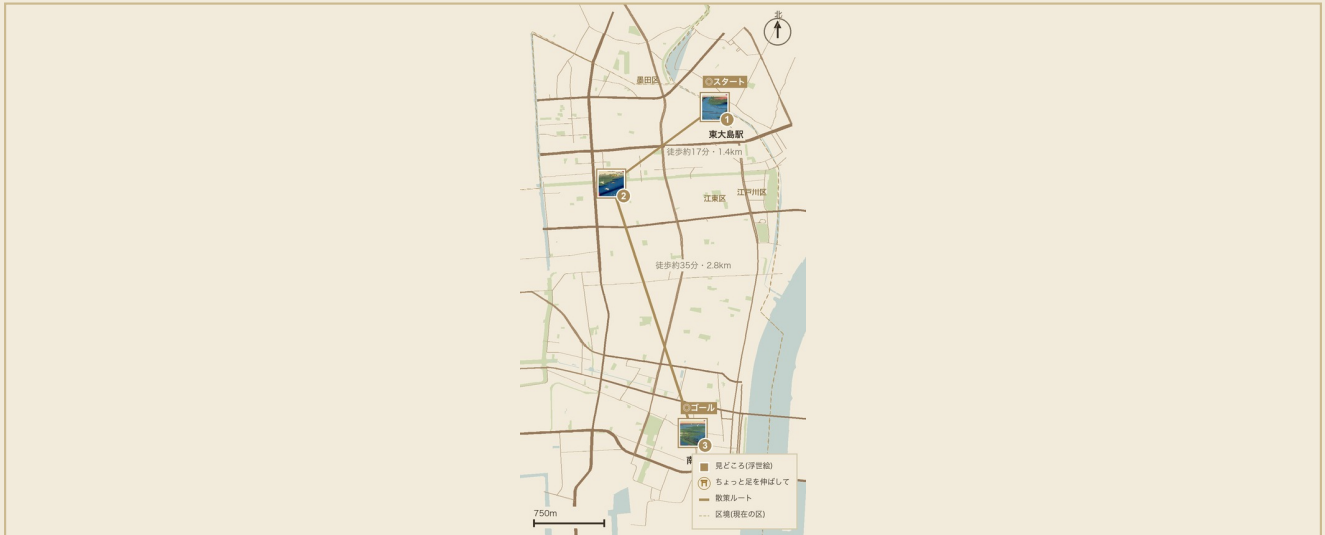
この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BC%81%E6%85%B6%E6%A9%8B>

深川・小名木川東部ルート

江東区

中川船番所資料館から逆井の渡し跡を経て、富賀岡八幡宮(元八幡)まで歩く散歩ルート。



起点: 都営新宿線 東大島駅

終点: 東京メトロ東西線 南砂町駅

徒歩距離目安: 約4.2km

順路

- ① 中川口 → 中川船番所資料館 (滞在目安 約20分)
- ② 逆井のわたし → 逆井橋(逆井の渡し跡) (滞在目安 約10分)
- ③ 砂むら元八まん → 富賀岡八幡宮(元八幡) (滞在目安 約15分)

この順路でGoogleマップの徒歩ルートを開く →

エリアのグルメ

写真は未掲載です

もんじゃ焼き

もんじゃ はしもと

大島駅から徒歩7分、地元で長く親しまれてきたもんじゃ焼き店。下町の食文化が今も根付く小名木川流域らしい一軒。

東京都江東区大島8-25-18

写真は未掲載です

あさりコロッケ

あさり屋さん(砂町銀座商店街)

浦安の行商から始まり、砂町銀座商店街で50年以上続く漁師直営店。あさりの出汁を効かせたコロッケは行列ができる名物。

東京都江東区北砂4-25-5

2

逆井のわたし

Sakasai Ferry

安政4年(1857)2月 / No.77(太田記念美術館リスト番号)



逆井橋の適切なライセンスの現地写真が見つからず未掲載です

歌川広重「名所江戸百景 逆井のわたし」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)

浮世絵を読み解く

旧中川を渡る渡し舟と、川べりに茂る葦原を描いた一枚。「逆井」というちょっと物騒な名前、実は潮の満ち引きでこのあたりの川の流れが向きを変えることがあったからだとか。

最寄り駅: 都営新宿線 東大島駅から徒歩10分 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

逆井のわたし

いまの場所

逆井橋(逆井の渡し跡)

江東区大島9丁目・墨田区江東橋付近

歴史

逆井の渡しは、亀戸と大島の間で旧中川を渡す渡し舟でした。「逆井」の名は、潮の満ち引きでこのあたりの川の流れが逆になることがあったためとも言われます。渡し場のあった場所には現在、その名を継いだ「逆井橋」が架けられています。

[この場所をGoogleマップで見る →](#)浮世絵原画・解説: <https://www.nippon.com/ja/guide-to-japan/gu004091/>

3

砂むら元八まん

Moto-Hachiman Shrine, Sunamura

安政3年(1856)4月 / No.103(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 砂むら元八まん」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Beryllium Transistor, Wikimedia Commons(CC BY-SA 4.0)

浮世絵を読み解く

砂村新田の田畑越しに、元八幡の社を望む一枚。この社、実は深川の富岡八幡宮が寛永4年(1627)にここから分かれて移っていったという、いわば「本家」筋にあたります。

最寄り駅: 東京メトロ東西線 南砂町駅から徒歩15分 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

砂むら元八まん

いまの場所

富賀岡八幡宮(元八幡)
江東区南砂7-14-18

歴史

富賀岡八幡宮は、深川の富岡八幡宮が寛永4年(1627)にこの地から分祀・遷座したと伝わることから「元八幡」の通称で親しまれています。深川の八幡様の「本家」を名乗る、静かな穴場スポットです。

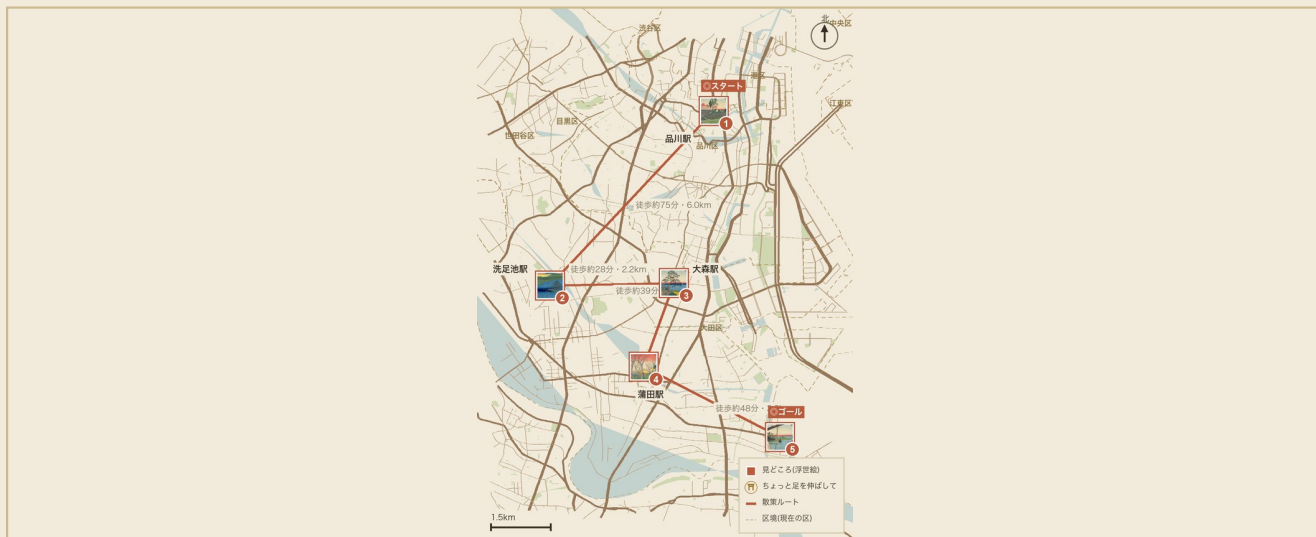
この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%AF%8C%E8%B3%80%E5%B2%A1%E5%85%AB%E5%B9%A1%E5%AE%AE>

大森・羽田ルート

品川区・大田区

御殿山から大森・蒲田を経て、羽田の穴守稲荷神社まで海沿いに南下する散歩ルート。



起点: JR・京急 品川駅

終点: 京急空港線 穴守稲荷駅

徒歩距離目安: 約10.5km

順路

- ① 品川御殿やま → 御殿山庭園 (滞在目安 約20分)
- ② 千束の池袈裟懸松 → 洗足池 (滞在目安 約15分)
- ③ 八景坂鎧掛松 → 八景坂(大森貝塚遺跡庭園周辺) (滞在目安 約15分)
- ④ 蒲田の梅園 → 蒲田(女塚神社周辺) (滞在目安 約15分)
- ⑤ はねたのわたし弁天の社 → 穴守稲荷神社 (滞在目安 約20分)

この順路でGoogleマップの徒歩ルートを開く →

エリアのグルメ

適切なライセンスの現地写真が見つからず未掲載です

写真は未掲載です

海苔

鈴吉海苔店

明治元年(1868)創業。かつて日本有数の海苔養殖地だった大森で、150年以上にわたり海苔一筋に商いを続ける老舗。焼き立ての風味豊かな板海苔が名物です。

大田区大森本町2-19-9

焼き海苔

海苔の松尾

寛文9年(1669)創業。大森で最初にできた海苔問屋と伝わる老舗。350年以上にわたり、海苔養殖発祥の地・大森の味を伝えている。

東京都大田区大森本町付近

1

品川御殿やま

Gotenyama, Shinagawa

安政3年(1856)4月 / No.68(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 品川御殿やま」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by Kamemaru2000, Wikimedia Commons(CC BY-SA 3.0 / GFDL)

浮世絵を読み解く

満開の桜と、その向こうに広がる品川の海を描いた一枚。将軍の鷹狩り休憩所「御殿」があったことに由来するこの高台、幕末には黒船来航に備えた台場を築くため、山ごと大きく削り取られてしまいました。

最寄り駅: JR・京急 品川駅から徒歩12分 滞在目安: 約20分

広重が描いた場所

品川御殿やま

いまの場所

御殿山庭園

品川区北品川4-7-35

歴史

御殿山は徳川将軍家の御殿(鷹狩りの休憩所)が置かれたことに由来する地名で、江戸有数の桜の名所として賑わいました。幕末には黒船来航を受けて台場築造のため山が大きく削られ、明治以降も鉄道敷設でさらに姿を変えましたが、現在も一部が「御殿山庭園」として整備され、往時の高台の緑を今に伝えています。

この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://oniwa.garden/gotenyama-garden-%E5%BE%A1%E6%AE%BF%E5%B1%B1%E5%BA%AD%E5%9C%92/>

2

千束の池袈裟懸松

“Robe-Hanging Pine” at Senzoku Pond

安政3年(1856)2月 / No.45(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 千束の池袈裟懸松」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)

Photo by Kentin, Wikimedia Commons(CC BY-SA 4.0)

浮世絵を読み解く

松の太木を主役に、日蓮上人が袈裟を掛けたと伝わる伝説を描いた一枚。千束の池は、日蓮が身延山から常陸へ向かう途中、足を洗って旅の疲れを癒したという伝説にちなむ名前です。

最寄り駅: 東急池上線 洗足池駅から徒歩1分 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

千束の池袈裟懸松

いまの場所

洗足池

大田区南千束2丁目

歴史

千束の池は現在の洗足池(大田区南千束)にあたり、東急池上線洗足池駅前に今も1キロほどの周囲を持つ湧水池として残っています。安政3年(1856)2月の作。

[この場所をGoogleマップで見る →](#)

浮世絵原画・解説: <https://www.nippon.com/ja/guide-to-japan/gu004093/>

3

八景坂鎧掛松

"Armor-Hanging Pine", Hakkeizaka Slope

安政3年(1856)5月 / No.67(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 八景坂鎧掛松」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by DoWhile, Wikimedia Commons(Public Domain)

浮世絵を読み解く

八景坂の頂にそびえる松の大木越しに、房総まで見晴らす一枚。この松、奥州へ向かう源義家が鎧を掛けて休んだという伝説から「鎧掛松」と名付けられました。

最寄り駅: JR 大森駅からすぐ 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

八景坂鎧掛松

いまの場所

八景坂(大森貝塚遺跡庭園周辺)
大田区山王1丁目付近

歴史

「鎧掛松」の名は、後三年の役で奥州へ向かう源義家がこの松に鎧を掛けて休んだという伝説に由来すると伝わります。大森一帯は明治10年(1877)、アメリカ人動物学者エドワード・モースが列車の車窓から貝殻の層を発見したことで知られる「大森貝塚」の地でもあり、現在は坂のすぐ近くに大森貝塚遺跡庭園が整備されています。

この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E6%A3%AE%E8%B2%9D%E5%A1%9A>

4

蒲田の梅園

Plum Garden, Kamata

安政4年(1857)2月 / No.6(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 蒲田の梅園」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo by C2revenge, Wikimedia Commons(CC BY-SA 4.0)

浮世絵を読み解く

白梅越しに梅見客で賑わう蒲田の梅園を見下ろす一枚。文政年間、薬屋の主人が自邸に植えた梅がいつしか評判を呼び、明治以降は皇族まで訪れる名所に育ちました。

最寄り駅: JR・東急・京急 蒲田駅から徒歩15分 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

蒲田の梅園

いまの場所

蒲田(女塚神社周辺)
大田区西蒲田1丁目付近

歴史

蒲田の梅屋敷は文政年間(1818-1830)に薬屋の主人が自邸に梅を植えたのが始まりと伝わり、明治以降も皇族や要人が訪れる名所として賑わいました。都市化とともに梅園は姿を消しましたが、周辺にはこの地の伝承にちなむ女塚神社などが今も残り、往時の面影をわずかに伝えています。

[この場所をGoogleマップで見る →](#)

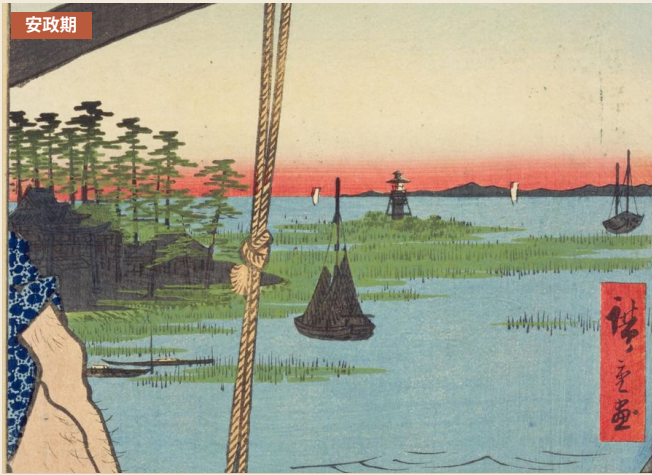
浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%92%B2%E7%94%B0%E6%A2%85%E5%B1%8B%E6%95%B7%E8%B7%A1>

5

はねたのわたし弁天の社

Haneda Ferry and Benten Shrine

安政5年(1858)8月 / No.37(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 はねたのわたし弁天の社」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン) Photo by Aimaimyi, Wikimedia Commons(CC BY-SA 3.0 / GFDL)

浮世絵を読み解く

羽田の渡し舟と、海辺に鎮座する弁天の社を描いた一枚。実はこの近く、文化元年(1804)に堤防が高潮で決壊した際、村人が神様を祀ったのが穴守稲荷神社の始まりだと伝わります。

最寄り駅: 京急空港線 穴守稲荷駅から徒歩3分 滞在目安: 約20分

広重が描いた場所

はねたのわたし弁天の社

いまの場所

穴守稲荷神社
大田区羽田5-2-7

歴史

羽田は江戸湾に面した漁師町で、対岸の川崎大師方面へ渡る「羽田の渡し」で知られました。文化元年(1804)、埋め立て地の堤防が高潮で決壊した際、村人が稲荷神を祀ったのが穴守稲荷神社の始まりです。戦後、羽田飛行場拡張のため元の社地は接収されましたが、現在地に遷座して今も信仰を集め、京急線の駅名にもその名を残しています。

この場所をGoogleマップで見る →

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A9%B4%E5%AE%88%E7%A8%B2%E8%8D%B7%E7%A5%9E%E7%A4%BE>

番外編・都外ルート

千葉県市川市・浦安市、埼玉県川口市、東京都武蔵野市、千葉県我孫子市(利根川)

名所江戸百景のうち、東京23区の外に描かれた6景をまとめた番外編。徒歩でつなぐ1本のルートではなく、それぞれ個別に訪ねる形になります。



起点: (各景ごとに最寄り駅が異なります)

終点: (各景ごとに最寄り駅が異なります)

徒歩距離目安: 約Nonekm

順路

- ① 真間の紅葉手古那の社継はし → 手児奈霊神堂(弘法寺) (滞在目安 約15分)
- ② 鴻の台とね川風景 → 里見公園(国府台) (滞在目安 約20分)
- ③ 堀江ねこざね → 清瀧神社(堀江) (滞在目安 約10分)
- ④ 川口のわたし善光寺 → 錫杖寺(川口の善光寺) (滞在目安 約15分)
- ⑤ 井の頭の池弁天の社 → 井の頭恩賜公園・弁天堂 (滞在目安 約20分)
- ⑥ 利根川ばらばらまつ → 利根川(布佐周辺、推定地) (滞在目安 約15分)

この順路でGoogleマップの徒歩ルートを開く →

1

真間の紅葉手古那の社継はし

Maple Trees at Mama, Tekona Shrine and Tsugihashi Bridge

安政4年(1857)正月 / No.16(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 真間の紅葉手古那の社継はし」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo, Wikimedia Commons(CC BY 4.0)

浮世絵を読み解く

紅葉に彩られた真間の里、手児奈を祀る社と継橋を描いた一枚。手児奈は万葉集にも詠まれた伝説の美女で、その悲恋の物語が今も語り継がれています。

最寄り駅: 京成本線 国府台駅から徒歩15分 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

真間の紅葉手古那の社継はし

いまの場所

手児奈霊神堂(弘法寺)

千葉県市川市真間4-5-21

歴史

手児奈霊神堂は千葉県市川市真間にあり、境内は今も「真間の紅葉」の名所として親しまれています。安政4年(1857)正月の作で、名所江戸百景の中でも数少ない東京都外(下総国)を描いた一枚です。

[この場所をGoogleマップで見る →](#)

浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%90%8D%E6%89%80%E6%B1%9F%E6%88%B8%E7%99%BE%E6%99%AF>

2

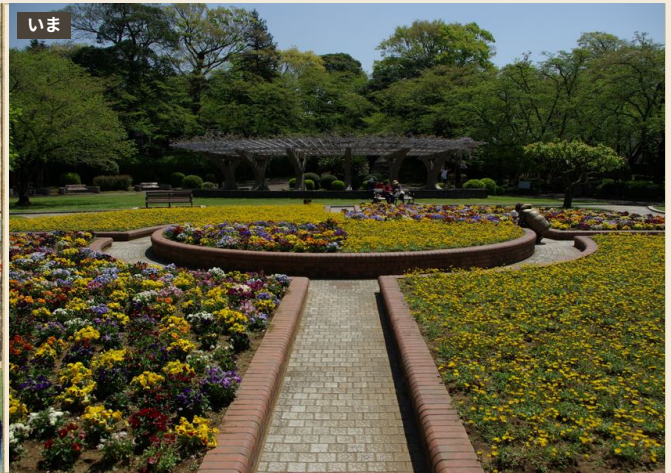
鴻の台とね川風景

View of Kō nodai and Tone River

安政3年(1856)5月 / No.90(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 鴻の台とね川風景」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo, Wikimedia Commons(CC BY-SA 3.0)

浮世絵を読み解く

国府台の高台から見晴らす、当時の「とね川」(現在の江戸川)の広々とした景観を描いた一枚。

最寄り駅: 京成本線 国府台駅から徒歩10分 滞在目安: 約20分

広重が描いた場所

鴻の台とね川風景

いまの場所

里見公園(国府台)

千葉県市川市国府台3-9

歴史

鴻の台は現在の千葉県市川市国府台にあたり、太日川(現在の江戸川)を見下ろす景勝地でした。今は里見公園として整備され、桜の名所になっています。安政3年(1856)5月の作。

[この場所をGoogleマップで見る →](#)浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%90%8D%E6%89%80%E6%B1%9F%E6%88%B8%E7%99%BE%E6%99%AF>

3

堀江ねこざね

Horie and Nekozone

安政3年(1856)2月 / No.85(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 堀江ねこざね」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo, Wikimedia Commons(CC BY-SA 3.0)

浮世絵を読み解く

干潟の広がる堀江の浜辺で、貝を採る人々を描いた一枚。

最寄り駅: 東京メトロ東西線 浦安駅から徒歩12分 滞在目安: 約10分

広重が描いた場所

堀江ねこざね

いまの場所

清瀧神社(堀江)

千葉県浦安市堀江4-1-8

歴史

堀江は現在の千葉県浦安市堀江にあたり、当時は江戸前の海苔や貝の産地として知られていました。地元の鎮守・清瀧神社が今も残っています。安政3年(1856)2月の作。

[この場所をGoogleマップで見る →](#)浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%90%8D%E6%89%80%E6%B1%9F%E6%88%B8%E7%99%BE%E6%99%AF>

4

川口のわたし善光寺

Kawaguchi Ferry and Zenkōji Temple

安政4年(1857)2月 / No.98(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 川口のわたし善光寺」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)



Photo, Wikimedia Commons(CC BY-SA 4.0)

浮世絵を読み解く

荒川(当時の荒川)を渡る渡し舟と、対岸の善光寺(錫杖寺)を描いた一枚。

最寄り駅: JR京浜東北線 川口駅から徒歩10分 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

川口のわたし善光寺

いまの場所

錫杖寺(川口の善光寺)

埼玉県川口市本町2-2-5

歴史

川口の渡しは日光御成道の要衝で、対岸の錫杖寺は「川口の善光寺」として親しまれた古刹です。現在の埼玉県川口市にあたります。安政4年(1857)2月の作。

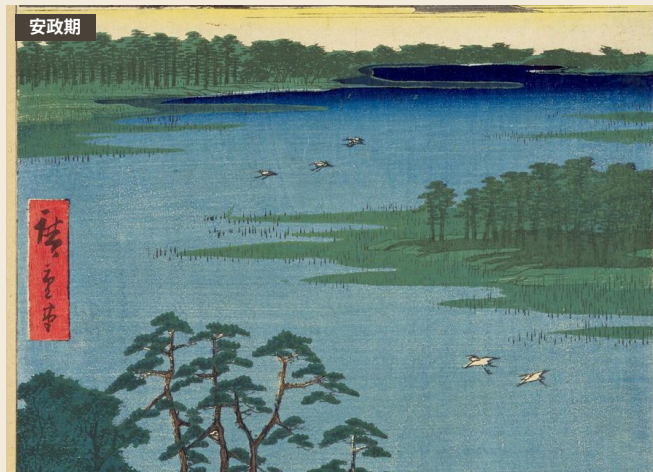
[この場所をGoogleマップで見る →](#)浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%90%8D%E6%89%80%E6%B1%9F%E6%88%B8%E7%99%BE%E6%99%AF>

5

井の頭の池弁天の社

Benten Shrine at Inokashira Pond

安政3年(1856)4月 / No.52(太田記念美術館リスト番号)



歌川広重「名所江戸百景 井の頭の池弁天の社」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)

Photo, Wikimedia Commons(CC BY-SA 4.0)

浮世絵を読み解く

神田上水の水源・井の頭池に浮かぶ弁天堂を描いた一枚。

最寄り駅: JR中央線・京王井の頭線 吉祥寺駅から徒歩5分 滞在目安: 約20分

広重が描いた場所

井の頭の池弁天の社

いまの場所

井の頭恩賜公園・弁天堂

東京都武蔵野市御殿山1-18-31

歴史

井の頭池は江戸の飲み水を支えた神田上水の水源地で、池に浮かぶ弁財天は今も井の頭恩賜公園に祀られています。現在の三鷹市・武蔵野市境にあたり、東京都内ではあるものの23区からは離れた立地です。安政3年(1856)4月の作。

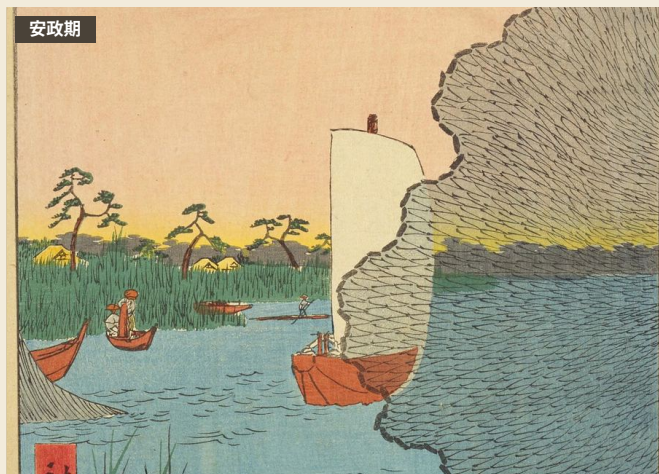
[この場所をGoogleマップで見る →](#)浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%90%8D%E6%89%80%E6%B1%9F%E6%88%B8%E7%99%BE%E6%99%AF>

6

利根川ばらばらまつ

Scattered Pines, Tone River

安政3年(1856)8月 / No.38(太田記念美術館リスト番号)



安政期



いま

歌川広重「名所江戸百景 利根川ばらばらまつ」国立国会図書館デジタルコレクション(パブリックドメイン)

Photo, Wikimedia Commons(CC BY 3.0)

浮世絵を読み解く

利根川の川岸に点々と立つ松を描いた一枚。「ばらばらまつ」という不思議な名は、まばらに生えた松の様子に由来すると言われています。

最寄り駅: JR成田線 布佐駅から徒歩15分程度(推定) 滞在目安: 約15分

広重が描いた場所

利根川ばらばらまつ

いまの場所

利根川(布佐周辺、推定地)

千葉県我孫子市布佐

歴史

利根川は江戸の水運を支えた大河川で、この一枚は東京から遠く離れた本流域の風景を描いています。正確な地点は諸説ありますが、我孫子市布佐周辺との説が有力です。安政3年(1856)8月の作。名所江戸百景の中でも最も江戸から遠い場所を描いた一枚のひとつです。

[この場所をGoogleマップで見る →](#)浮世絵原画・解説: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%90%8D%E6%89%80%E6%B1%9F%E6%88%B8%E7%99%BE%E6%99%AF>